

528

50

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 5<sup>m</sup> 0 1 2 3 4 5

始





小  
供  
服  
裁  
縫  
獨  
習  
書

全



## は し が き

子供服が非常なる勢を以て普及されて居るのは、活動に便利で、体裁優美で、経済的なる所以であります。此の勢を以て進んだならば、近き將來に於て子供の服装は全部洋服となつて終うだらうと思ひます、又そうなる筈だと思ひます。

されば此の時代の要求に應ずる爲め、裁縫専門學校では本年度より教授法を、前期は和服、後期は子供服に改正され又地方の各高等女學校では卒業同窓者の爲めに、子供服裁縫の夏期講習會を開催する現況であります。

子供服は和服と同様に手軽に縫はねばならぬ時代が來ました又

家庭で縫へば三分の一位の生産費にて出来て、非常の趣味になります、又副業として相當の収入ともなる譯であります故充分研究せられんことを

從來の子供服裁縫書には、用布の名稱はありますが實物の生地が添へてなき爲め、研究者は非常に不便を感ずるのであります、何となれば子供服の用布は輸入品のためか、殊に夏物の如きは舶來名稱多く其撰澤に苦心するのであります、地方の方などは殊更其の感を深くす、本書は新らしき試みとして卷末に用布の實物見本を添へてありますから、研究者は居ながらにして實際に用布の名稱を覺えると同時に其撰澤も自由であります、幸

ひに會員の便宜となれば本會の幸甚とするところであります。本書に不明の点がありましたなれば返信料として三錢切手封入質問あれば回答致します。

大正十三年五月

編者識す

5-28-50

本書目次

一、洋服裁縫……………一

一、必要なる器具……………二

一、兒童洋服裁縫の順序……………三

一、寸法の量り方……………五

一、寸法の個所……………五

一、餘裕……………六

一、種類と着方の順序……………六

一、材料の撰び方……………八

一、人體の發育順序……………九

一、普通寸法表……………一〇

二

一、手縫ひでする縫方圖……………一三

一、ヅロース……………一七

一、幼児用ヅロース(三、四歳)……………二三

一、ウエスト……………二四

一、シミヅ……………三二

一、ベテコート……………三五

一、上着ドレツス……………四一

一、ロンパース……………五一

一、キモノスリーブ……………五七

一、女兒服ドレツス(其の一)……………五九

一、女兒服ドレツス(其の二)……………六八

一、女兒服ドレツス(其の四)……………七五

一、女兒服ドレツス(其の五)……………八一

一、女兒服ドレツス(其の六)……………八二

一、女兒服ドレツス(其の七)……………八五

一、女兒水兵服……………八七

一、七、八歳用西洋前掛……………九七

一、男兒用水兵服……………一〇二

一、半ヅボン布の裁ち方……………一〇九

一、プラース布の裁ち方……………一一二

一、男子上着プラース、ヅボン……………一一六

一、男子上着……………一二二

一、女兒外套……………一二六

一、男兒、女兒共通帽子……………一三四

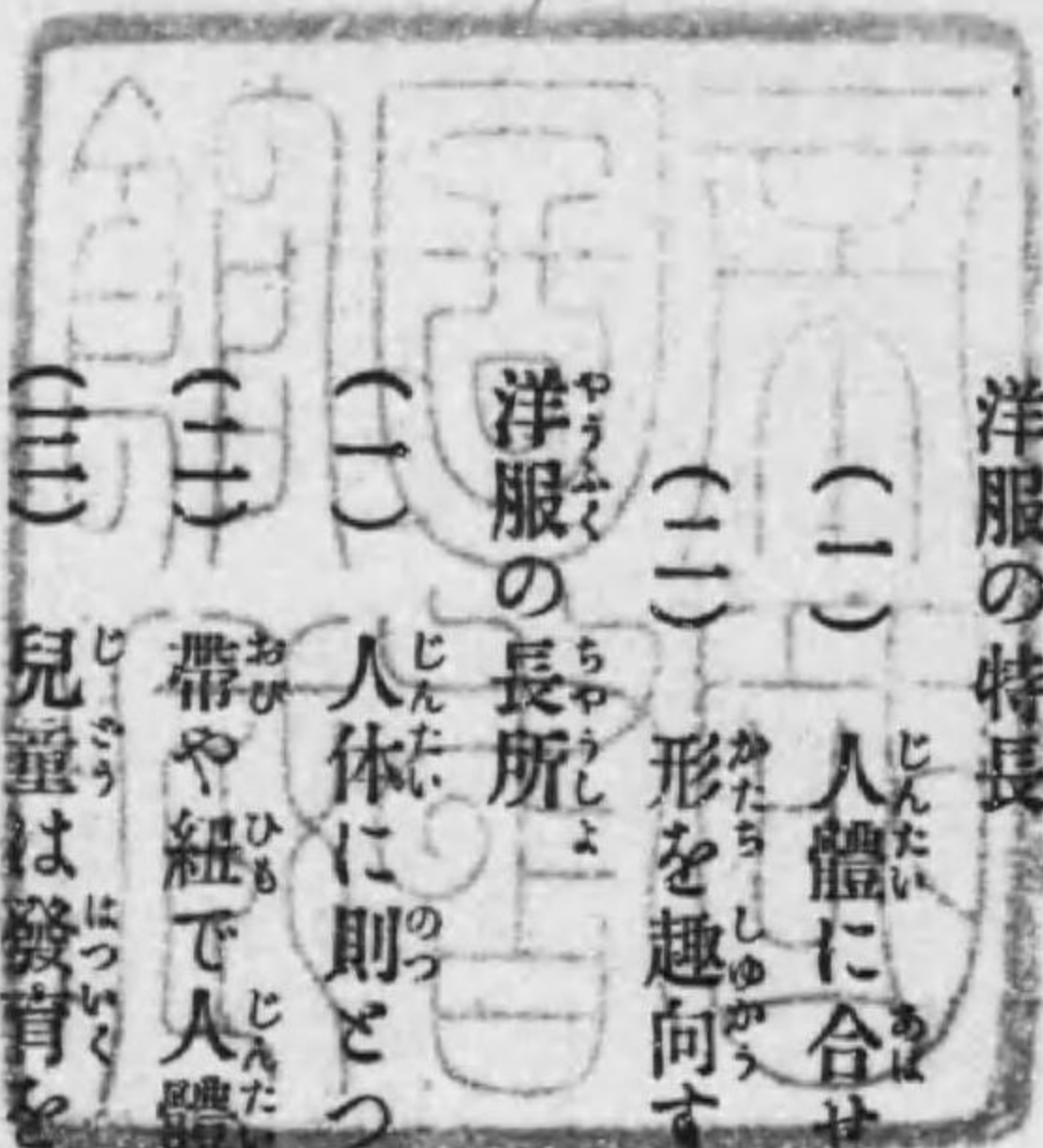
三

一、男兒帽子……………四

目次終

子供服裁縫獨習書

洋服裁縫



洋服の特長

(一) 人體に合せる

(二) 形を越向する

洋服の長所

(一) 人體に則つて造られたる故に活動に便りであります

(二) 帯や紐で人體を拘束せぬ故に身體的勞作にも、精神的仕事にも疲勞が少くない

(三) 兒童は發育をさまたげる事なく身體が正だしく保たれやすい、不正な姿勢は

すぐ明かに外から見られるからであります

子供服裁縫獨習書

- (四) 兒童は兒童服としての特長をあらはす事が出来ます其形、其裝飾に於て自由に各日の趣味を表はします
- (五) 着くすれがしたり、だらしなくなつたりする事はありません
- (六) 丈夫の毛織物又は木綿で優美の形を造りえられます
- (七) 用布が自由に融通されます、用布の丈けに依て形を定め、裝飾を以ておぎなはれます

必要なる器具

- (一) 巻尺
- (二) 物差し
- (三) チョーク
- (四) 鉛筆

- (五) へら
  - (六) 針
  - (七) 羅紗
  - (八) 糸切
  - (九) 針
  - (十) 指針
  - (十一) 裁紙
  - (十二) ビン
  - (十三) 卸穴明けのみ
  - (十四) 三角定規
- (製圖用紙)

兒童洋服裁縫の順序



- (一) 如何なる服を造るかを定める事(出来上りの形)
- (二) 着用者の寸法を量る事
- (三) 着用者の寸法に依て裁断の圖を製圖する事  
其の製圖の方法は完全なる人體に於ける各部の一定の割出によりて、着用者の各部の寸法を割出して画くのであります
- (四) 製圖した原型を別紙に寫して必要なる型紙を作ること
- (五) 型紙を用布の幅に應じて最も經濟に配置して用布が幾何入るかを積ること  
(此時毛織物なれば地直しの餘裕も見積る)
- (六) 用布の地直しをすること
- (七) 用布に型紙を配置して、へら又はチヨークで型紙通りに印を付けて、縫代を加へて断つこと(縫代を加へざることもあります)
- (八) 仮縫をなして着用者に着せて、活動にも工合よく、静止にも形よきかを

調べて補正すること

- (九) 仮縫をほごき本縫にすること
- (十) 仕上げすること

寸法の量り方

下着は裸體で量り、上着は下着の上から量ります、裸體の寸法で上着の寸法を定めるには大凡そ一枚の下着に就て七、八分を加へればよろしいのであります  
但し身長は上着も下着もありません

寸法の箇所

身長 (頭の頂きより爪先まで)  
胸圍 (乳の上で胸をはりて採ります)

小児服裁縫獨習書

頭圍（頭の周囲で帽子をかぶる位置で量ります）

餘 裕

着し又は活働して窮屈でない様に（取寸に餘裕を加へて製圖します）其の餘裕は幅の方で半胸に對して二寸の餘裕を取ります

種類と着方の順序

女 兒 用

日本で言えば

- 一、ウエスト (肌襦袢)
- 一、ヅロース (肌付腰巻男兒と言はば股引)
- 一、ベテコート (けだし或は裾よけ)
- 一、シミズ (長襦袢)

一、ドレス

(上着)

一、コート

(外套)

ヅロース、ウエストを續けて仕立てる者をコンビネーションと言ひます  
 コンビネーションと同じ型でメリヤスで造れる者をユニオンと言ひます  
 冬は此れ丈け全部を着る事もあります又此の外に毛糸の sweater を着ます  
 夏は薄いメリヤスのコンビネーションを着其上にベテコート丈け着て上着を着る事もあります又コンビネーションの裾口に好きレースを付けてベテコートと兼用にすることもあります但し女兒の洋服の下着の不完全なのは禮儀の上からも、形の上からも非常によろしくはなりません  
 女兒服の裾が下着によりて、ふつくり廣がつて居るのが好き形であります

男 兒 用

子供服裁縫獨習書

- 一、コンピネーション又はブローンス、ウエスト
- 一、メリヤス製のシャツ、ツボン下

下着の地質

- 夏 なつ キヤリコ、天笠、ローン、ネンソツク、ボイル、スポンジ、縮麻
- 冬 ふゆ ネル、メリヤス

絹布の晴着には下着も絹中、羽二重、富士絹、鐘絹等を用ゆ

材料の撰び方

衛生上適した物を用ゆ

- 一、体温の調節
- 二、汗、瓦斯等を吸収するもの

- 三、糊氣のなきもの、糊氣のある者は一度洗濯して用ゆる事
- 四、洗濯に堪へる物

人体の發育順序

- 一、出生時より一年間  
身長及身巾が平衡に發育する
- 二、満二歳より四歳迄  
第一充實期
- 三、四歳より七歳迄  
第一身長期
- 四、七歳より十歳迄  
第二充實期

小供服裁縫獨習書

五、十歳より十五歳迄

第二身長期

六、十五歳より廿一歳以上

第三充實期

充實期とは身巾が身長より勝つて發育する事  
身長期とは身長が身巾より勝つて發育する事  
此の如く身長と身巾との發育が各自の時期を取る故其の衣服の上にも加減しなければなりません

普通寸法表 (寸が單位也)

女児

部名 年齢	身長	胸圍	頭圍
出生時	12.8	8.5	8.9
6箇月	13.4	10.1	10.1
1年	19.2	11.7	11.6
2	20.	12.4	12.1
3	22.4	12.4	12.4
4	24.	12.8	12.8
5	25.4	13.1	12.8
6	26.8	13.7	13.1
7	28.2	13.9	13.2
8	29.5	14.2	13.2
9	30.6	14.8	13.3
10	31.8	15.3	13.5
11	33.2	15.8	13.6
12	34.9	16.5	13.7
13	36.6	17.1	13.9
14	37.7	17.8	14.1
15	38.2	19.	14.2
16	38.8	19.5	14.3
17	39.1	20.1	々
18	39.1	20.4	々

年齢	部名	身長	胸圍	頭圍
出生時		13.	8.5	8.9
6箇月		15.	10.3	10.1
1年		19.4	12.	12.
2		21.	12.3	12.6
3		22.5	12.6	12.6
4		24.2	13.	12.9
5		25.7	13.3	13.
6		27.1	13.8	13.3
7		28.6	14.2	13.3
8		30.	14.6	13.4
9		31.2	15.	13.5
10		32.4	15.6	13.6
11		33.5	16.2	13.7
12		34.5	16.6	13.8
13		35.7	17.1	13.9
14		37.4	17.6	14.
15		38.6	18.2	14.1
16		40.5	19.8	14.2
17		41.6	20.6	々
18		42.1	21.	々

腹圍は大低胸圍よりも一寸内外細きものであります但し兒童は同じである又大人は  
一、二寸細きものであります

手縫ひてする縫方圖

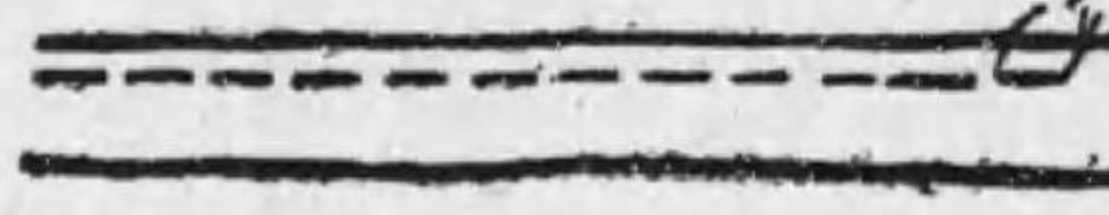
ミシン縫ひ (表より見るとは器械のミシンと同じに出来ます)

針目ハ五厘

表



表



裏



裏

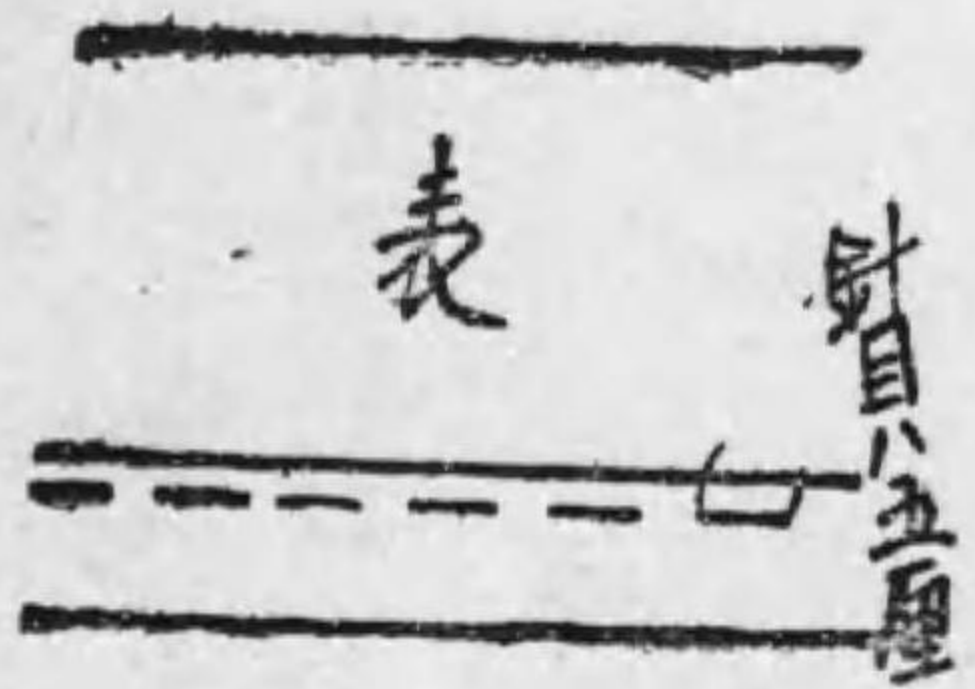


縫ひ方



縫ひ方

一は布と布との間より針を出します、針を二まで渡し二と三との点線の處は裏を通りて三へ針を出し又元の一の穴へ戻ります、あとは同じ事を繰返すこと  
半返し



此の圖の裏はミシン縫ひの裏と同じであります、縫ひ方はミシン縫ひの時は全部返しましたが、半返しの方は半返しします  
縫ひ方の順序の處に縫ふと書きたる處は全部半返しであります

千島縫ひ



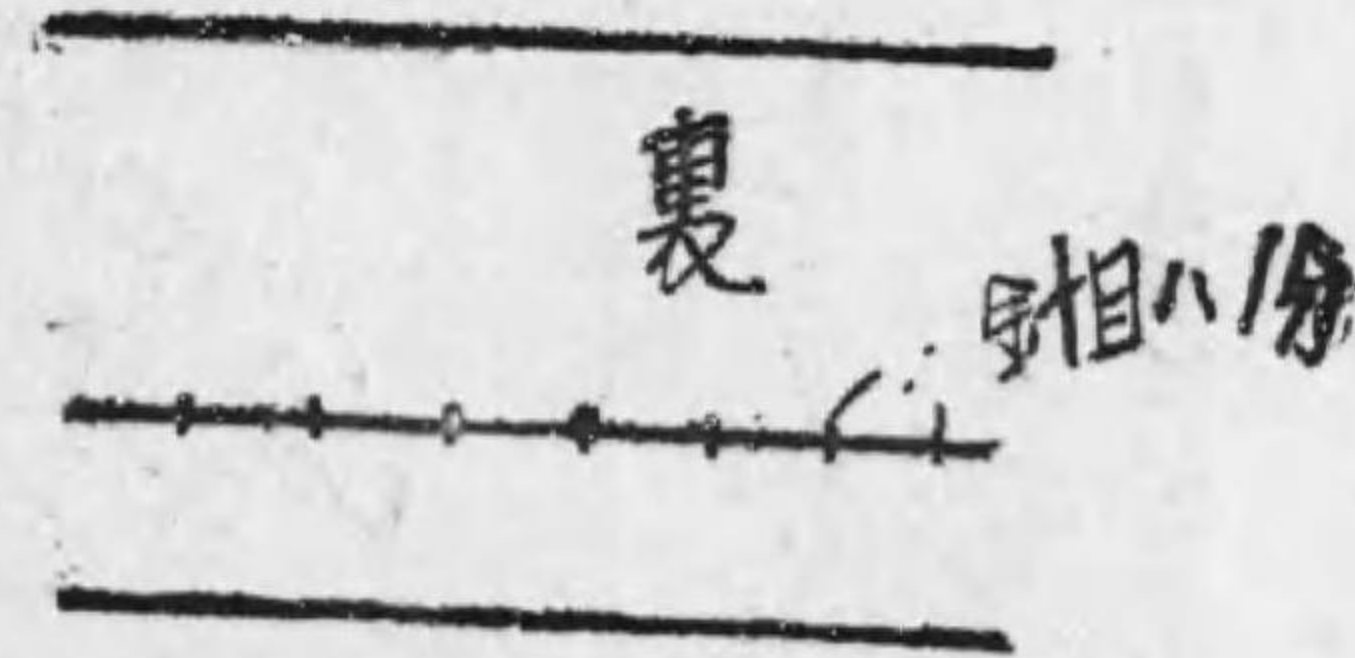
縫ひ方

一は布と布との間より針を出します二まで糸を渡し二と三との点線の處は表へ小針を出し三から四まで糸を渡して四と五の点線は布と布との間を小針ですくいます六に糸を渡します後は同じ事を繰返すこと  
纏り縫ひ

表



裏



方ひ縫



縫ひ方

一は布と布との間より針を出します五厘位の針目で二に渡し二と三の点線の處は表へ小針を出し其の針で布と布との間を通りて四の處へ出します、それを續けて行

ふこと

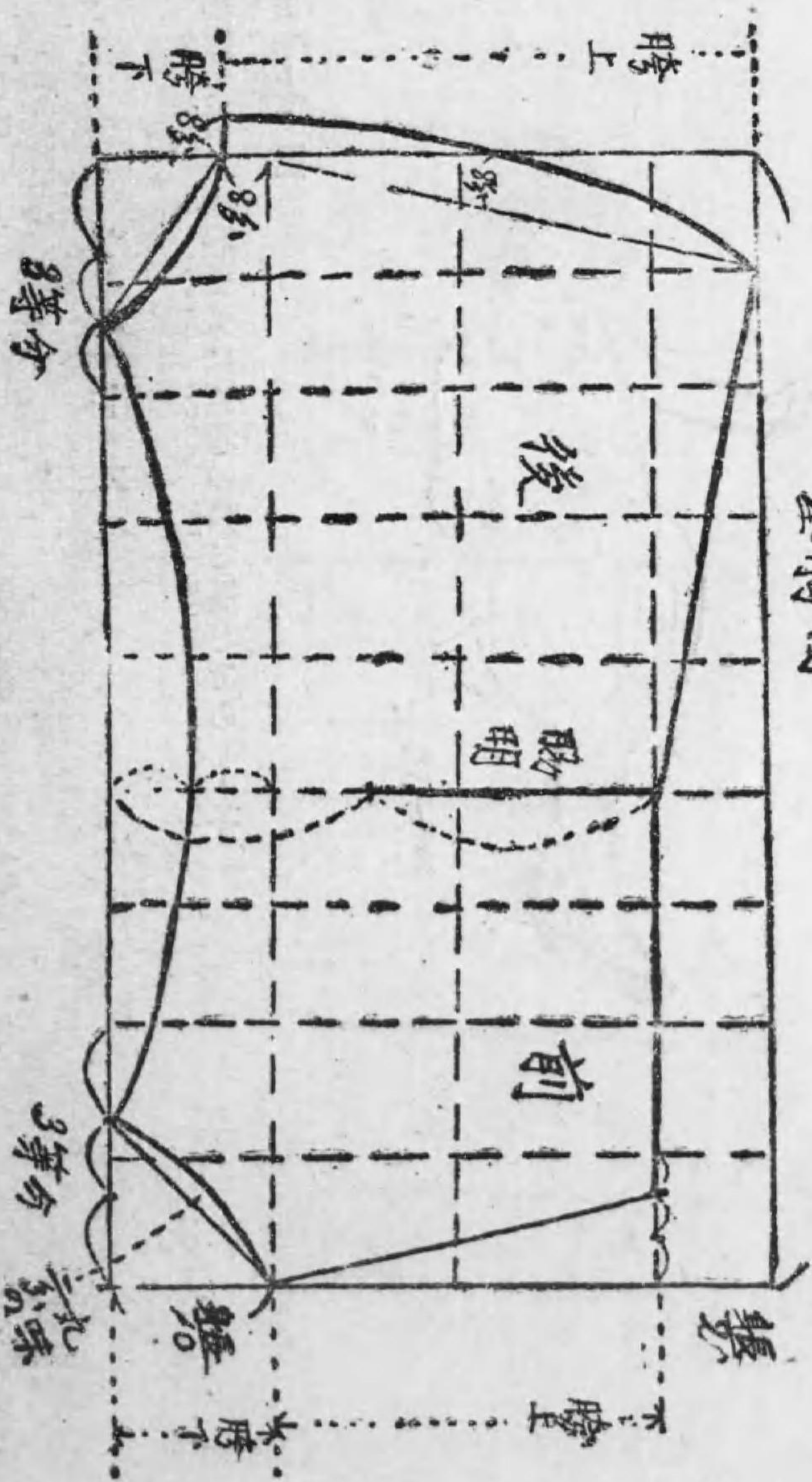
ツロース

和服で言ひば股引又は腰卷の類と同じであります  
出來上り圖



子供服裁縫獨習書

全胸圍



製圖の仕方

- 一、全胸圍を横線に引きまして縦は十分の身長を三つと二十分の身長とを取りまして長方形を作ります
- 二、横線を九等分して点線を引いて置きます
- 三、縦線を十分の身長を三つと二十分の身長とに点線を引きます
- 四、二十分の身長の点線の處を圖の如く三等分して三分の一の處から十分の身長の處まで斜線を引きます
- 五、横線を九等分した九分の二の間を三等分した三分の一の處へ前頂の斜線に於いて線を引き二分の丸味を付けます
- 六、二十分の身長を三等分した處から九分の四の處まで横線を引き其れより九分の八の處の一番上に斜線を引いて、其處より下十分の身長の處までは假りに線を引き其れより下に八分下りて八分外に出て、圖の如く頂上より中央で八分位の丸味



の付く様に画きます

七、横線の九分の二を三分分して三分の一の處から八分外線の處を結んで二分の丸味を付けて画きます

八、左右の三分の一の處を中央にて十分の身長の中央になる様に丸味を付けて画きます

九、脇明きを線より下中央まで明けます

用布は夏なればキャリコ冬なれば白ネル等を用ひますが先づ表を中に二枚重ねた上に型紙を當てがって箇印の通りに断ちます

### バンド丈の出し方

半胸圍十二寸(餘裕)十七分(雪ね代)×2+五分=バンド丈の裁ち切

### バンド幅の出し

バンド上り幅1寸×2+五分=2寸五分=裁ち切バンド幅

此れを二枚取ります

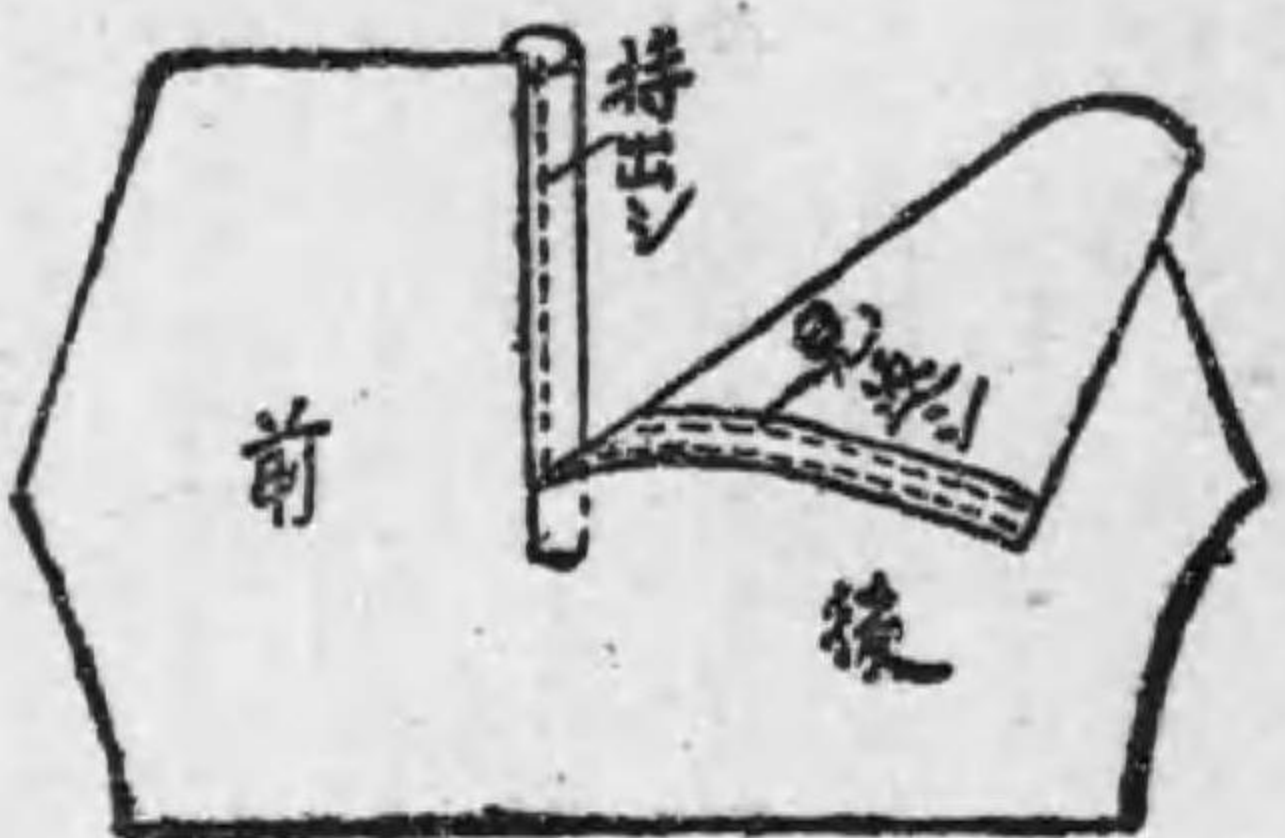
持出し幅裁切一寸五分  
見返幅裁切一寸

丈は脇明きより五分長くすること各二枚宛

### 縫ひ方の順序

一、前後各股上を縫ひ合せ、縫ひ込の端を折りてまつります(此の折りはどちらへ返してもよろしいのであります)

二、脇明きの前に持出し、後ろに見返しを付けます、其の付方は巾一寸の見返し布を後ろ脇明きの裁ち目に表に付く様に合せて縫ひ付け上り巾五分にして裁



子供服裁縫獨習書

ち目を折り、下部を剣形に折りて、しついで押さへて置きます、次に持ち出し巾を前脇明きの裁ち目に縫ひ付け上り巾五分にして、裏に折りて巾の両端にミシン縫ひをします（持出しも見返しも）下部は裁ち目を其儘にして置きます、次に見返しを持出しの上に重ね下部の剣形に束にミシン縫ひをします

三、裾口のレースを身頃の裾に合せて縫ひ縮め、裾に縫代二分五厘取りて縫ひ付け折りを身頃の方に返し縫込の端を折りて、まつります前後股下を縫合せ、縫込の端をまつり付けます

四、前後共バンドに合せて上部を縫ひ縮め、中央に多くギャザー（ヒダ）を取り両脇は段々に浅く消へる様になし置くこと、バンドを縫付けバンドの丈の両端を普通に通に縫つて表に返します（バンド巾一杯）裏を折り付けバンドの周囲全體にミシン縫ひをします

五、前後共バンドの端から二分這入りて横に穴を明け丈の中央に縦に穴を明けて穴かゞりをします（穴は前後で六つ）穴の大きさは釦に合せます、脇明き止まり

に、かんぬき止をします

幼児用ツロース（三、四歳）

製圖



子供服裁縫獨習書

用布はキリコ巾一尺三寸  
横布になりますか  
下着類であります  
から横布でも差支  
はありません  
横布にしなけばキ  
リコ巾一尺六寸

縫ひ方の順序

股上に縫目がなく、股下が輪であつて脇に縫目が付きます、脇明きを取りたる残り縫ひて折りを後ろに返して、縫込の端を折りて纏ります  
脇明きの持出し見返しの付け方は前と同じでありますバンド巾を五分巾になしてゴムテープを入れて縮める事もあります、此の時は脇明きを明けなくてもよろしいのであります、あとは前と同様である

ウエスト

和服で言ひば肌襦袢の類であります

注意

一、ウエストの襟肩及び、あごに付けるレースは上着より見えてはならぬ事故に襟肩及びあごの形に上着に合はせて裁つこと又襟肩大きすぎる時は襟よりはづれて工合わるし

二、後掛けと前掛けとあり、上着によりて撰ぶ

三、下着類及び裸體に着る夏服は胸圍を裸體で製圖いたします  
袖もやはりさうです

袖附線を裸體に着るものは背丈の中央にいたします

上着類は下着を着た上から胸圍を量りまして即ちそれを上着半胸もしくは上着胸圍と申します

袖もやはり上着半胸にいたします

袖附線を上着半胸の二分の一とします

背丈は上着の時も下着の時も變りません

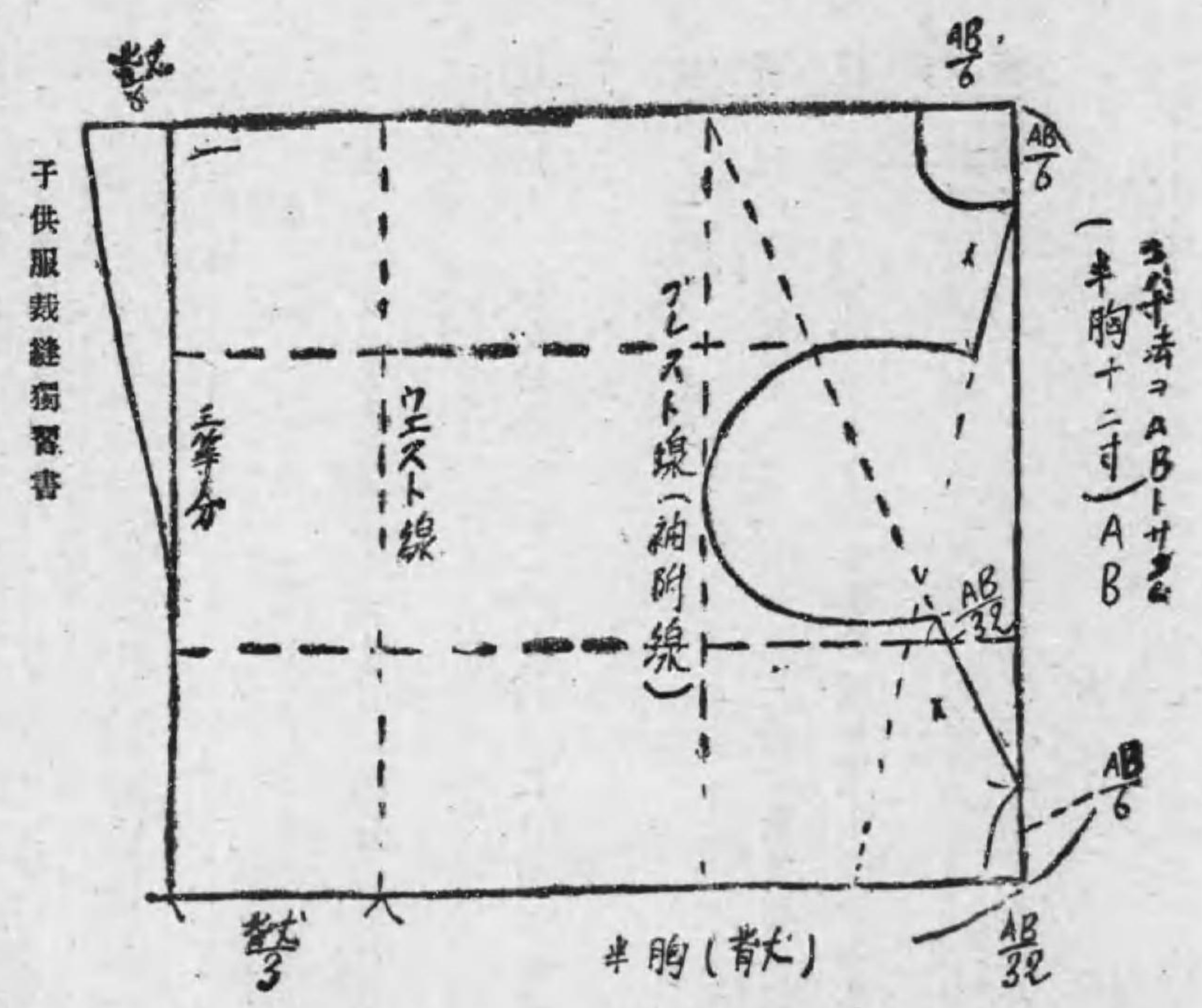
外套類の時<sup>ゴウタイ</sup>は上着<sup>ウハジキ</sup>を着<sup>キ</sup>た上<sup>ウヘ</sup>から、胸圍<sup>キョウイ</sup>を量<sup>はか</sup>りまして即ち<sup>すなは</sup>上着<sup>ウハジキ</sup>半胸圍<sup>ハンキョウイ</sup>もしくは<sup>ウハジキ</sup>上着<sup>ウハジキ</sup>胸圍<sup>キョウイ</sup>と申<sup>ま</sup>します。袖附線<sup>ソデツケゼン</sup>は其<sup>その</sup>の上着<sup>ウハジキ</sup>半胸圍<sup>ハンキョウイ</sup>の二分<sup>ぶん</sup>の一<sup>いち</sup>といたします。袖<sup>そで</sup>も矢張り<sup>やはり</sup>上着<sup>ウハジキ</sup>半胸圍<sup>ハンキョウイ</sup>にして製圖<sup>せいず</sup>いたします。

製圖方

注意

- 一、すべて裸体<sup>らたい</sup>半胸圍<sup>ハンキョウイ</sup>に二寸<sup>すんくは</sup>加<sup>くは</sup>へた寸法<sup>すんぽう</sup>を基本<sup>きほん</sup>とす
- 二、背丈<sup>せたい</sup>は半胸圍<sup>ハンキョウイ</sup>又は四分<sup>ぶん</sup>の身長<sup>しんちやう</sup>（兒童<sup>じやう</sup>の身長<sup>しんちやう</sup>より胸圍<sup>キョウイ</sup>の太<sup>お</sup>い時<sup>とき</sup>には背丈<sup>せたい</sup>を半胸圍<sup>ハンキョウイ</sup>とす）又胸圍<sup>キョウイ</sup>より身長<sup>しんちやう</sup>の勝<sup>まさ</sup>つて居<sup>ゐ</sup>る時<sup>とき</sup>には背丈<sup>せたい</sup>を四分<sup>ぶん</sup>の身長<sup>しんちやう</sup>とす、胸圍<sup>キョウイ</sup>の二倍<sup>ばい</sup>が身長<sup>しんちやう</sup>に當<sup>あた</sup>つて居<sup>ゐ</sup>りますから其<sup>その</sup>れから割<sup>わ</sup>り出して行<sup>い</sup>くこと

五、六歳の製圖



子供服裁縫獨習書

用布キヤリコ巾一尺

見返し七分

持出し一寸二分

後掛の場合此の製圖の後に持出し及び見返し巾を加へ前の中央線を輪になし、前掛の場には其の反對にします

製圖の仕方

- 一、ウエストの丈けを横線即ち背丈け（四分の身長又は二分の胸圍）と三分の背丈けの線を引きます
- 二、縦線即ち二分の胸圍十の二寸を假りにA Bと定めて横線を結んで長方形を造ります
- 三、身巾を三分分します
- 四、背丈けの中央線を引き其れから三分の背丈けの處の線も引きます
- 五、後襟肩を六分のA Bを取り後の線を三十二分のA Bを取りて後襟肩の形を画きます
- 六、後襟肩と前のブレスト線（袖付線）に當て斜線を引き後ろ襟肩の下る位置と

なります

七、後巾の線と肩の線と交叉したる處より袖付の方に三十二分のA Bを取り、後肩巾となりします

八、前の襟肩及びあごを六分のA Bを取り四角になして丸く線ります

九、後襟肩より四分の背丈け下りたる處と前の襟肩とに當りて斜線画きて、前肩の位置となし後肩巾に合はせて画きます

十、袖付きを画きます前は深く、後ろは肩より少し這入りたる處に画くこと

十一、前の中央線にて腹部の餘裕として六分の背丈けを延し、後巾線の邊で消へる様に丸味を付けて画くこと

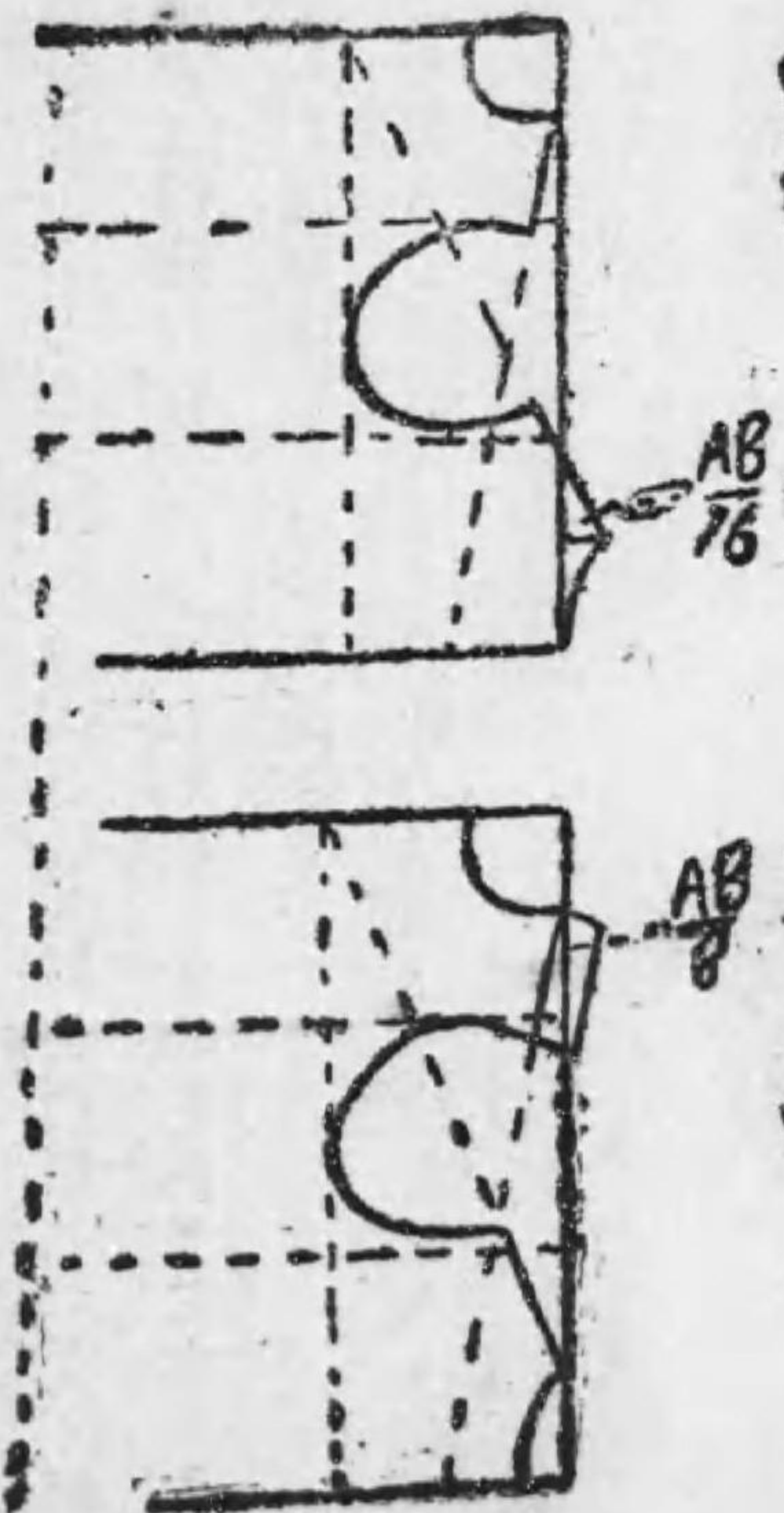
十二、前掛後掛に應じて、持出し見返しを巾に加へます  
製圖上注意

七、八歳以上は男兒、女兒製圖方を多少加減します、男兒は後肩を線外に十六分の

ABを出します。女兒は八分のA B (七分)前襟肩を出します(圖の如し)

男兒

(女兒)



縫ひ方の順序

一、持出しの裁目を二分裏に折り次に五分折りて表より巾の両端にミシン縫ひをし

ます

二、見返しも同様に裁目を二分次に五分折りて同様に表よりミシン縫ひをします

三、袖付の繰りにレースを少し緩い目に合はせて縫ひ付け、折りを身の方に返して

ミシン縫ひをします。レースは一分以上二分位より多く出てはなりません

四、肩を縫ひ合はせ折りを後ろの方に返し縫込の端を折りて纏り付けます、縫ふ時

に後ろを一分ぞらしします

五、襟肩及びあごにレースを少し緩い目に縫ひ付けて表よりミシン縫ひをします

六、裾口を二分折り次に五分折りて纏り付けます

七、力切れを付けます。其の付け方はブレースのバンドの釦穴に合はせ、身巾の中央

と両脇に巾一寸丈二寸の切れを裁ち目を折りて身頂の裏に當て、周囲を纏りま

す又はミシン縫ひにします

八、見返しの上部より二分下りて一つ其れより下二寸より貳寸五分の間を置きて釦

穴を明け穴かじりをします、穴に合はせ持出しに釦を付けること

九、ヅロースを合はせ力切れの處に釦を付けます其れより八分上りて尙一つとペテ

コート釦を付けます

十、ヅロースのバンドにゴムテープを入れ時には下の釦は不要であります

シミツ

女兒専用ぢよじせんようの下着したぎ(和服わふくで言いひば長襦袢ながじゆはんの類るるであります)

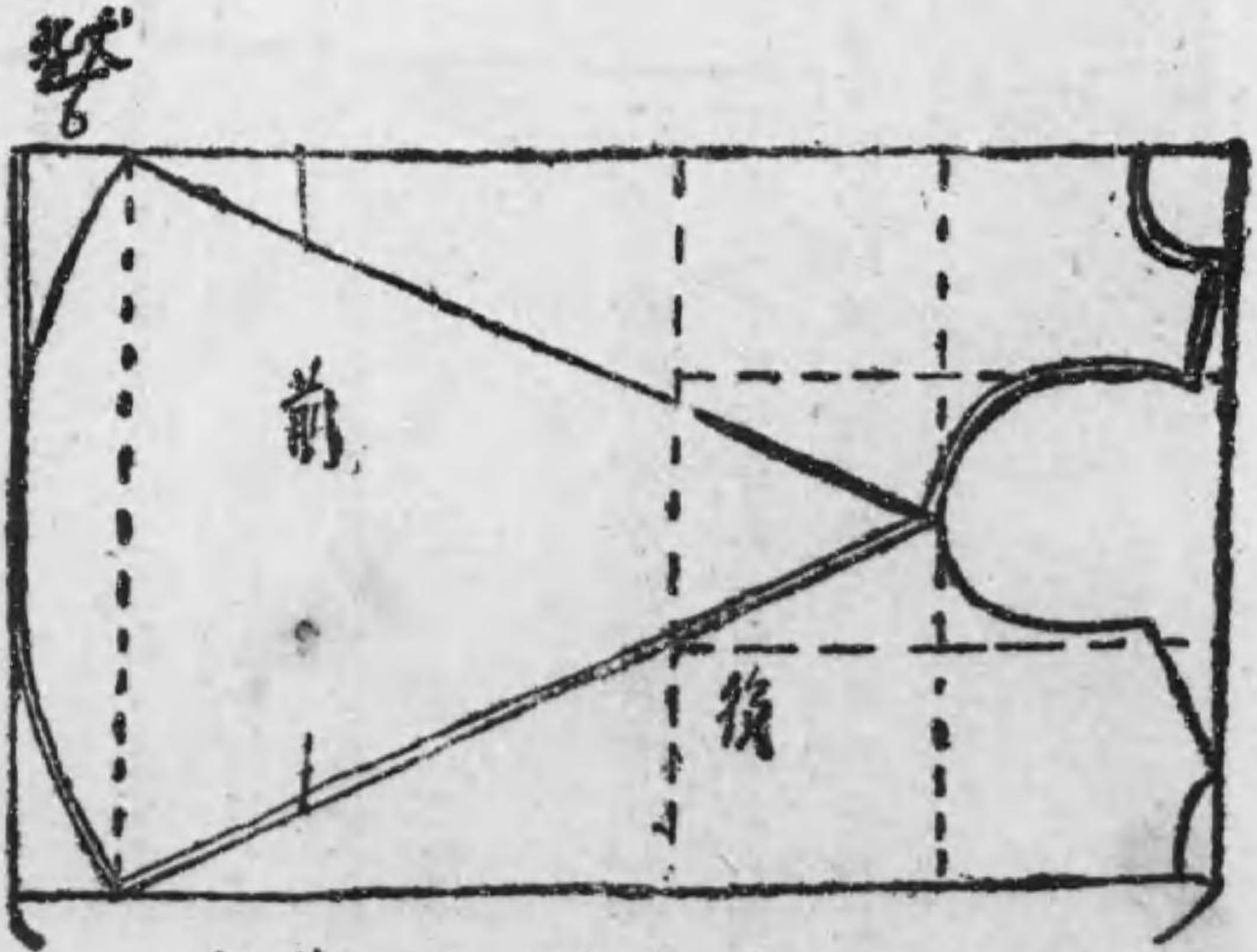
ウエスト、ヅロースを着きた上うへから着きるもので裾口すそぐちに巾はちの廣ひろいレースを付つけてペテコ

ートと兼用けんようにする場合あひもあります

出来上りできあがり圖ず

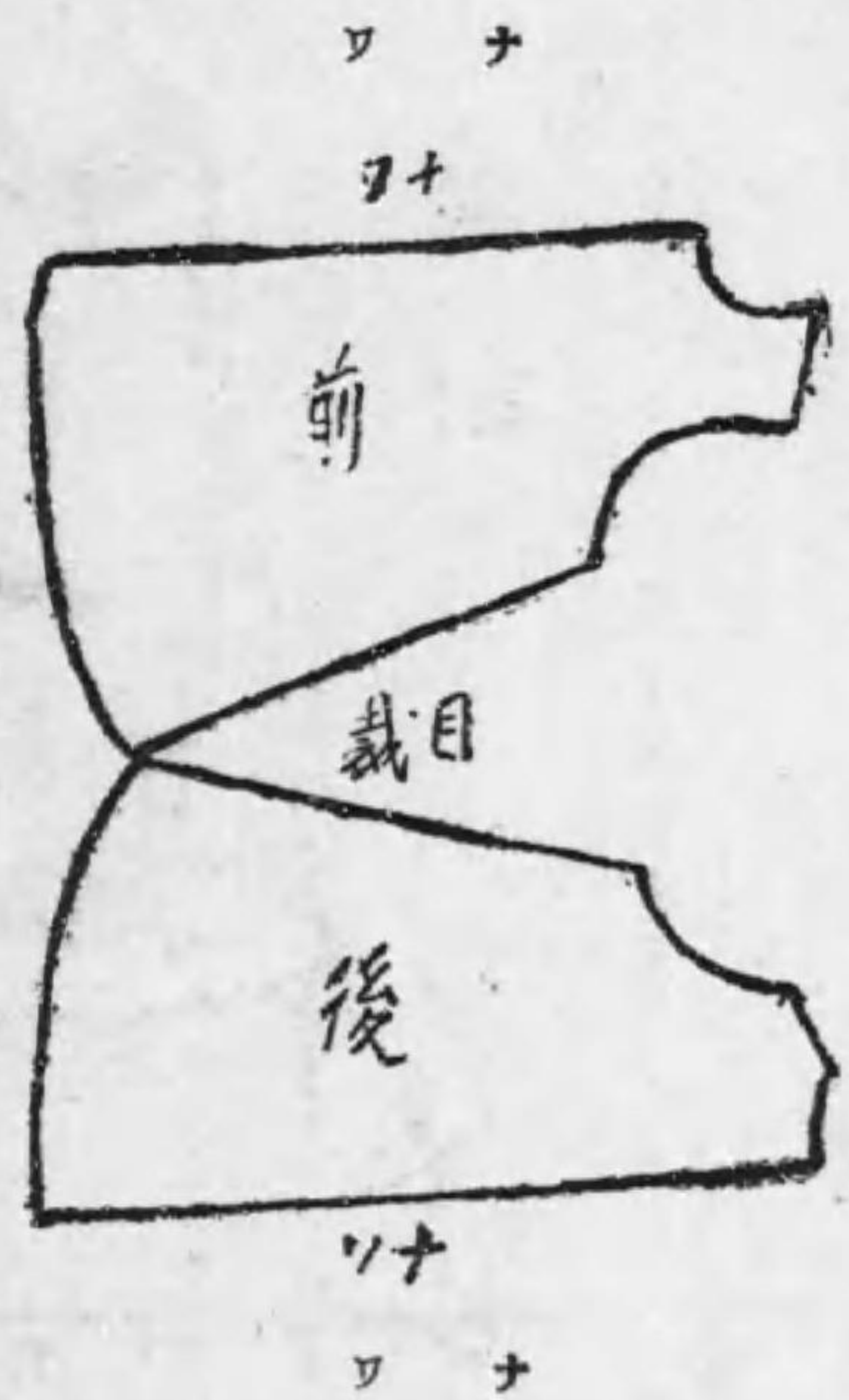
型かたはウエストの型紙かたがみで取とります

製せい圖ず



(上巻ト同じ式)但レースヲ付ケルヲイフク

製圖に合せて前後の身頃の型紙を裁ちます



仕立方に二種あります前肩に穴を  
明け、後肩に釦を付けて肩にて掛  
ける場合此の時は前後の肩を三分  
づ、長く裁ち、後ろに當て布をな  
して縫ひます  
後身の中央を身丈の中央迄若し  
くは三分の一迄襟肩から切り込み  
を入れて、左に見返し右に持出しを造ります此の時は前及び後ろの中央を輪にして裁  
つこと

縫ひ方の順序

肩にて掛ける場合

- 一、脇を前後縫ひ合はせ折りを後ろに返して縫込の端をまつります
  - 二、後ろの中央を縫ひ合はせ折りはどちらでもよろしい
  - 三、前、後の肩に當て布をします
  - 四、脇明き及び襟肩にレースを付けます付け方はウエストと同じ
  - 五、裾口にレースを付ける時にはレースの巾丈け裾口を切ります、裾口にレースを  
付けない時には二分上りの三つ折りにします
  - 六、前肩の端より二分下りて穴を明け、後ろ肩の上に重ね後肩に穴を合はせて釦を  
付けます（一方の肩にて二箇釦を付けます）
- 後明きに持出し見返しを付ける場合はウエストを應用すること

ベテコート



子供服裁縫獨習書

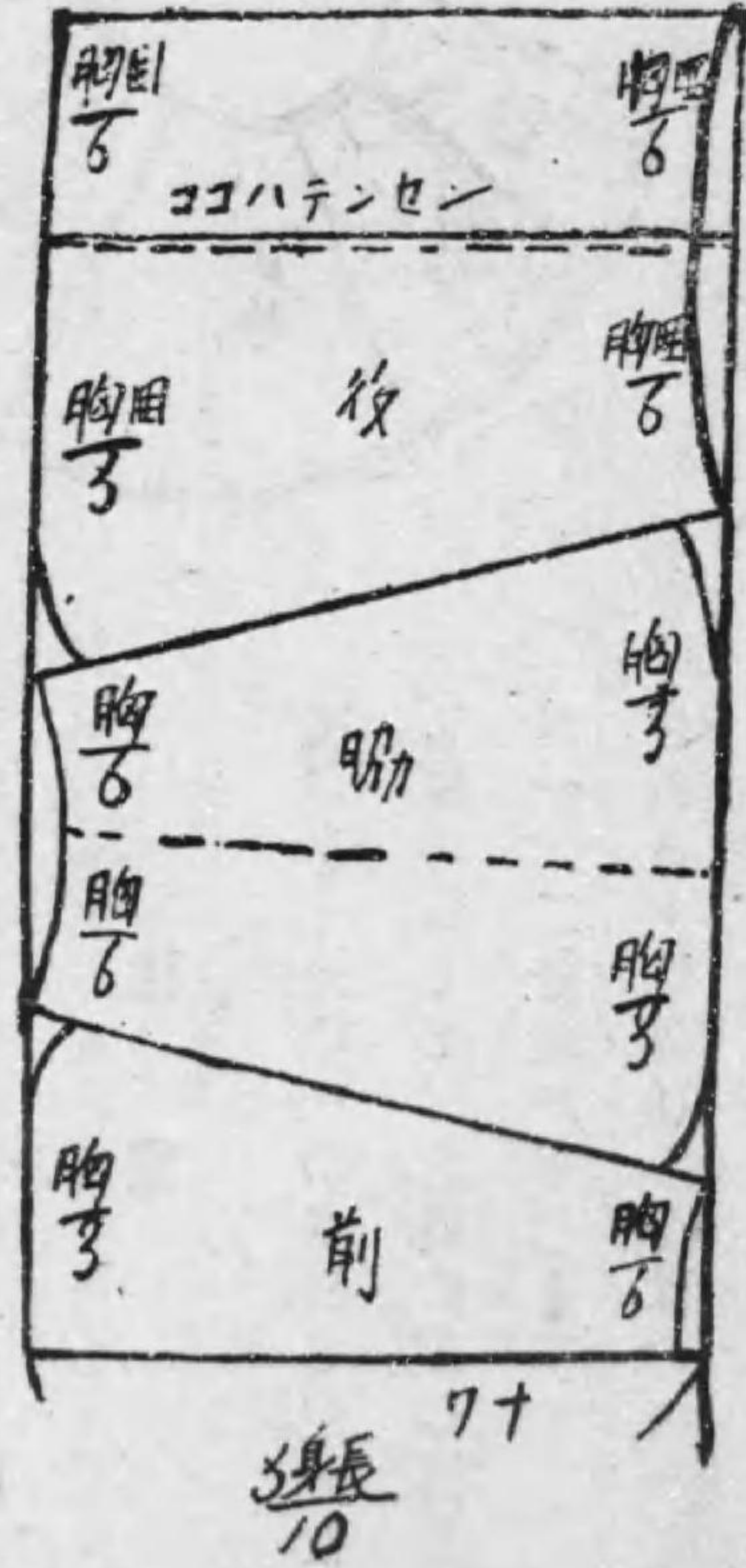
女兒專用の下着 (和服で言ひば長襦袢裾除けに當ります)

此れはウエストに釦を付けて吊のであります

出来上り圖



製圖の仕方



子供服裁縫獨習書

裾の丸味及び上部の丸味は合せて見てから格好よく裁つこと  
製圖の時には假りに少し丸味を付けて置くこと

注意

丈けを十分の三の身長と定めたれど上着の丈によりて定めること、上着の裾と同じ丈けになるか若しくは一、二分短かくします

ウエストに付ける時はウエストの上の釦よりツロー  
スの裾迄の高さを量りて其れよりバンド幅を減じたるものをベテコート  
の丈けとす  
ること



附言

一、スカート及びベテコートは五巾布、七巾布、九巾布、とあります

普通は五巾布の者であつて此の如き數にするのは前の中央を輪にする爲めであり  
ます

二、後布には六分の胸圍の餘裕を付けます此れは腰と、かがんだ時の爲めの餘裕  
なり

三、裾は足を廣げたり、階段を上つたりするのに差支ない様にするのであります

四、裁ち方注意

前巾の中央線は輪にして裁ち其他の處も点線の處は輪にして布巾を折、て裁つ別  
にバンドとして巾二寸五分丈けは(胸圍十餘裕)ウエスト巾と同じの丈けを兩端に  
縫代を加へた物を一枚裁ちます又後明きの見返し持出しを取ります

縫ひ方順序

- 一、五つの布を前を中央として縫ひ合せ、折りを前布の方に向つて折返し縫込の端をまつります。此時上部及び裾口の丸味を平にする。
- 二、最後の後幅の中央を縫ひ合はす。此時上部から丈の三分の一縫ひ残り、縫込の折りを背と反対に返します。
- 三、後明に左に持出し右の裏に見返しを付けて止まりに門止めをします。其の仕方はツロースの協明きと同じです。
- 四、前布の中央と帯の丈の中央とを合はせて、前布及び脇布の中央までは平に帯を縫ひ付け其れより後ろは帯丈に合はせて身頃を縫ひ縮め帯を縫ひ付ける。帯に一枚同じ布の芯を入れる方が釦穴が丈夫になります。次に丈の両端を縫ひ表に返して帯の裏を折りて表より周圍にミシン縫をします。
- 五、ウエストの釦に合せて帯の前の中央及び両端に穴を縦に明け、後ろの明きの處は見返しにも持出しにも同じく縦に穴を明けて穴かどりをすること。穴は都合五箇

である

- 六、ベテコートの上部の帯にもゴムテープを入れるもよろし
- 七、裾口にレースを付けます

上着(ドレス)

地質

木綿は繊維が短かい爲めに毛ば立ちやすい、汚れ目が目立つ物故洗濯に丈夫な地質であるから、毛の立ちやすすくない物を撰ばなければなりません、毛を防ぐ爲めには洗濯の仕上げに糊を付けること、然し餘り糊を付ける時は通氣性を失ひ、保温力を減じ地質をいためます、光澤を出す爲めにはロールを掛けて仕上げをした物もあります、此れは一度洗濯すれば直ちに光澤を失ふことを知つて居らなければなりません

木綿地質の種類

ゼツバ、ギンガム、ボイル、ローン、モグサ、ポプリン、ビツケ、ボンヂ、チヨミ、小倉、シーチング、マドラス、コールテン、綿ネル、綿セル、キャリコ、

麻

濕氣を吸いやすいのと熱をよく取ることが特長である又洗濯が丈夫で好く白色を保つ、繊維が長いので磨擦に強く弾力性があるので、水とよく合はると好く皺が延びます高價である爲めに木綿が交ることが多い  
リンネット、スタンネット此の二つは木綿に豆の胄白質と蒟蒻とを交せて造りたるもので外見を麻に見せた物であります、着ると麻の如く濕氣を吸はぬ爲めに直ちにべと／＼になり易い(半麻木綿を交れた物であります)

毛織物

毛の繊維のすぐれて居る点は、熱をよく保つこと、弾力性に保つこと、熱の傳動がよい、又濕氣を吸ふことがおそいが非常に多くふう力を持つて居ること  
重さが軽いいため厚地に織つて防寒用に適す欠点は洗濯がよろしくない事と、虫が付き易いのである故に其の取扱ひ方を注意せなければなりません、ブラシ怠らずして塵、ほこりを能く取ること、塵、ほこりに依りて色を減じ物を損じる事多い  
アルバカ、モヘーヤの如き光澤のある毛織物は毛としての特色を多く持たぬのであります、裏地に多く使用されます  
毛織物の中に反毛と云ふものがあります、此れは毛織物のポロを初めの繊維に戻して更に紡いで織りたるものであります、安價の物に多い此れを交せてあります又全々使用したものもあります

反毛には純白がなき故茶、緑、紺、黒、霜降等のあざやかでなき色が多い

### 毛織物の種類

フランネル、サージ、バビット、メルトン、スコッチ、ラクダ、アルバカ、ピロド、カシミヤ、セル、クレバネット

### 木綿と毛と交ぜ織物

此れは木綿と毛織と両方の性質をそなへるもので、丈夫にて子供物に適す、クレバネットは縦が毛で横が木綿である外套によろしい

### 絹

繊維が細く薄地の織物である、毛ばたつ事と皺になる事が少ない

長く其美しさを保つ但し洗濯によわく且つ高價であります故に子供物には絶対に不適當であります

### 人造絹糸

木綿を薬品で溶して造りたるものであります、光澤が強くして火に非常に弱い、帽子等の洗濯せぬ飾りには安價なる故を以て使用されます

### 絹 紡

絹の紡績糸で織りたるものである、繊維が細く毛ば立ち易いが、丈夫で安價であります、種々利用せられるのであります

### 富士絹、鐘絹、絹紬

これは柞蚕の糸である、色がクリーム色をして居ります、染料がよくのらぬので色の種類が少ない故に生地の儘で使用され安價にして丈夫なり

### 色の配合と装飾の仕方

#### 色の配合

洋服は色の配合が大切であります、色は其の着用者の皮膚の色と其の體全体の性質を考へて色を撰ぶこと

洋服の地色と装飾の色の調和が大切である、餘りかけ離れた色を取合はせる事は其の調和に困難であります、餘り目立つけばくしい装飾をすること顔や容姿が其れにまけて着物ばかりが目立つ様になります故に多くの場合同色の薄きもの、濃い物を配合します

例へば濃い御納戸色の服地に水色の刺繡をあしらいます此の時は御納戸地の單調を

破りて飾を引立たせ地色も引立ち、顔及容姿を明らかにします又同じ色でも光澤のある布によりて遠へて見せるのもよろしい例へば海老茶の羅紗地に同じ色のピロイドの飾り等であります

友禪等の二色三色遠へたる色が配合されて居る布には其の模様の中の最も多くある色を取りて、装飾に用ゐます又配合された色が同じ位の分量である時は黒で装飾をします但し服地に多くの色が用ゐられてある模様色には縁を取る位で、多くの装飾

#### せぬ事

縞物や模様物には多く装飾しては雑然として却つて引立たぬ者であります又縞や格子も模様も大柄の物より、細かきものを撰びます、子供の小さい體だに大きな柄は不調和である

顔の色のあざやか子供には、色の薄地のあざやかな物を用ゐ、暗い顔の子供には、くすんだ濃い色を用ゐると顔が引立つて見えるのであります

すべて子供服には人工を以て自然の美しさをそこなわない様に一層發揮させる様しなければなりません故に二色以上なるべく用ゐず、装飾も簡單なる物がよろしい

帽子の色

上着又は外套と同じ布で造る、装飾は又服の飾りと同じ色の物を用ゆるがよろしい

靴下

上着及び外套の黒っぽい物には、黒、白っぽい物には白を用ゐる  
靴は靴下と同様であります、茶色は用ゐざるをよしとす

洋服の數に就て

春、秋の合着は冬服又は夏服の一部の装飾即ちカラー、カフスの飾を更へて、春

らしい花やかな物や、秋らしい物に工夫して目新らしくして物ゆるのがよろしいのであります

洋服の上着は數多く造る必要はありません、春着一着、日常服二、三枚、冬は一枚若しくは二枚でよろしいのである

型

子供服は單純な物を選び、装飾は又子供服を表はします

子供らしい物を選び、型は新たに自分で造り出すのは困難であります、其れにはスタイルブックでよく型を選び、襷の加減、ユキ丈の寸法、地質の色合、年齢等をよく觀察して其れを見ながら、型紙を造り紙にて實物通りに縫合はせて、子供に着せて見て工合を直し完全にして然る後布地を裁つこと

全体の製圖上の注意

上着は下着の上に着る者であるから、下着の上か寸法を量つた者によりて、製圖しなければなりません、下着より襟肩を少くしなげばならぬこと

袖の種類

- 一、普通別スリーブ  
袖と身頃とが別に付いているもの
- 二、ラグランスリーブ  
袖が肩から付いているもの
- 三、キモノスリーブ  
袖と身頃が續いているもの

四、ベルスリーブ

着物スリーブで袖付より袖口の方が大きく大きいもの

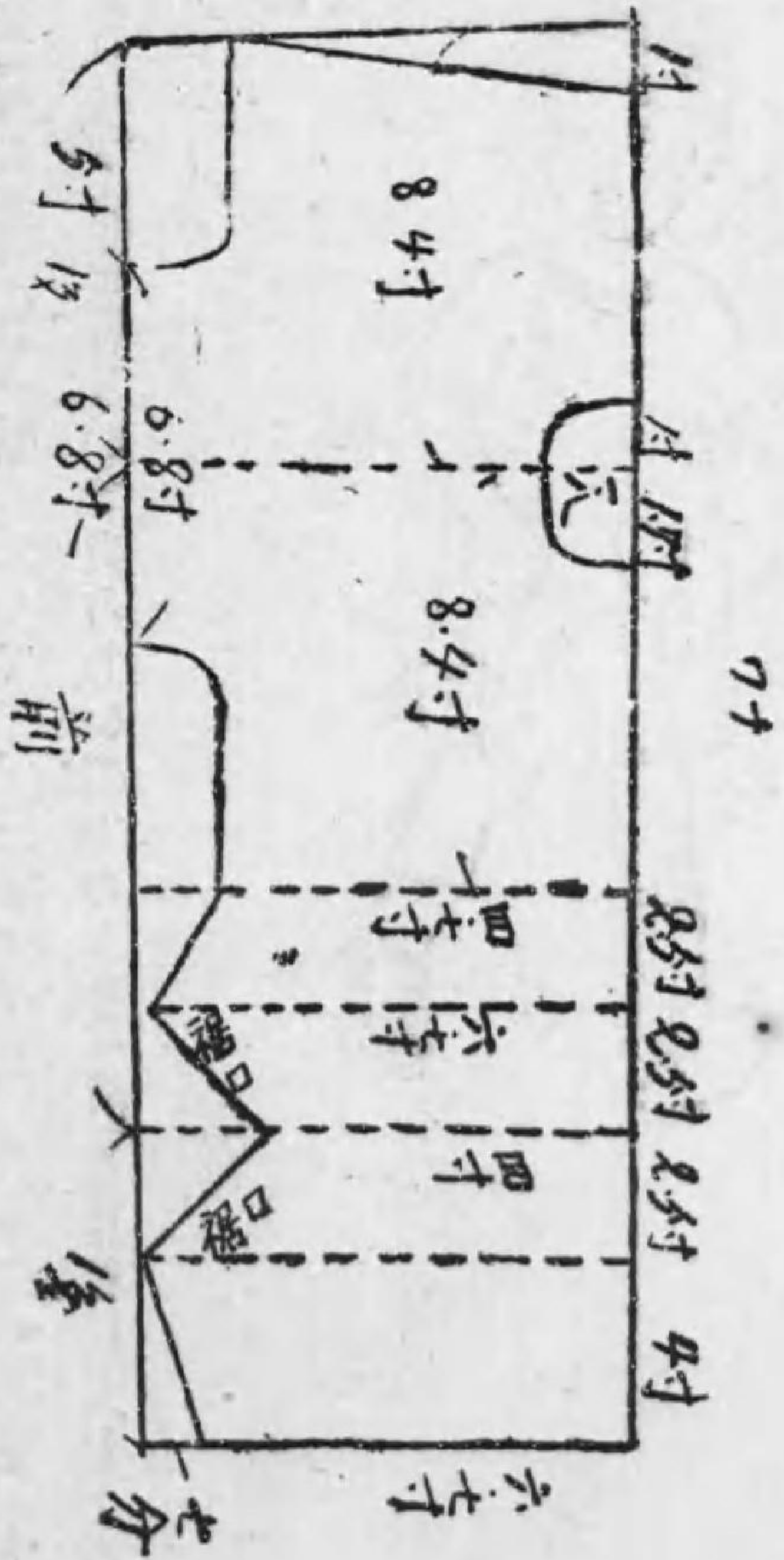
ロンパース

運動着・いたづら着、遊び服と云つて二、三歳より五、六歳迄の男兒、女兒共通の服である此れは下着を着ないでよろしいのであります但し夏着に尤もよろしい  
三、四歳ロンパース  
出来上り圖



子供服裁縫獨習書





用布は二尺巾の物なれば三尺

縫ひ方の順序

- 一、袖口と裾口に上り幅一分五厘位に縁を取ります(但し別布)

- 二、後ろ身頃の裾を三つ折りにして、纏るか又はミシン縫ひにします
- 三、袖口より後ろ身頃の裾口まで脇を縫ひ、縫込をまつります
- 四、後ろズロースの上部より二寸五分縫ひ残し裾口より脇を縫合せます其の縫残したる處を三つ折りにしてまつります
- 五、後ろ身頃の背に後ろ明きを四、五寸となして裁目に左右共上り幅七分の持出し見返しを付けてスナップにて止めます  
(スナップとは金物製にて凹凸の小さい釦なり)
- 六、後ろズロースの上部裁ち目を、身幅に同じに縫ひ縮め上り幅一寸のバンドを縫ひ付けます
- 七、襟肩の頸に一分五厘の縁を取ります
- 八、バンドに釦穴を明けて、後身頃の裾にボタンを付けます、釦穴は丈の両端を横に明け中間三つは縦に明けます

子供服裁縫獨習書

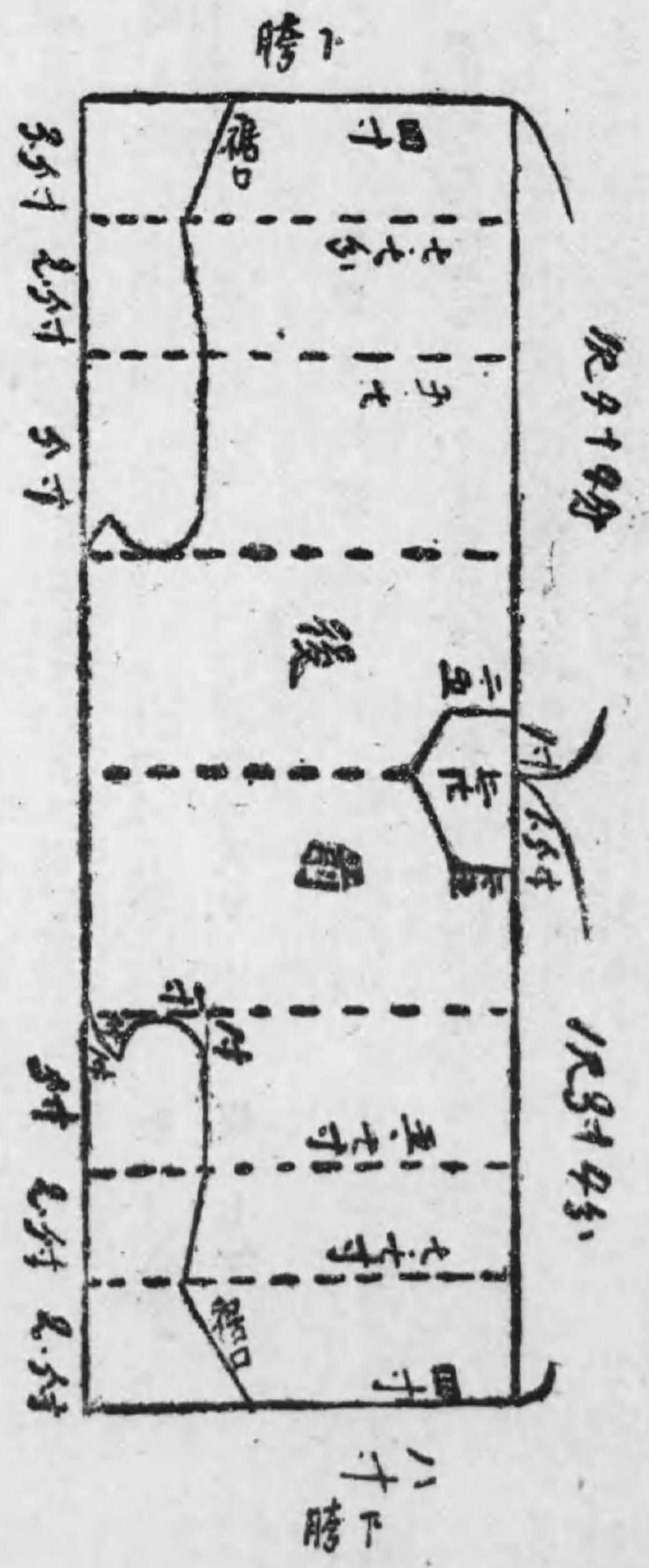
九、脇明き止まりに門止めをします

三、四歳用ロンパース

出来上り圖



製圖



用布は二尺幅の者で丈二尺八寸

子供服裁縫獨習書

残り布で  
股下に付く

持出し  
見返し  
丈二寸幅八寸  
丈一寸二分幅八寸

別布で袖口の縁布は斜布にて五分巾で丈二尺五寸

残り布で  
後明に付く

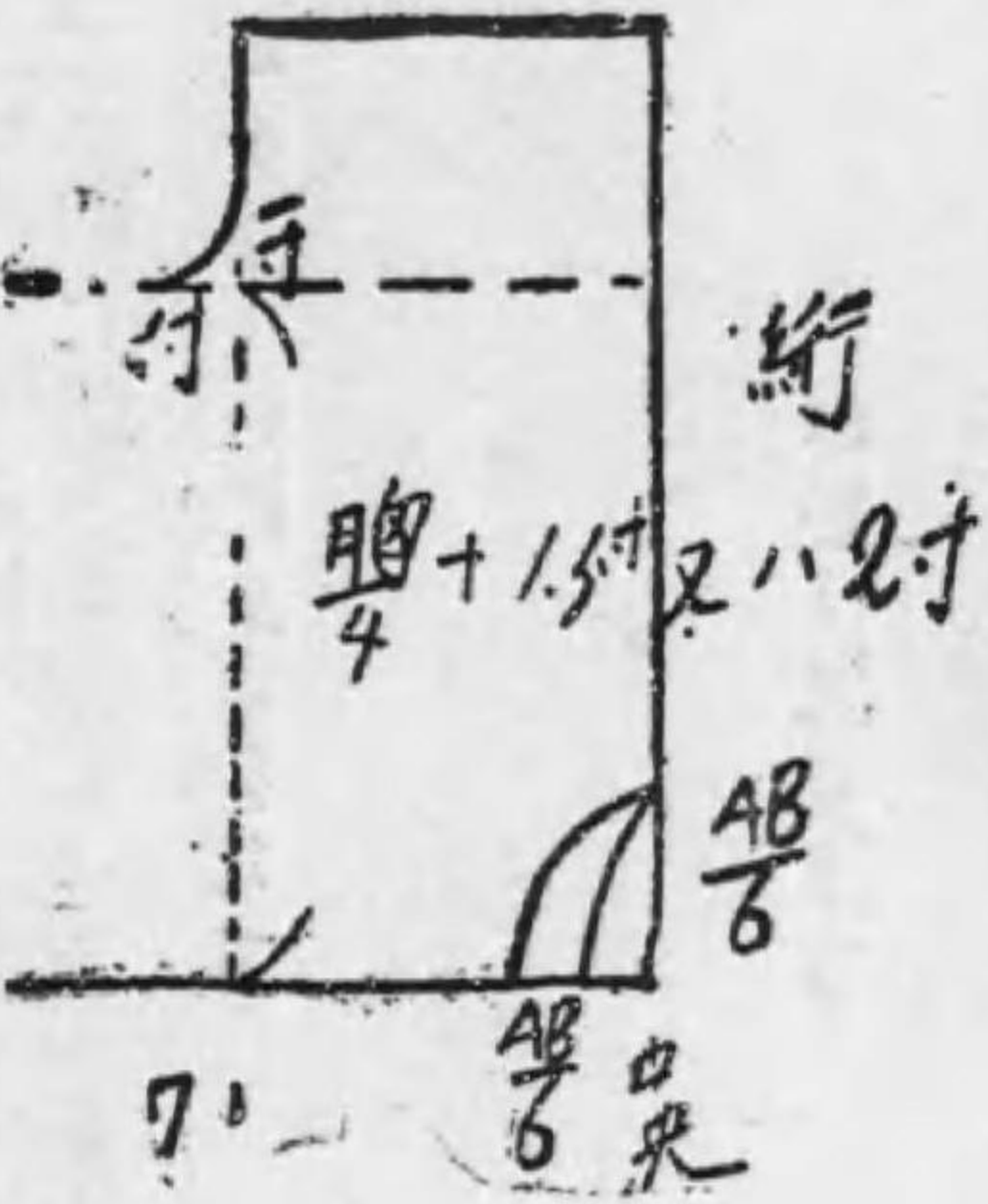
持出し  
見返し  
丈四寸五分  
幅一寸五分  
丈四寸五分  
幅七分

縫ひ方の順序

- 一、襟肩及顎にスモーク又は襷を取ります  
スモークとは網の目の様な格好をした飾り
- 二、袖口に別の布で細く縁を取ります
- 三、袖口下から裾口まで脇を縫ひます(巻き縫)
- 四、後ろ明きに持出し、見返しを付けます

- 五、襟肩及び顎に縁を取ります(残り布にて)
- 六、股下の前に持出し、後ろに見返しを付けます(上り巾七分)
- 七、裾口を三つ折にしてまつりゴムテープを入れます  
ゴムテープの長さは着る児童の足の太さ丈
- 八、股下の両端と中央と其又中央とにスナップを五個付けます
- 九、ポケットの布に裝飾をなし口に細く縁を取りて、他の三方の裁ち目を裏に折返して身頃に置き周圍にミシン縫をします
- 十、ポケットに門止めをなす

キモノスリーブ



女 兒 服

身丈けの定め方

膝 迄 長身の  $\frac{7}{12}$  又は  $\frac{5.5}{10}$

膝の下迄 身長  $\frac{8}{12}$  又は  $\frac{6}{10}$

巾は半胸に對して3の寸ゆるみ

キモノスリーブユキの定め方

手クビ迄(身長 -  $\frac{身長}{6}$ ) ÷ 2

ヒジの下迄(身長 -  $\frac{身長}{6}$ ) ÷ 2 -  $\frac{身長}{12}$

二の腕の中間迄(身長 -  $\frac{身長}{6}$ ) ÷ 2 -  $\frac{身長}{6}$

裾巾

膝迄は胸囲 +  $\frac{胸囲}{2}$

膝の下迄は胸囲 × 2 } 半胸に對して

股の太さは  $\frac{3胸囲}{4}$

ドレス四、五歳

(其の一)

出 來 上 圖



子供服裁縫獨習書

地 質 夏 着

- ゼフハー
- ポイル
- マドラス
- ギンガム
- モグサ
- シーチング
- ビケー

冬及春着

- ハビット
- ビロード
- スコッチ
- 色サージ
- 紺サージ



七、襟肩の中心より、裾までを量り其寸法を上(うへ)の裾に量りて、丸く画(えが)きます(其れは即ち後ろ裾)

八、前裾は、裾の下にて六分の半胸を取り、圖の如く画(えが)きます

九、波形に、袖口、裾口を切りま

前裾をどうして長く裁ちますかと申せば、洋服と云ふ物は、着て見て後ろが、前よりも長いのは非常に醜(みにく)い者であります

若しか此の製圖方によりて、襟肩の小さい時には、五分位大きく裁ち切ります

羅紗物の裁ち方注意

羅紗物は一寸見ますと裏、表がなき様に見えますが、表、裏の差が非常にあります  
羅紗目が逆にならん様にしませんと、同じもので仕立てゝも、まるご片身づゝ別の布で仕立た様に見るものであります、羅紗の裏、表を見分るには手で撫でゝ見る

とすぐ分ります、毛が右の上から、左の下に流れて、光澤があればそれは表であります、故に表を中に二枚重ねて裁てばよろしいのであります  
綾目のあるサージ類は斜に流れて居るを目當に表を決めます  
片身づゝ二枚重ねて裁つ時は、普通表を中に重ねたる上にて、型紙を當てゝ裁てばよろしいのですが、布巾の都合で一枚づゝ他の處で取る場合には、二枚目の時には必ず型紙を裏返しで裁つこと、そうしないと片身は必ず裏が出ることとなります

女兒上着用布見積り(一碼は鯨尺二尺四寸)

ドレツス

年 齡	巾五十六吋前後	巾三十吋前後
三 歲	七 分 弱	一 碼 四 分
六 歲	一 碼	二 碼

子供服裁縫獨習書

六四

九歳	一碼二分	二碼二分
十二歳	一碼五分	三碼
十五歳	二碼	四碼

備考 外套の用布はドレスと畧同じであります

男児用上着、ツボン用布見積り

年齢	巾五十六吋前後		巾三十吋前後	
	上着	ツボン	上着	ツボン
九歳	一碼	六分	一碼八分	一碼
六歳	八分	五分	一碼半	八分
三歳	六分	四分	一碼	七分

下着用布見積 (キヤリコ布)

年齢	ウエスト		ツロース		ペテコート	
	ウエスト	ツロース	ウエスト	ツロース	ウエスト	ツロース
三歳	四分	六分	四分	六分	四分	六分
六歳	五分	八分	五分	八分	五分	八分
九歳	五分	一碼	五分	一碼	五分	一碼二分
十二歳	六分	一碼	六分	一碼	六分	一碼六分
十五歳	六分	一碼二分	六分	一碼二分	六分	一碼八分

以上掲げたる用布の見積りは單に概算であります、襪などの多くあるものになりますと、之れ以上入用になります、精確に用布を見積りするには、先づ型紙を切り、用布に當てはめて見る事があります

其の一縫方順序

- 一、裁ち目のほぐれ易い地質の時には、袖口より裾口まで全部脇を縫ひ合せ、折りを後ろに返して千鳥を掛けます(左右)
- 二、裁ち目のほぐれ易くない地質の時には、脇は巻き縫ひにします、巻き縫ひとは、後ろに折を返すのですから、後身を二分の縫代、前身を一分の縫代にして縫ひ、後身で前身の裁ち目をくるんで三つ折りにして其上からミシン縫ひをします
- 三、別スリーブの袖下の巻き縫ひは仮りに縫代七分五厘ある時は、袖下を二枚共合せ初めに二分五厘折り次に又二分五厘折りて其上かちミシン縫ひをします(すべて巻き縫ひのミシンは輪の端に掛けること)
- 四、見返し及持出しの上り巾五分になす時には見返しは裁ち切巾九分、持出しは一

- 寸四分、丈は後明きに八分加へます
- 五、後ろの中央後ろ明きを裾よりかぶりて頭の緩り出づる位に明けます
- 六、残り布にて後ろ明きに左に持出し、右に見返しを付けます(仕方はプロセスの時の協明きと同じ)
- 但し見返し巾は表に出さず、裏に出し表より見返の周圍にミシン縫ひをします、先きは其儘にして持出しの上に見返しを當て先きを剣形にミシン縫ひをします
- 七、残り布にて襟肩に斜布五分巾で見返しを付けます其の付け方は、襟肩明きと見返し布を合せて、襟肩全部縫ひ、裏に折返して先きを折り上り幅二分になして周囲をまつて置きます
- 八、袖口、裾口に斜布で別布の縁を取ります(縁の上り巾二分)
- 九、緑布と同じ色のポケットを圖の如く鴛鳥形に付けます
- 十、後明きにスナップを付けます



ドレスツス

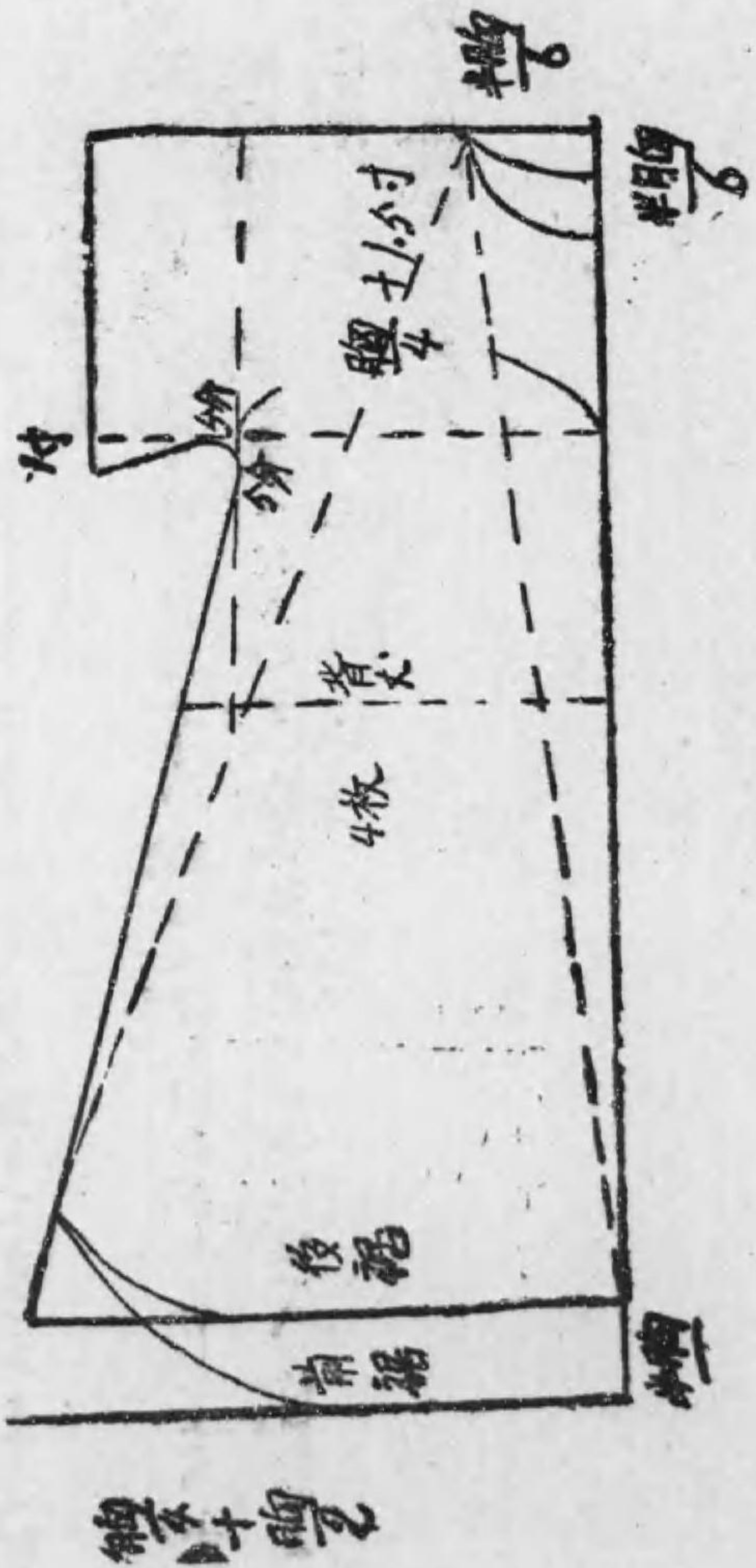
女兒服 (ベルスリーブ) 其の二

出来上り圖



地質は  
其の一と同  
じ

製圖



バンド布は別布でリボン等にてなすとよろしい

其の二縫ひ方の順序

子供服裁縫獨習書

- 一、脇を其の一と同じにします
- 二、後ろ明きの持出し、見返の付け方も前のごと同じ
- 三、襟肩の見返しの付け方も其の一と同じ
- 四、裾口、袖口を裏に一寸位折返して裁ち目を二分位折りてまつります（布を裁つ時に其折返しの方を加へること）
- 五、共布にてバンドを通す紐を付けます、幅は八分を四つ折りにします、丈はバンド幅に折返しの方を加へたものを、脇の縫ひ目の中央に當て、位置のよい處に丈夫に付けます
- 六、飾りは随意にします

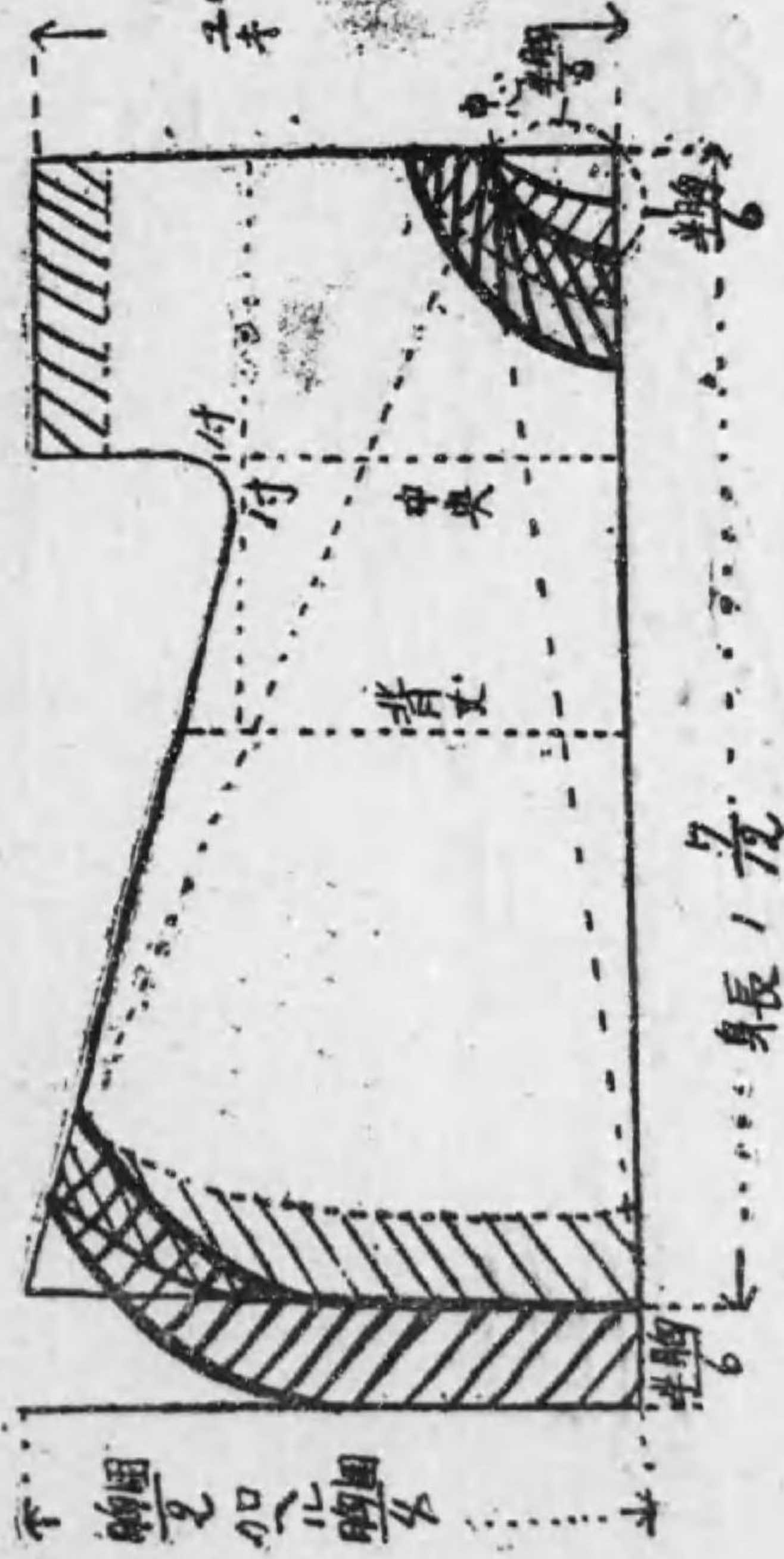
ドレスス女兒服其の三

出來上り圖



地質は  
其の一と  
同じ

(コク線、引キテアル所ハ後、ウクス引キテアル所ハ前)



斜線の引きてある處は別布

縫ひ方の順序

- 一、脇及後、明きの持出し、見返しを其の一の如くに付けます
- 二、袖の別布を身頃の袖口と同じ丈に袖下を縫ひ、縫ひ目を割つて置きます
- 三、袖の裏と袖口布(別布)の表と合せて縫ひ、袖の方が一分位控へる様に折を付け、表に返して別布の端を二分位に折りて、表より周囲にミシン縫をします(左右共)
- 四、裾の別布も矢張り丈を削ぎて縫目を割つて置きます其の削ぎ目が脇の削ぎ目の處にくる様にします
- 五、身頃の裾の裏と別布の表と合せて縫ひ、身頃の方が一分位控へる様になして表へ返し、別布の端の裁ち目を二分裏に折返して裾の周囲にミシン縫ひをします
- 六、襟肩明きの裏と、襟の別布の表と合せて縫ひ、身頃の方が一分位控へる様にして

- 表に返します、後ろ明きの持出しの處にては、持出しと後ろ明きの剝ぎ目の處に別布を二分裏に折返してシツケにて押へて置きます、見返しの處にては見返の端で別布を二分裏に折りて又シツケにて押へて置き、其れに續けて別布の端の裁ち目を二分裏に折返して置きます、持出しの上部を少しほごきて、其の裁ち目を出しの中に折返してつけて置きます
- 七、襟肩の周圍全部にミシン縫ひをします
- 八、又持出し、見返しを付ける前に襟肩の別布を縫ひ付け、あとで後ろ明の持出し見返しを付けた方がよろしい
- 九、後ろ明きにスナップを付け止めます

ドレスツス 女兒服(別スリーブ)其の四

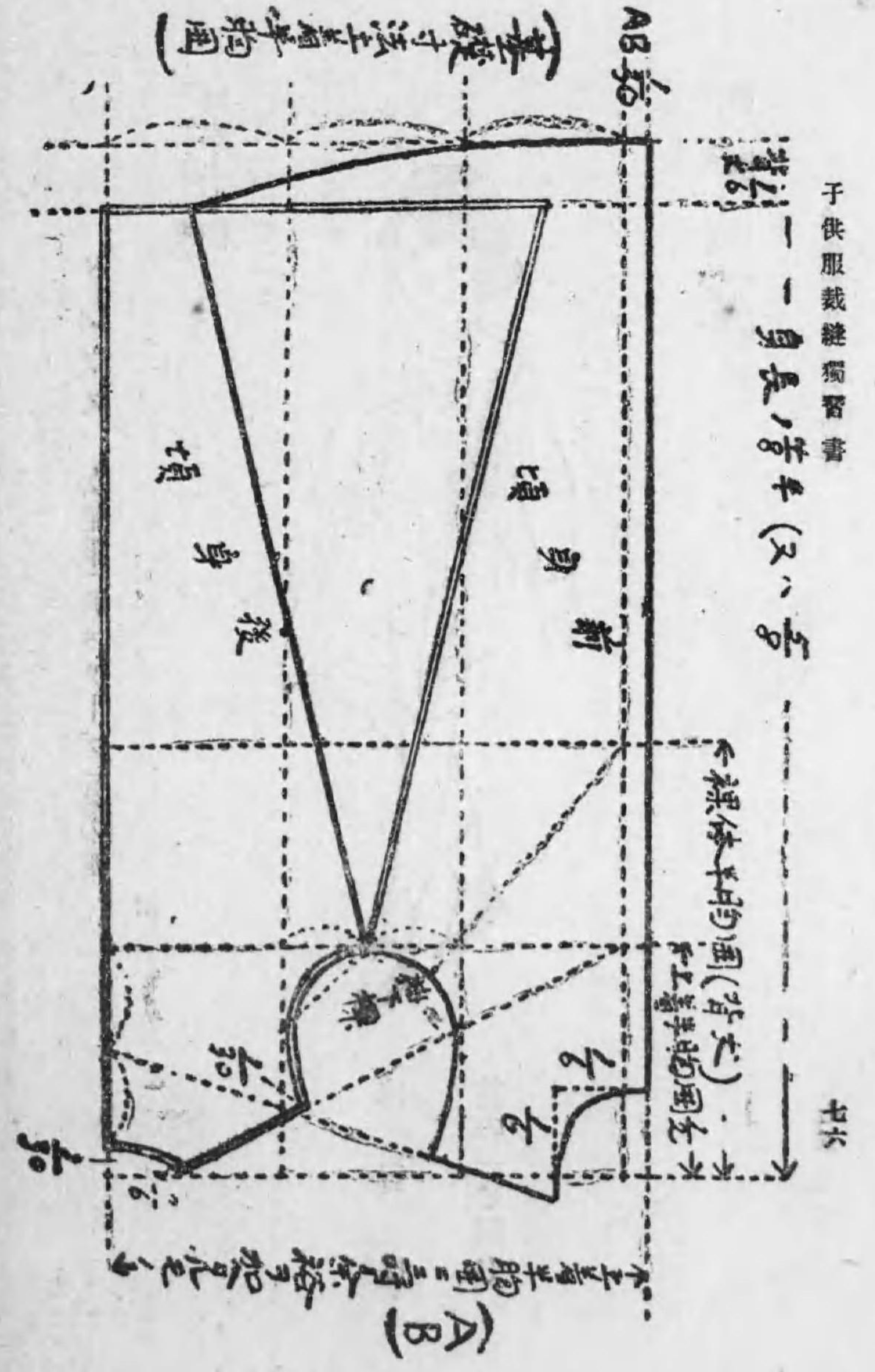
出来上り圖



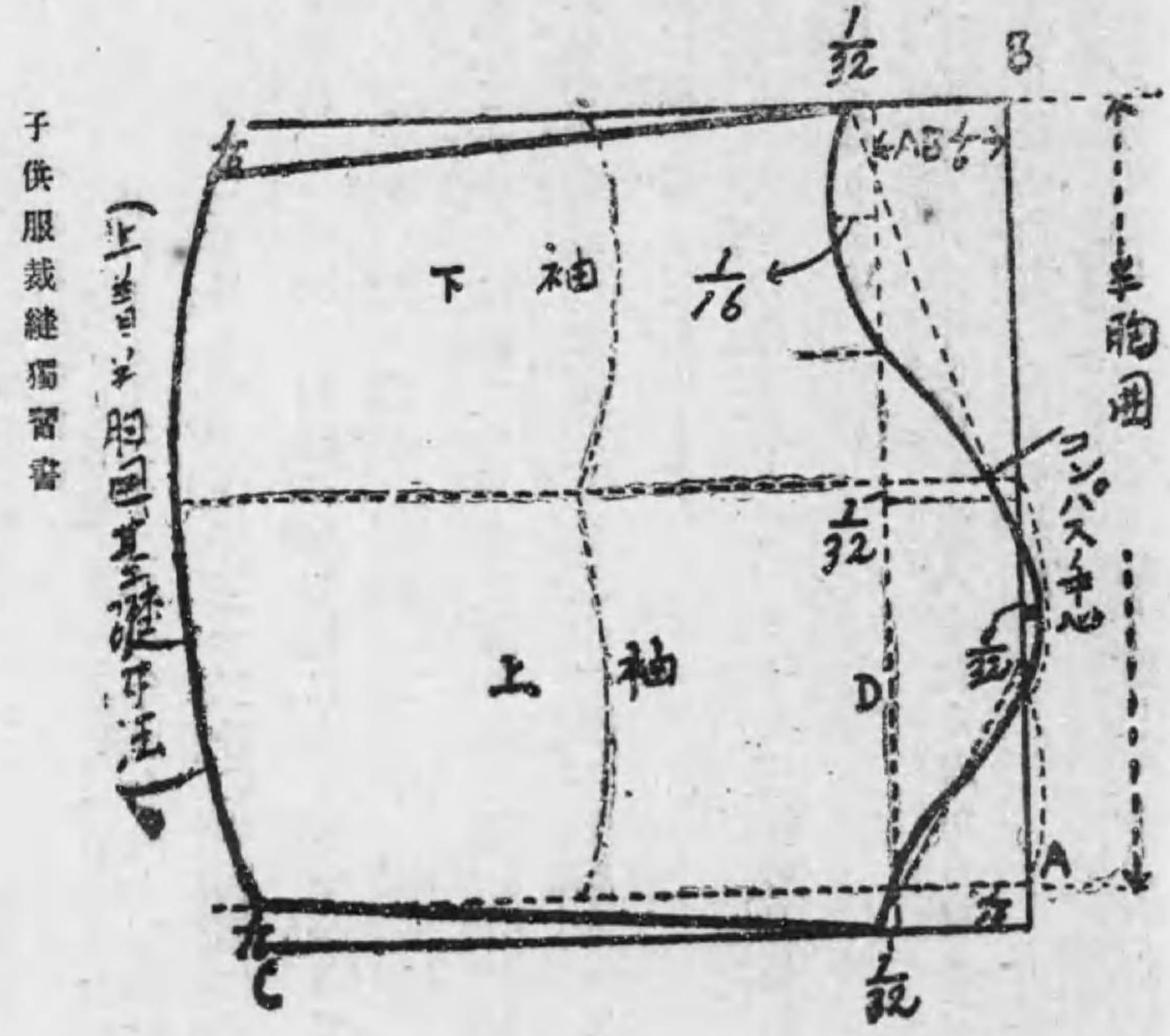
地質は 其の一同じ

製圖法(身頃)

子供服裁縫獨習書



袖の製圖法



袖の製圖仕方

- 一、先づ半胸を縦線に引きて、下に十六分の半胸を取りて横線は適宜に引きて長方形を作ります、十六分の半胸の處も線を引きます
- 二、右の端より六分の半胸を取りて、縦に線を引きます
- 三、半胸の中央に点線を引きます

- 引きます。其れより下三十二分の半胸を取りて線を引き、中央より上六分の半胸の線の處を三等分して、上で三十二分の半胸離れ、三分の一の處にては十六分の半胸離れ、三分の二の處に當る様に丸く線を書いて、中央より三十二分の半胸下りたる處に當り其の下を二等分して又其の中央にて三十二分の半胸線外に出でたる處と中央とに當つて、丸く圖の如く線を引きます。
- 四、六分の半胸取つた處から又三十二分の半胸取りて、曩きの線に接ぎて圖の如き格好に線を引きて止めます。
- 五、中心より六分の身長取りて、上下共三分の身長を中心より量りて丸く画きまして袖口となります。
- 六、上下共十六分の半胸中へ這入りたる處から端まで圖の如く斜線を引きます。
- 三分の身長は袖丈けとなります。
- 夏、冬三分の身長の中央より切り離してもよろしいのですが、冬は袖丈けが短か

く寒いと思ひましたならば此の儘でもよろしいのです。

残り布にて襟の見返しと、後ろ明きの持出し、見返しを取ります、両脇へ付けるバンドは別布です。

身頃の型紙には裾の折返しの方が入れてありませんから、布を裁つ時には折返しの分を入れて裁つこと。

縫ひ方の順序

- 一、両脇を裁ち目のほぐれ易い毛織物のときには、脇を縫ひ折りを後ろに返して裁ち目に、千鳥を掛けますが、裁ち目のほぐれ易くない木綿物の時には脇を巻き縫ひにします。
- 二、左右の肩を縫い合せ、折を後ろに返してまつて置きます。
- 三、後ろ明きを、裾よりかぶりて頭の緩り出づる位に明けまして、後と全部縫合は

- して折りを表より見て、右に返して千鳥を掛けます
- 四、後ろ明きに持出し、見返しを付けます
- 五、襟肩に見返しを付けます、其の付け方は其の一と同じであります
- 六、裾を三つ折りになしてまつて置きます
- 七、袖下を縫代丈け巻き縫いにして、袖口を三つ折にしてまつります
- 八、外袖付の丸く出張て居る處を少し縫ひ縮め、袖下の縫目と身頃の合印とを合せ
- て、袖を仮に縫付けます、袖の繰て居る處は袖を吊し加減にして、肩の襷を取つた邊りは袖を緩め加減にします、表に返して見て袖口が、前幅の中央に自然に向く様に格好よく付いたなれば、テープで袖付の縫込みを挟んで返し縫ひにします
- 九、前後、両脇に緩みだけを、奇麗に縫ひ縮め又は襷を取りて其の上に別布の上り幅一寸のバンドを當て周圍にミシン縫ひをします
- 位置は着者に着せて見て格好のよい處に付けます

- 十、後ろ明きにスナップを付けて止めて置きます
- 十一、飾りは随意にいたします

ドレス 女兒服(其の五)

出来上り圖



地質は

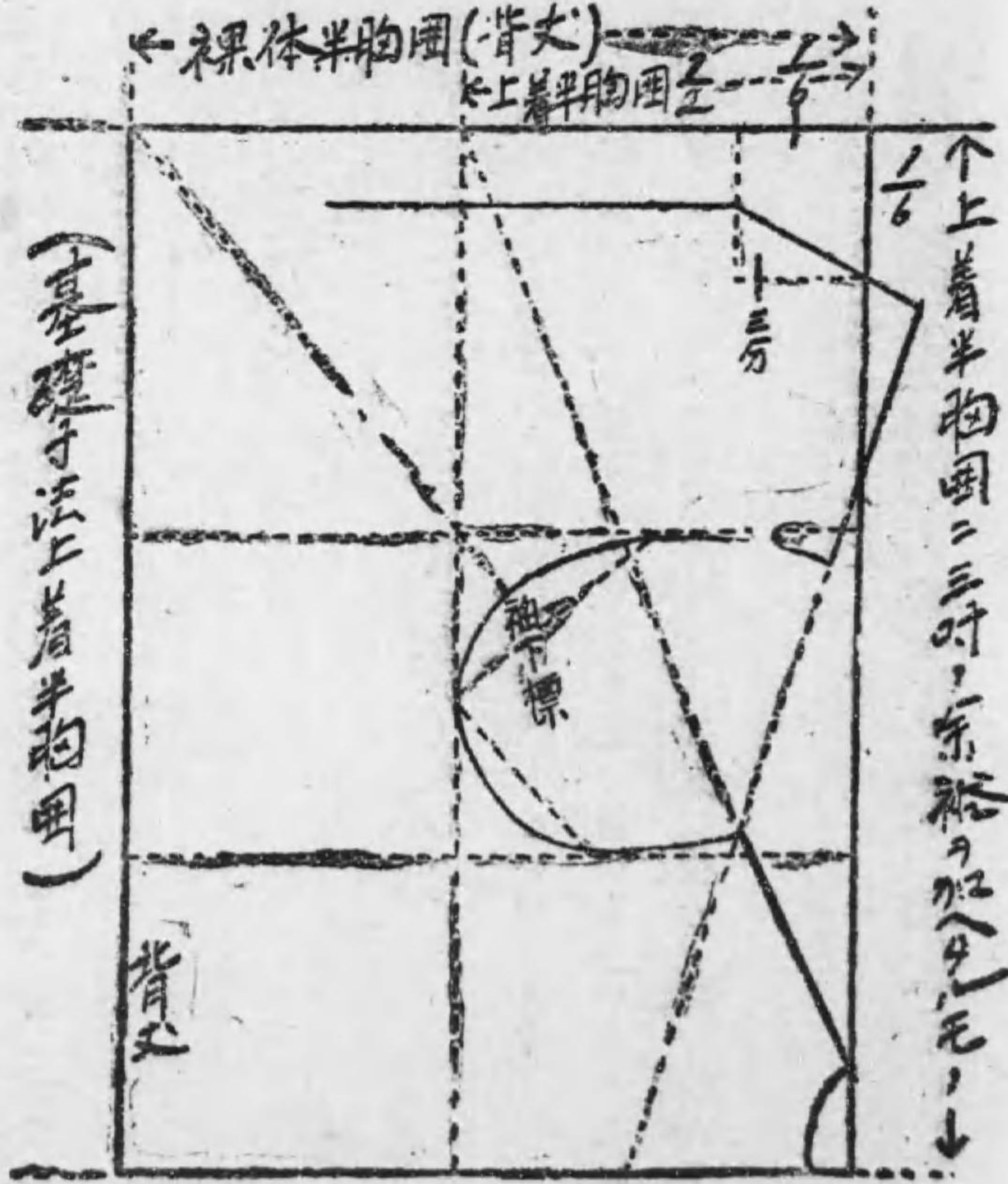
其の一と同じ

身頃の製圖及袖の製圖は其の四と同じ

子供服裁縫獨習書

法圖製の頃身

子供服裁縫獨習書



八三

子供服裁縫獨習書

縫ひ方の順序も其の四と同じであります。袖口と襟肩に紋レースの飾りがしてあります。

八二

レースの付け方はレースの山を小針で小さく揃て行きます。

ドレス 女兒服(其の六)

出来上り圖



後ろ明きをせずに前の横で、釦掛けにする場合



前で釦掛けにする時は、前の脇へ切り込みを入れます、着る様にして見て、其明きが右にくる様にすること

但し一方丈け明けること

袖の製圖は其の四に同じ

縫ひ方の異なる点を述べます

一、襟の見返しは表にならつて角に取る方がよろしい

二、襟肩及び袖口を太き糸にてかがり付けて飾りといたします

三、バンドを襟肩及び袖口の飾りの糸と同じ色を用ゆる方がよろしい

四、バンドの後ろをスナップで止めて置きます又は後ろ、脇で結んで飾りといたします

ます

五、前にて釦掛けにする時は飾り釦にします

六、前明の持出し、見返しの仕方は、後ろ明きの時と同じであります

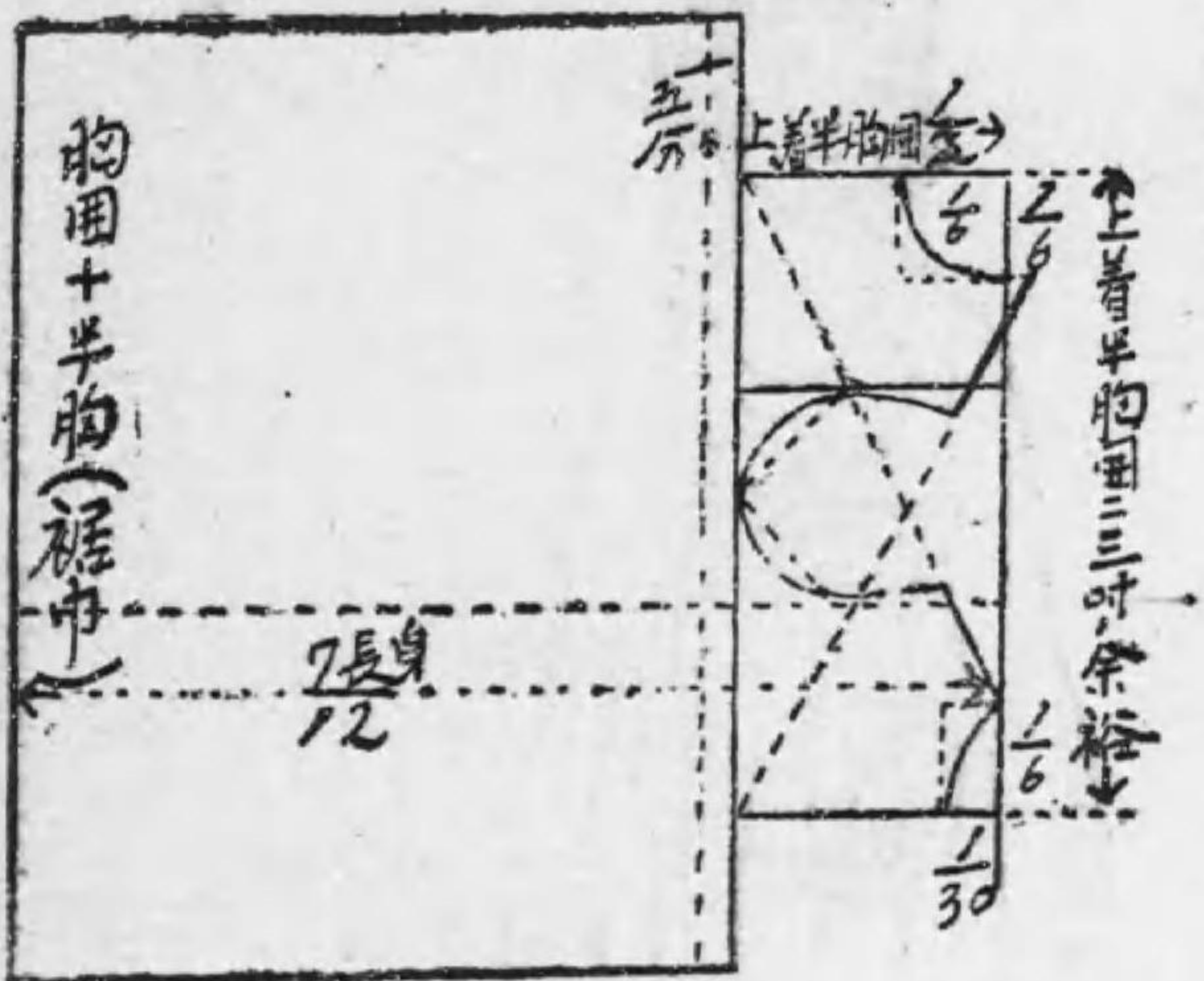
ドレス 女兒服(其の七)

出来上り圖



地質は其の一と 同じ

身頃の製圖



裁つ時  
には裾  
の折返  
しの分  
を加へ  
ること

袖の製圖は其の四と同じ縫ひ方の異なる点だけ述べます

- 一、下の方の廣く裁つてある處を、ウエストと同じ巾に縫ひ縮めます(但し前は輪になし、後ろは裁ち目にいたします)
- 二、荒く上下を縫ひ合はせ置きます
- 三、後ろ明きを裾よりかぶり

頭のゆつくり出づる位に明けまして、後を全部縫合せて折りを表より見て、右に返して千鳥を掛けます

四、假に縫ひたる處を極く細かく半返しに縫ひ、折りを上に返して表よりミシン縫ひにします

五、後ろ明きに持出し、見返しを付けましてスナップで止めます

六、ウエストと縫ひ縮めた處の剝目を隠す爲めに、別布で縁を取るのも又妙であります

七、飾りは随意にいたします

女兒水兵服

出來上り圖

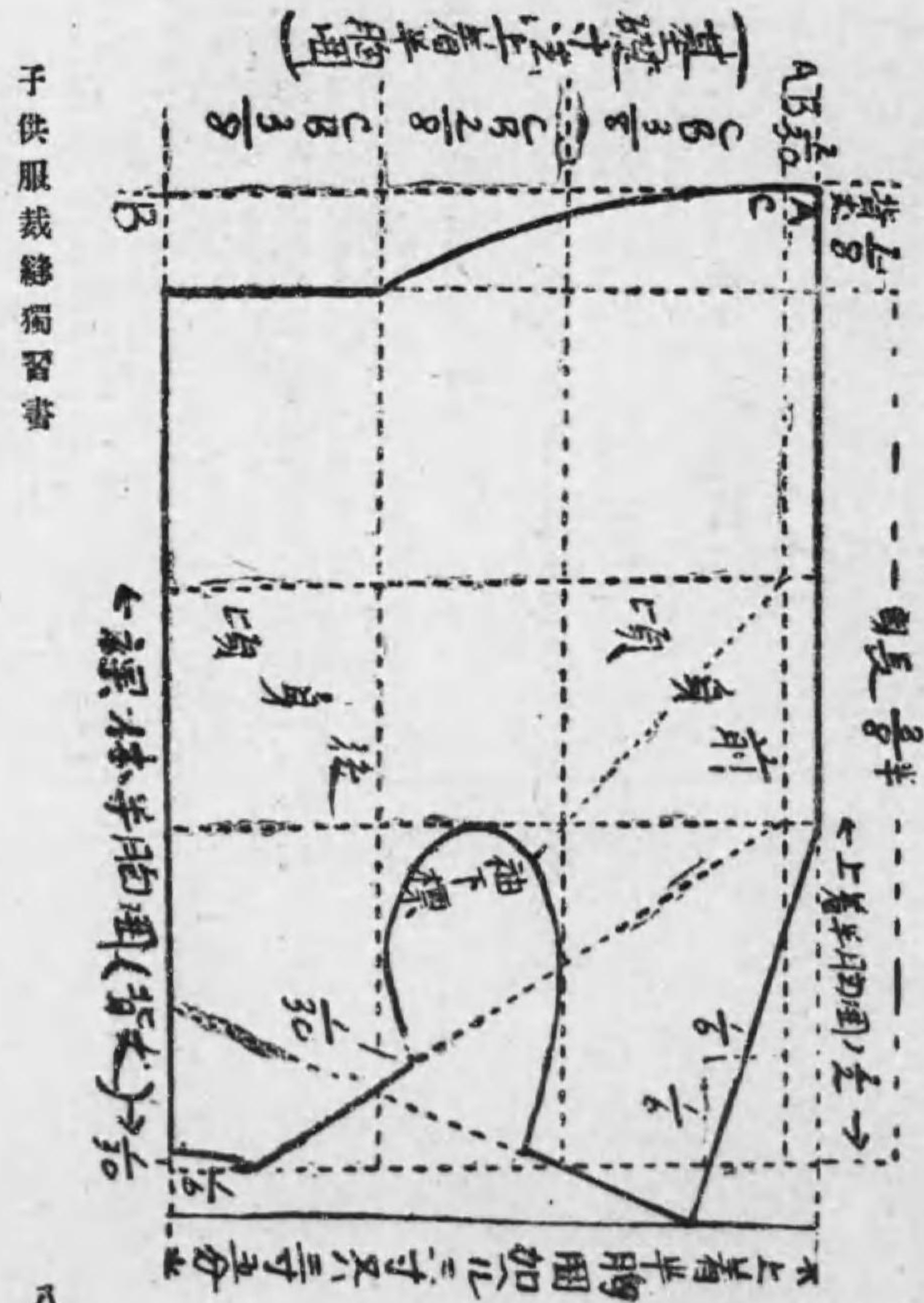


ブラウスは衣、スカートは裳に當ります、上下二つのものから成り立ちて、水兵服となります

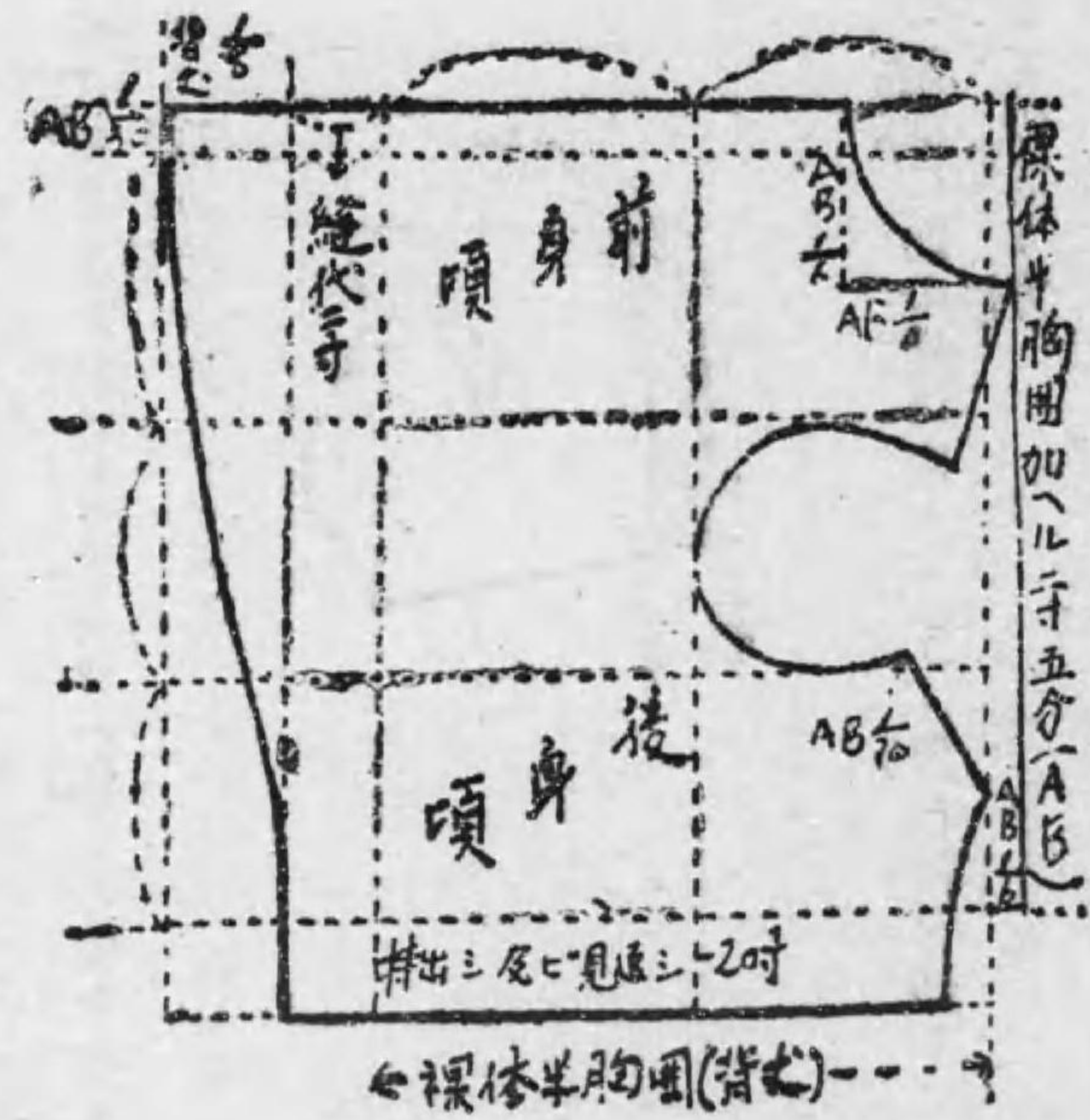
地質

夏なればブラウスを白のピケ又はマドラスにし、スカートや襟、袖口に、モグサ又は縞のゼツパにするとよろしい、冬なればブラウスもスカートも紺サージにして

襟や袖口に白き縁布を取るとよろしい  
ブラウスの製圖

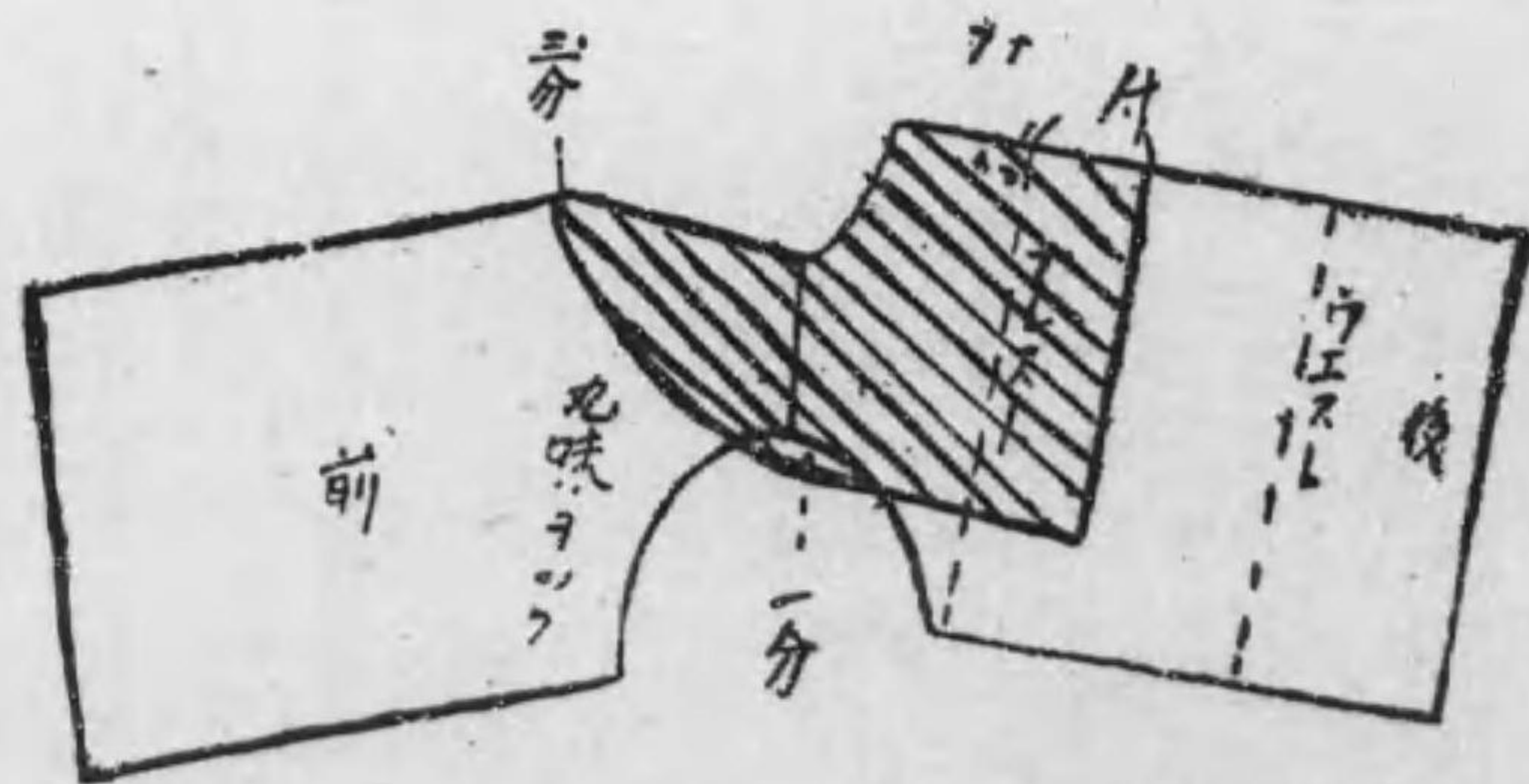


ブラウスの前をワナになし後の中央を裁目にしまして五分の縫代を取ります  
 又後の中央をワナになして前の中央を裁目にして持出し見返しを附けて前掛にする時は男兒水兵服の一番最初のと同じにいたします  
 但し前へ附ける釦は小さい釦にいたします  
 袖の製圖は女兒服其の四と同じ  
 スカートの丈は三分の身長+裾の折返し分  
 幅は胸圍の三倍  
 スカートの續くウエストの製圖

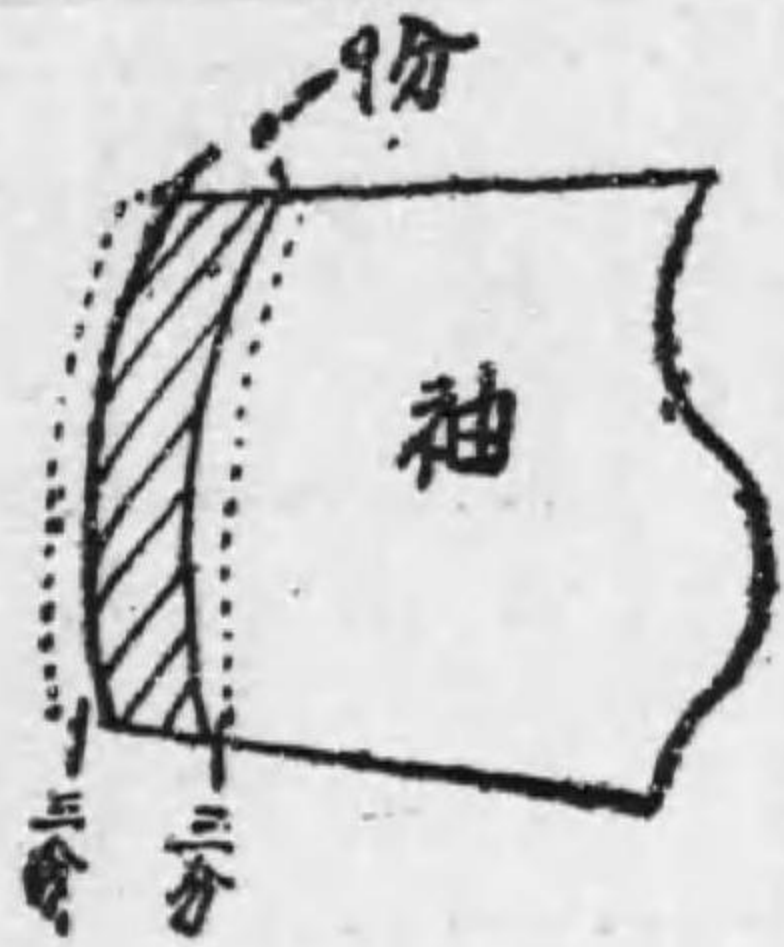


子供服裁縫習書

方り取のーラカ



ブラウスの型紙を脇の中央より切り取ります  
外の型紙に此の様に取ります (但し身頃を切りてはなりません)  
カフスの取り方



外の型紙に此の様に取ります (但し袖を切りてはなりません)  
胸當りの取り方  
スカートに續くウエストにて取ります

縫ひ方の順序

ブラウスの縫ひ方

- 一、後ろの中央の裁ち目を五分の縫代にて半返しに細かく縫ひます、縫目を割つて両端に千鳥を掛けます (表へは極く小さな針目を出すこと)
- 二、裾を三つ折りになしてまつるか又はミシン縫ひにします



三、両方の肩を細かく半返しで縫ひ合せ折りを後ろに返してまつります又は表よりミシン縫ひにします

四、袖下を巻き縫ひにします次にカフスの丈の端も袖口と同じに縫合はせて、巾の端を三つ折りになしてまつり置きます又はミシン縫ひにします次に袖口の裏にカフスの表を合はせて縫ひ付け、折りを袖の方に返しカフスを表に返し袖の方を少し控へて折りて置きます

五、外袖付の丸い處を少し縫ひ縮め、袖下の縫ひ目と、身頃の合印とを合せて袖を仮りに縫ひ付けます、袖の繰て居る處は、袖を吊し加減にし、肩の襞を取つた邊りは袖を緩め加減にします

表に返して形を見て袖口が前巾の中央に自然に向く様に、形よく付いたなればテープで袖付の縫込を挟んで返し縫ひにします

六、カラーの周圍に巾五分の斜布で縁を取ります

七、襟肩にカラーを合せて其の上に五分巾の斜布の見返しを當て、襟肩の止まりよりカラーの周圍全部を縫ひ合せます、縫込みを見返しでくるんでまつります此時少し見返しを控へ加減にします

八、襟肩の止まりへ(胸のところ)飾の爲めにリボン等を結んで付けます

ウエストの縫方

一、ウエストを後掛けにいたしまして、持出し及び見返しを作りて、周圍にミシン縫ひをします

二、胸當の周圍を二分裏に折返しておきます

三、胸當の襟肩と、ウエストの襟肩を縫合せて表に返しミシン縫ひをします、次に胸當の周圍全部に表よりミシン縫ひをします

四、左右の襟肩を細かく半返しで縫合せ、折りを後ろに返してまつり置きます

五、後襟肩及び袖くりの處に斜布五分の見返しを付けて裏に折返して上り巾二分になしてまつります又はミシン縫ひにします

六、後襟肩の止まりから三分下りて見返しに、釦の大きさに合せて、釦穴を明けます其れより二寸又は二寸五分の間を置いて穴を明け、穴かゞりをします

七、釦穴に合せて持出しに、釦を付けます

スカートの縫方

一、スカートの丈けをハギ合せて、縫ひ目を割り千鳥を掛けます

二、裾を三つ折りにしてまつります

三、スカートの巾を、ウエストの裾の巾丈けに奇麗に襷を取りて、ウエストを釦掛になした儘スカートの上部とウエストの裾とを細かくハギ合せ、折りを上に返して表よりミシン縫ひをします

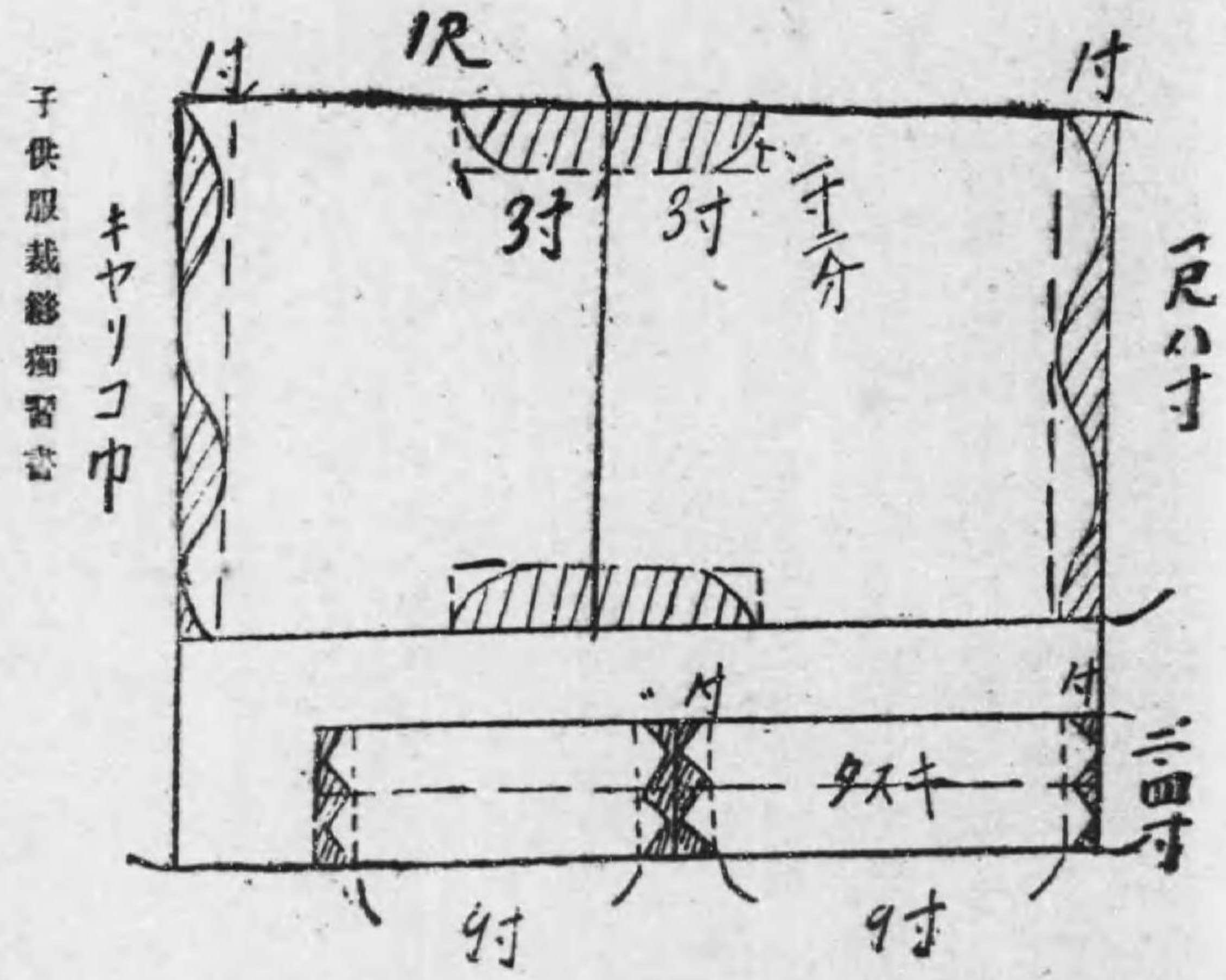
ポケットを付ける場合

ポケットの巾三寸五分又は四寸、丈けが六寸五分、丈けを二つ折になして上下を細かく縫合せます、其時幅の裁ち目を二分五厘縫ひ残して置きます

但しポケットはスカートの襷を取る前にします、スカートの右の脇の縫ひの上部より一寸下りて三寸縫ひ残して置きます、脇に縫ひのなきときは右の脇へスカートの剥目がくる様にします、次にスカートの表と、ポケットの表と中表に合はせて、二分五厘の縫代にて両端を縫ひ合はせます明きよりもポケットの方の長き分は、下部にてポケット二枚丈け縫合せます、ポケットを前幅の方に向けて上下を表へ極く小針を出してまつて置きます又は千鳥を掛けます、表へ返して明きの上下に門止めをします

七八歳用西洋前掛 (洋服用)

出来上り圖



子供服裁縫獨習書  
キヤリコ巾

二尺八寸

尺二寸

用布はキヤリコ幅二

裁ち方の圖



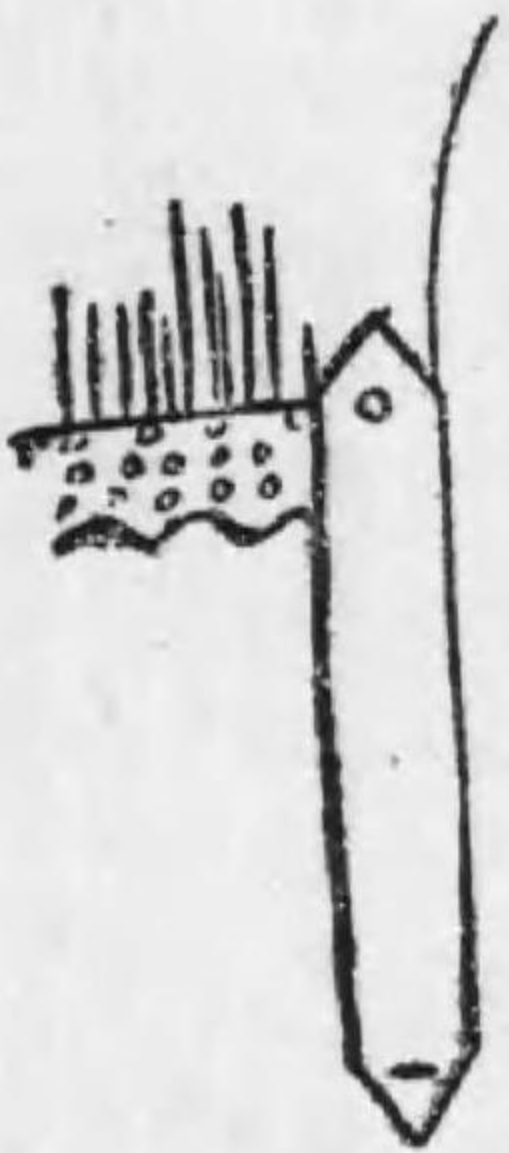
子供服裁縫獨習書



縫ひ方の順序

- 一、両脇を縫ひ、折を後ろに返して、裁ち目をまつるか又は千鳥を掛けます
- 二、裾口に一寸五分位のレースを半返しで縫付けて、折りは身頃の方に返し、表よりミシン縫ひをします
- 三、身頃の脇明の裁ち目に五分幅の斜布の見返しを縫ひ付け、裏に折返し端二分位になして裁ち目を折りてまつります
- 四、前身頃の脇明きの端より左右一寸づつ残し、あとの幅を裁ち目より一分の縫代にて細かく縫ひ又縫ひ目より一分下りて尙一本縫ひ、其れを三寸位に縮めます（若し三寸に縫ひ縮まない時には細かく少さき襷を取ります）  
次に後ろは全部縫ひ縮めます（其の幅を、前三寸に縫ひ縮めます若し縫ひ縮まぬ時わひだを取ります）

- 五、裾口と同じのレースを一番巾の廣き處を一寸三分と定め、丈は三寸に縫ひ縮めたる處よりも五分多くします  
キヤリコの残り布の巾二寸の布をレースと同じ丈に切りて、三寸縫ひ縮めた處の裏に當て、レースを表に當て、左右二分五厘づつ出して縫代二分になして三枚縫ひ、レースと裏布を表の方に返します、縫ひ目にミシン縫ひをします
- 六、レースの上部波形の處の裏布巾を定め、裏布の巾廣き分を、レースと裏布の間に折りて、表に極く小針を出してレースの上部をまつります
- 七、裨布を幅を二つに折り、前の襟肩のレースより下に劍の出づる様になして、レースのある處も、劍のある處も表、裏の裨にて挟み、劍の先きも裨全部二分の縫代に折りて、裨の周囲全部ミシン縫ひにします（左右共）  
裨の上り幅一寸



八、次に後ろの縮めた處に巾二寸の布を當て、半返しで縫ひ、裏に折りてまつり付  
けます(左右の端を紐先の如く折ります)

九、襷を後ろにて十文字になる様にして、後ろの二寸の巾を當てた處の端に當て、  
襷の方に穴を明け、身頃にボタンを付けて止めます、劍先にも飾りボタンを付け  
ます

附言

五、六歳用のものは丈けど、巾を適宜に縮めて應用すればよろしいのであります

男兒用水兵服

上衣 ブラース

下 半ツボン

地質は

夏は

ビケー、マドラス、セツバ、モグサ、ホプリン等にして上衣が白ぼい物なれば、  
半ツボンは淺黄色の物がよいと思ひます

冬は

紺サージ、セル、スコッチ、ハピット

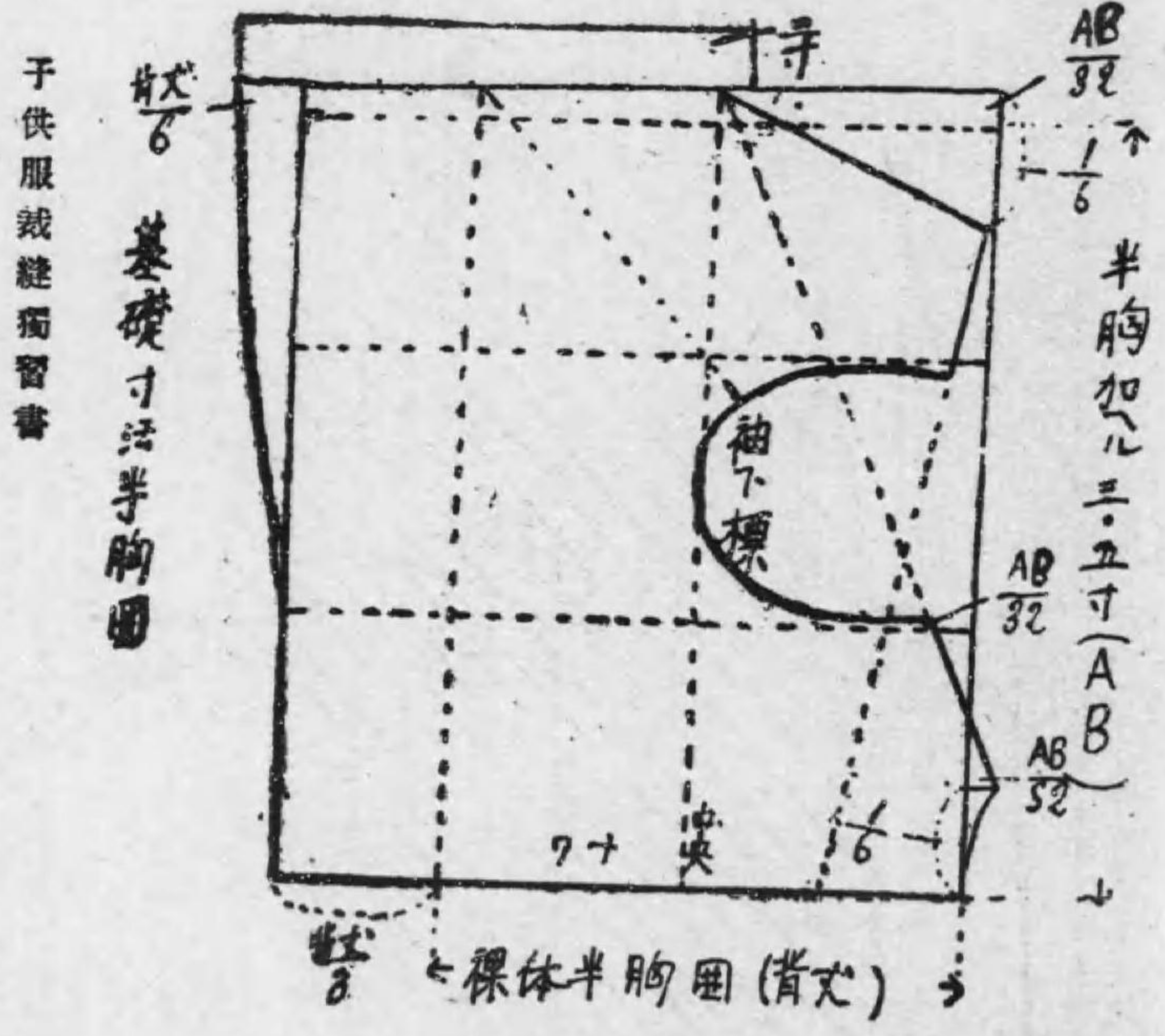
男兒用水兵服に重に五、六歳に用ゐられます

子供服裁縫獨習書

出来上り圖

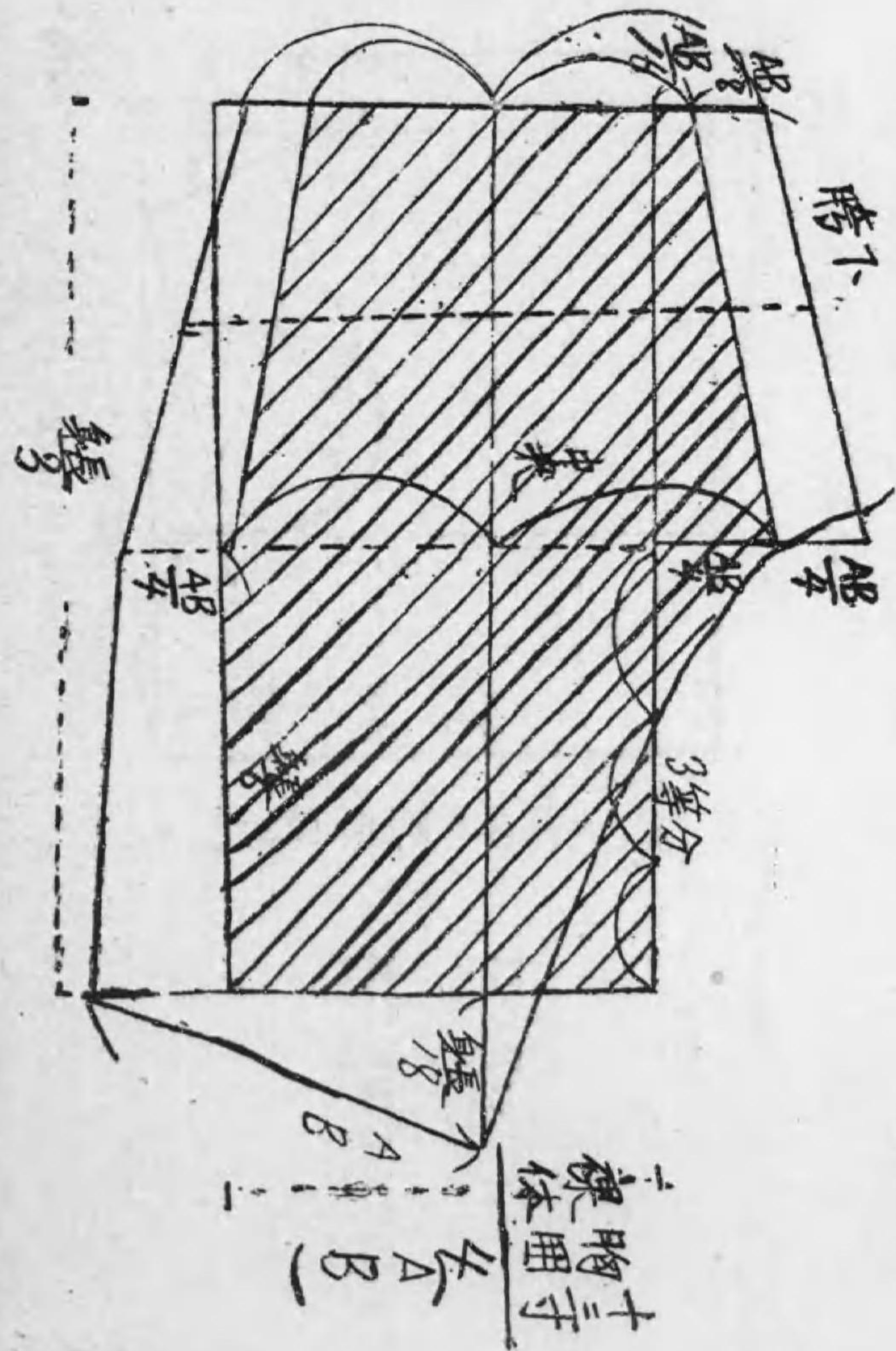


上着ブラーヌの製圖



袖の製圖は女兒服其の  
四と同じ

半ツボンの製圖の仕方



斜線の引いてある處は前、あとは後ろ  
 半ツボンの型紙を取るときには前と後と取るべし

半ツボンの製圖の仕方

- 一、三分の身長しんちやうの横線よこせんを引きます、裸体胸圍らたいきやうゐ十三寸を四等分さうぶんした寸法すんぽう AB を、縦線たてせんに引ひきままして、長方形ちやうほうけいを作つくります
  - 二、三分の身長しんちやうの中央ちゆうあう、(即ち六分むぶんの身長しんちやう)の處ところに縦たてに点線てんせんを引ひきます
  - 三、三分の身長しんちやうの中央ちゆうあうより上うへ、線せんの外そとに四分よんぶんの AB を二つ取とります、一つ目の四分よんぶんの AB と一番下ひだりはしの横線よこせんとを、二等分どうぶんいたまして中央ちゆうあうに点線てんせんを引ひきます
  - 四、左端ひだりはしの線せんの上うへに十六分じゅうろくぶんの AB 取とりて、一つ目の四分よんぶんの AB と結むすんで線せんを引ひきます
- 十六分じゅうろくぶんの AB 取とりた其上そのうへに八分はちぶんの AB 取とりて、二つ目の四分よんぶんの AB と結むすんで線せんを引ひきます

引きます

五、十六分のA B 取った所と、中央の点線の間の寸法を量りて、其の寸法を中央線より下に寫します

六、十六分のA B 取った上、八分のA B より中央までの寸法を量りて其の寸法を又下に寫します

七、十六分のA B の寸法の方を三分の身長しんちやうの中央線の端に線を引きます續けて一番最初の横線よこせんにならつて、線通りに引きます

八、八分のA B の方を、三分の身長しんしやうの中央線の下に、四分のA B 取りて線を引きます

九、股上またがみを圖の如く三等分さんぶぶんしまして、横の中央線の外に十八分の身長しんちやう、出でた所と三等分さんぶぶんしました三分の一の所に、斜線ななめせんを引き其勢そのいきほひで、股下またしたを丸く画えがきます

十、最初の縦線たてせんを真直ぐ下まで延のびます十八分の身長しんちやう、出でた處と線を延のびした處に當て、其の長さをA B に同じにして斜線ななめせんを引きます

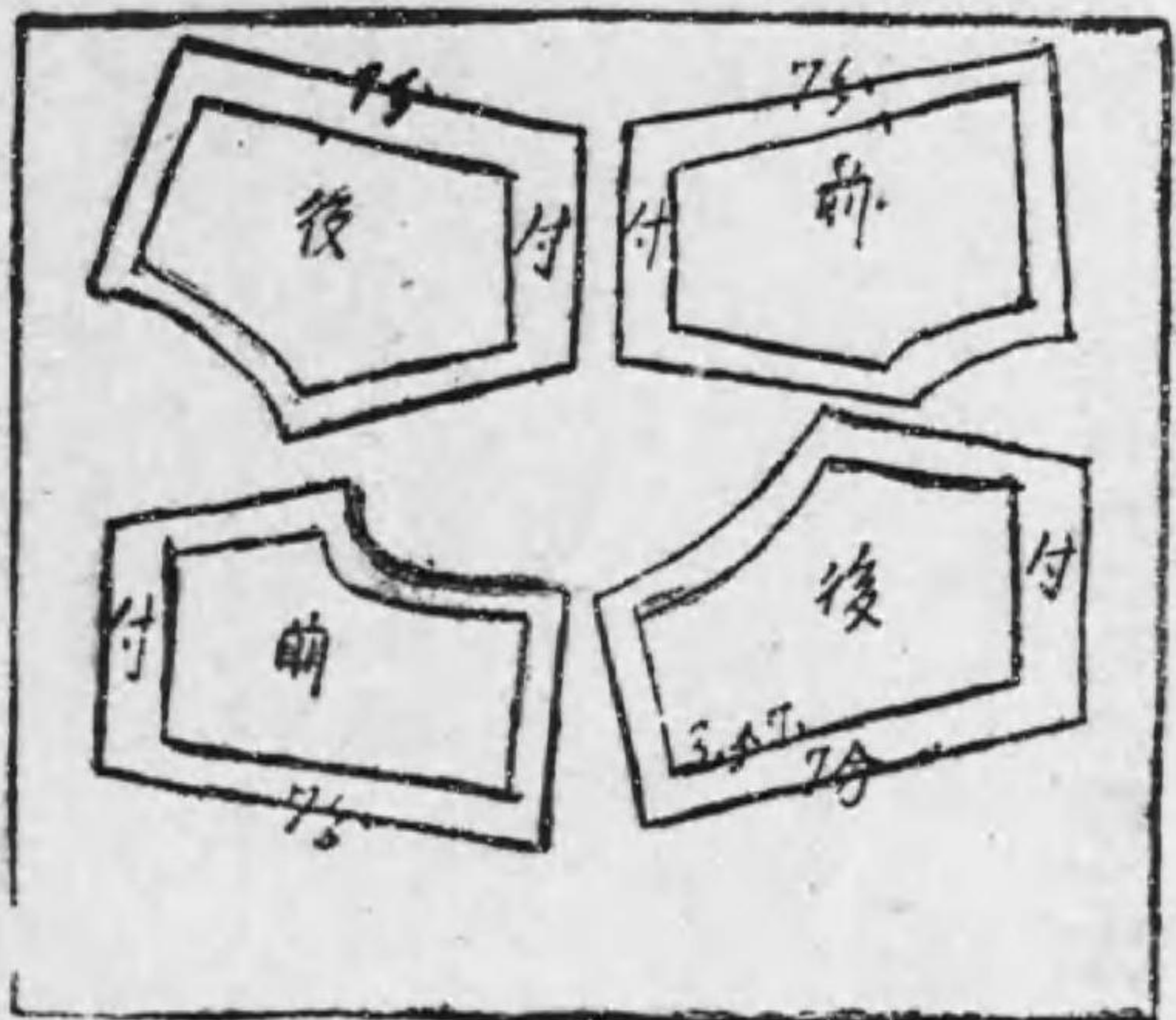
引ひきます  
十一、四分のA B を下に取りたる處と今の線とを結んで、すこし丸味まるみを付けて線を引ひきます

十二、夏なつで五、六歳の時は、股下またしたを中央より切取りますが、七、八歳の時は股下の三分の一を切取ります

冬ふゆなれば此の儘ままでよろしいのです

カラーの取方とりかた及カフスの取り方は女兒水兵服ぢよじすゐへいふくと同じであります

### 半ツボン布の裁ち方



残り布にてシツク(しりあて)

斜布で幅一寸五分、丈九寸一枚

裾口に一寸の縫代

脇には七分の縫代

他は五分の縫代

残り布にて持出し、丈四寸五分、幅二寸

見返し、丈四寸五分、幅一寸

各二枚づゝ

バンド

前は丈九寸五分、幅一寸七分

後ろは丈一尺一寸、幅一寸七分

各一枚宛

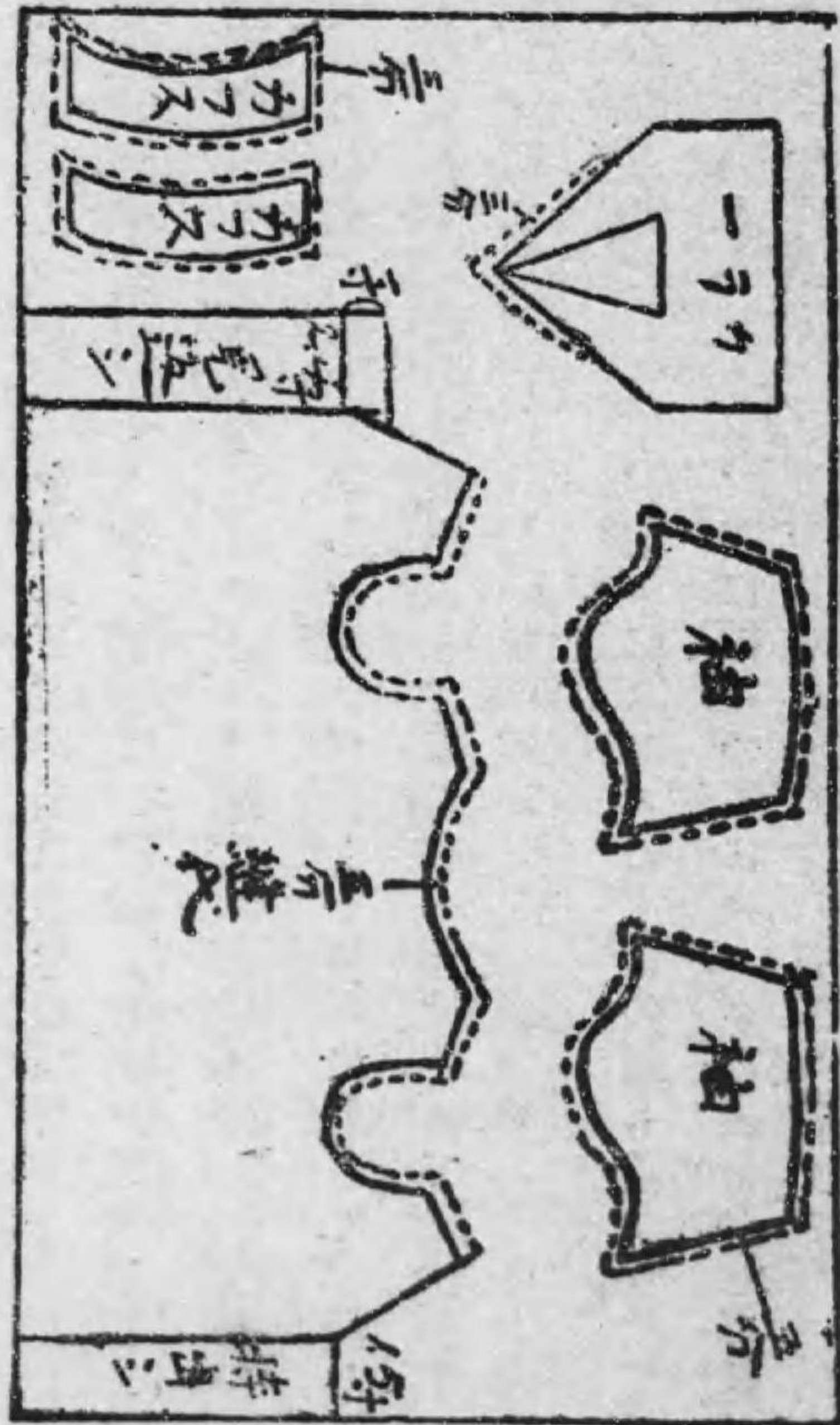
カラーの縁に付く斜布 巾五分、丈はカラーの同囲だけ取ります

### 半ツボン縫ひ方順序

- 一、脇明き印より、裾の折返し印まで両脇を縫ひ、折りを前の方に返して、縫込の端に千鳥を掛けます
  - 二、脇明きに、後ろに持出し、前に見返しを付けます。上り巾(七分)
  - 三、前、後の股上を、斜を延ばさぬ様に縫ひ(股下の縫代は、縫ひのこします)折りは左右に割ります
  - 四、前、後の股上の縫目を合はせて待針を打ち、股下を左右續けて縫ひます。此時も裾の折返しは縫ひ残します。折りは前に返して千鳥を掛けます
  - 五、股上に、尻當で縫ひ込みを包みてまつり付けます
- 尻當の丈の両端も裁ち目を折りてまつります

- 六、裾口を三つ折りにしてまつります
- 七、上部裁ち目を、表裏のバンドにて挟みて縫ひ、表バンドの巾一寸と定めて、たけの両端を普通紐の如く縫ひ、裏を一分控へて巾を折り、まつり付けます、前後共同じ（バンドの裏はキヤリコで、表と同じに取ります）
- 八、前、後のバンドの丈の端に、横に穴を明け、後ろは丈を四等分して五つ、前は三等分して四つ、中央の穴は縦に明けます
- 九、脇明き止りに門止めをします
- 十、仕上げをすること

フリース布の裁ち方



残り布にて襟の見返し、斜布で巾五分、丈は襟肩明き全部  
力布、巾一寸五分、丈二寸を七枚取ること

ブラーの縫方順序

- 一、右の前の持出しを、裁ち目を二分裏に折返し、上り巾七分に折りて、まつり付く、上部は縦に一分切込を入れて、持出し巾を縫ひ付く
- 二、左の前身頃の見返しを、裏に折返して見返し巾七分に、二段に折りて、最後に裁ち目を折りて、奥の折り山を包み、表よりミシン縫ひをします
- 三、前後の肩を極く細く半返して縫ひ、折りを後ろに返して、縫ひ込みの端を折りて、まつります（此の時前肩より、後肩を一分位緩めて縫ひます）
- 四、裾を二分次に五分折りて、まつり付けます
- 五、袖下を巻き縫ひにします、次ぎにカフスの丈の端も縫ひ合せて、中の端を三つ折りにして、まつります、次に袖口の裏にカフスの表を合せて縫ひ付け、折りを袖の方に返し、表に引返して、袖の方を少し控へて、折を付けます

- 六、外袖付の丸い處を、少し縫ひ縮め、袖下の縫ひ目と、身頃の合印とを合せて、袖を假りに縫ひ付けます、袖のクレて居る處は、袖を吊し加減にし、肩の襷を取つた邊りは、袖をゆるめ加減にします、表より形を見て、袖口が前幅の中央に、自然に向く様に形よく付きたなれば、テープで袖下の縫込み挟んで、返し縫ひにします
- 七、カラーの周圍に、幅五分の斜布で縁を取ります
- 八、襟肩にカラーを合はせ、其上に五分巾の斜布の見返しを當て、縫ひ、縫込みを見返して包んで、まつります、此時少し見返しを控へ加減にします、前明きの止まりより、三分下りて見返しの中の方にボタンの大きさに合はせて、ボタン穴を明けます
- 九、其の中間を三等分して、全体で四つ穴を明けます、見返しに合はせて持出しにボタンを付けます



十、ウエストの線に當たる處に、カ布を付けます、大きさは巾一寸五分、丈二寸の裁ち切の布を、布丈二分五厘づつ、裏に折返してツボンのバンドの穴に合せ、後ろの中央、其他に當て表よりミシン縫ひをします、又はまつり付けます

注意

ツボンよりも、ブラースの方が、緩い目になつて居りて、カ布を付ける時に合いませんが其れは全體を緩い目にして、付けてよいのです

男兒上着ブラース、ツボン

出来上り圖



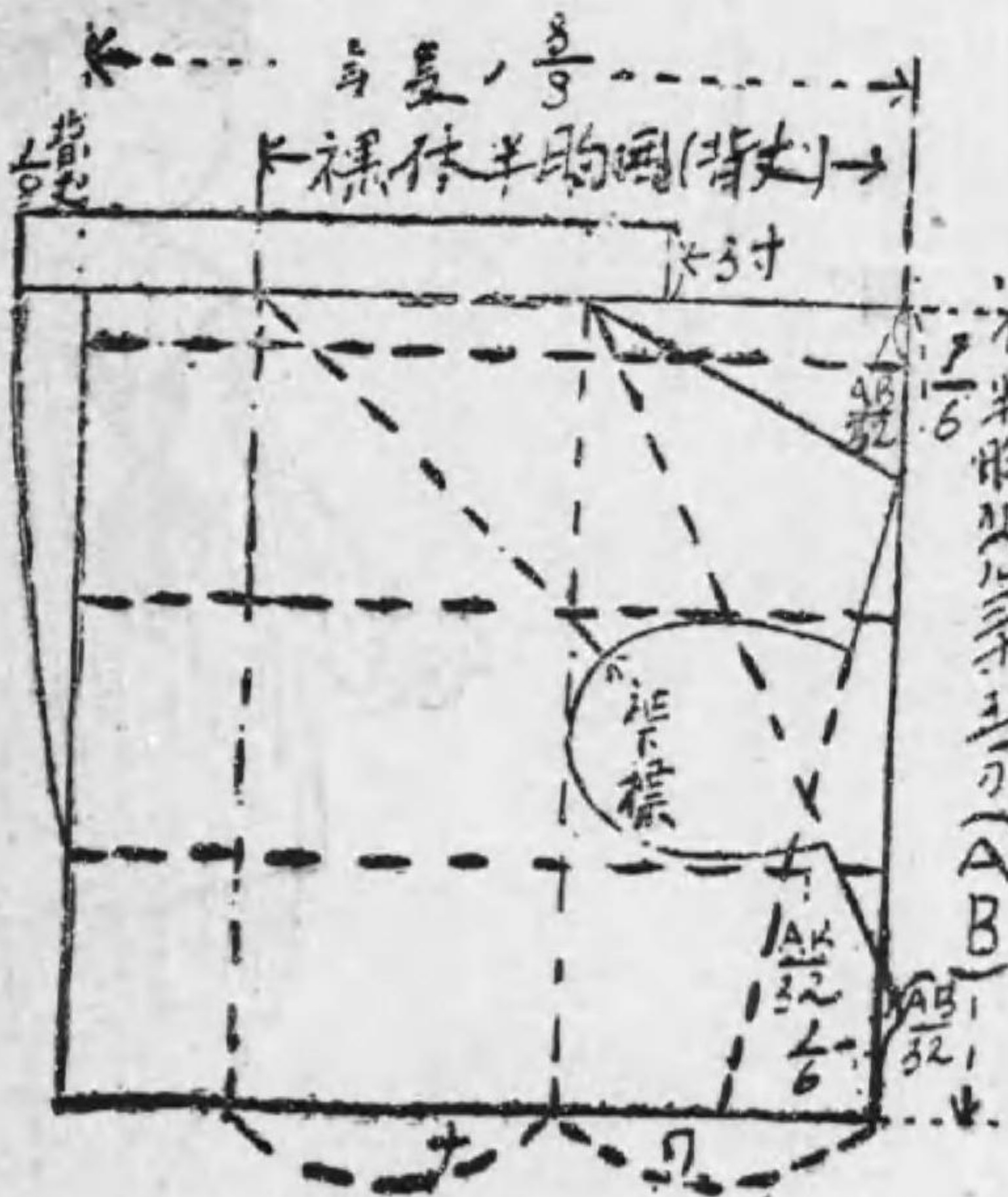
地質は

前と同じであります

製圖は

袖も、ツボンも前の水兵服と同じであります、身頃の製圖は前の水兵服よりも、身丈けを長く裁ちます、其の製圖は左の如し

(基礎寸法半胸用)



カラーの取り方も、カフスの取り方も、女兒水兵服と同じであります

縫ひ方順序

異なる点

ツボンの縫方

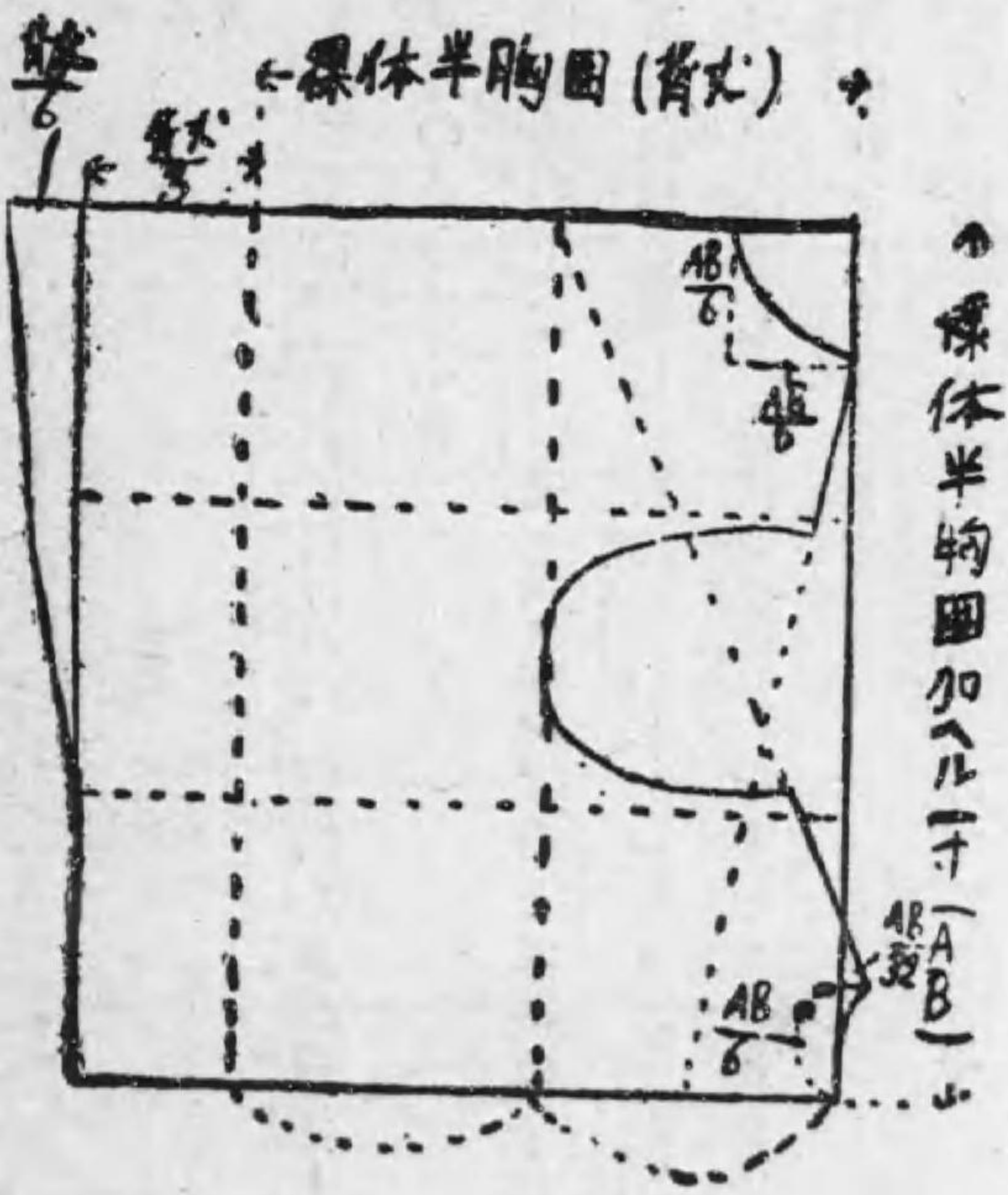
一、脇明きを明けずに、股上を明けて、持出し及び見返しを付けます  
持出し、見返の上り巾七分

其附け方は前後股上を、中央まで縫ひ、あとは縫はずに置きて、ツボンを穿て見る様にして、左に見返し、右に持出しを付けます、仕方はブロースの脇明きの所を應用すべし、持出しの上に、見返しを乗せて前後の上部を、丈夫にミシン縫をなして、門止めをして置きます

股上の持出し、見返しをスナップで止めて置きます

此のツボンは下着のシャツ、ウエストにブロースの如く、ボタン掛けにします

子供服裁縫獨習書  
ツボンに續くウエストの製圖



縫方は女兒水兵服のウエストに同じ。但し裾を三折にしてまつる事

胸當ての取り方及び附け方は女兒水兵服と同じ  
ツボンの上部とウエストの裾の幅が同じになる様に製圖すること  
例へばツボンの方に、全胸に對して四寸の餘裕を取りましたならば、ウエストの幅にも四寸の餘裕を取ること

上着ブラーシの縫方異なる点

一、ブラーシの裾を圖の如くでもよろしいのですが又はゴムテープを入れて、縮ませます襟肩のカラーの止まりの所へ、黒のリボンを結んで置くのもよろしい

男子上着(四、五歳)

出来上り圖

子供服裁縫獨習書



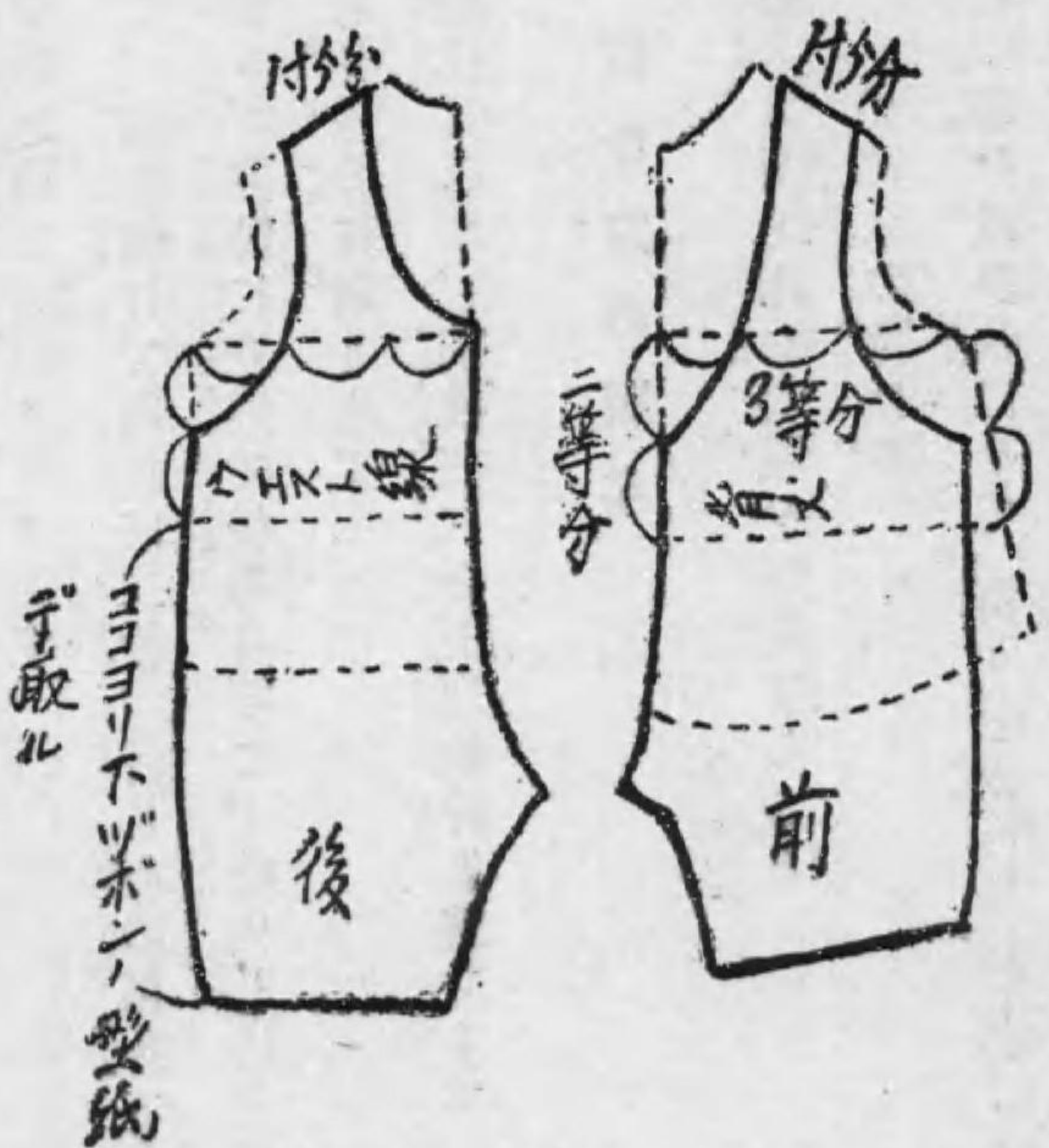
地質は前のごと同じ（ブライスが白ぼい者なればツポンは黒ぼい物で、異なる色がよろしい此れはツポンを肩で吊す様になつて居りますから幼児用には誠に便であります

ブライスの製圖

一、襟がウエストの如く丸くなる外は、男兒用水兵服の時と同じであります、但しカラーは付かざる事  
襟に女兒の如く、斜布で見返しを付けます

二、袖の製圖も前のごと同じ

ツポンの製圖



ブラーヌの型紙を脇より切り入ります

ツポンは脇で、前後續けて取れば二枚、若し布の都合で取れぬ時には、型紙通りの物四枚取ります、其時に左肩で後ろ身頃に、持出しとして一寸二分、前身頃に見返しとして、七分餘分に取ります

右肩は肩の縫代として、前後共二分五厘餘分に裁ちます

縫ひ方の順序

ブラーヌの縫方は男兒用水兵服を應用すること

ツポンの縫ひ方

- 一、前後左右の脇を縫ひ合はせて、折りを後ろに返して千鳥を掛けます、其の時裾の折返しの方は縫はざること
- 二、前後の股下を縫合はして、折りを後ろに返して千鳥を掛けます、此の時も裾の

折返しの分は縫はざること

- 三、股上を前後縫ひ合はせて、縫ひ目を割ります、尻當の付け方は男兒用水兵服の時ツボンと同じであります

四、裾口を三つ折にして、まつり付けます

五、右の襟肩を縫ひ合はせて、折りを後ろに返してまつります

六、左襟肩に、後ろ身頃に持出し、前身頃に見返しを付けます、左肩をボタンで止めて置きます

七、左右脇明きに斜布で見返しを付けます

八、襟肩明きに、斜布で見返しを付けます

九、此のツポンの時はブラーヌの肩に、釣り布を付けて置かざると、肩より滑り落ちます

釣り布は丁度肩巾と同じ長さの物を、圖の様に一方を劍形にして縫ひ、其の先き

にボタン穴を明け、肩にボタンを付けて置きます、此の釣り布は襟の見返しを付ける前に付けます

釣り布の圖



女兒外套

出で来る上り圖



地質は

厚地の柔い毛織、即ちラクダ、スコツチ、メルトン等にして、色合は紺、茶、オリーブ、銀茶等がよろしい

地質が薄き時には、総裏にしても、よいのでありますが、大抵は上半身丈けに附けます

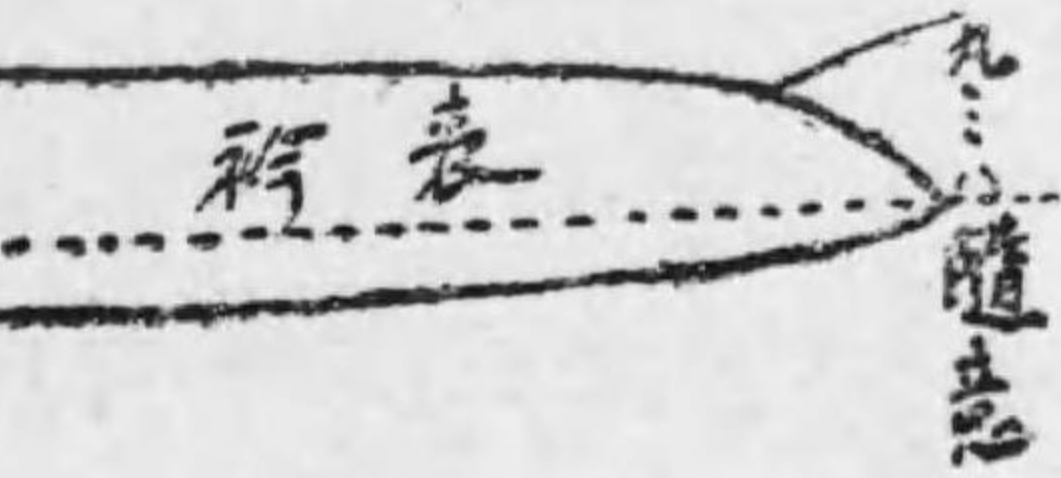
裏はスベリの上、絹子又は綾絹がよろしい

外套は洋服を着た上に着る故、胸圍を洋服を着た上から、量ります

製圖

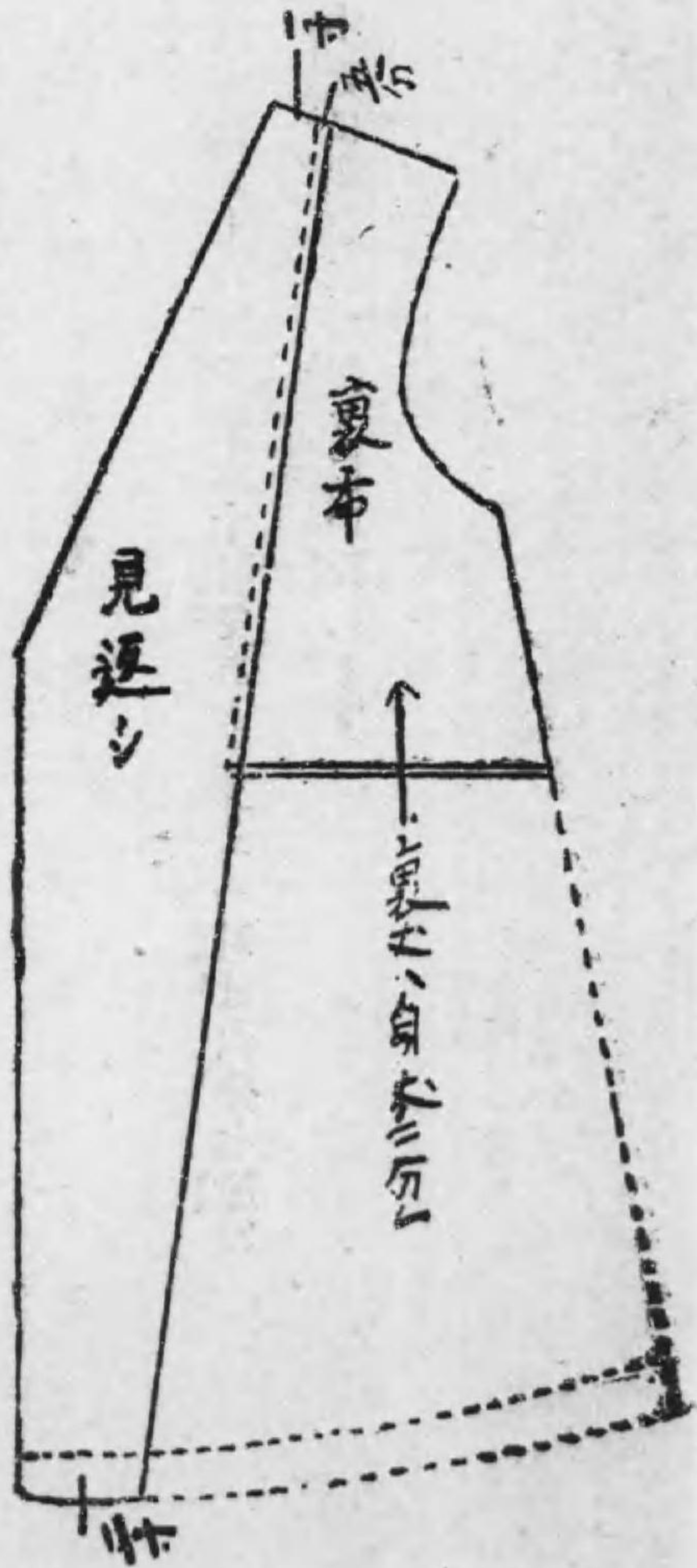


襟の取り方



襟の幅は、後肩の寸法に両端の縫代(六分)を加へます  
 襟の丈は、襟肩を斜合せてがら量ります  
 背の中央より、後襟肩、前の襟付の斜の寸法に、五分の縫代を加へたものを加へたもの  
 裏襟は表と同じに裁ちます

見返の取り方及び裏布の取り方



後の裏布は、表後身頃と同じ  
 但し裏布の丈けを身丈けの二分の一と定む

ポケット



裁ち切丈け五寸

裁ち切幅、四寸

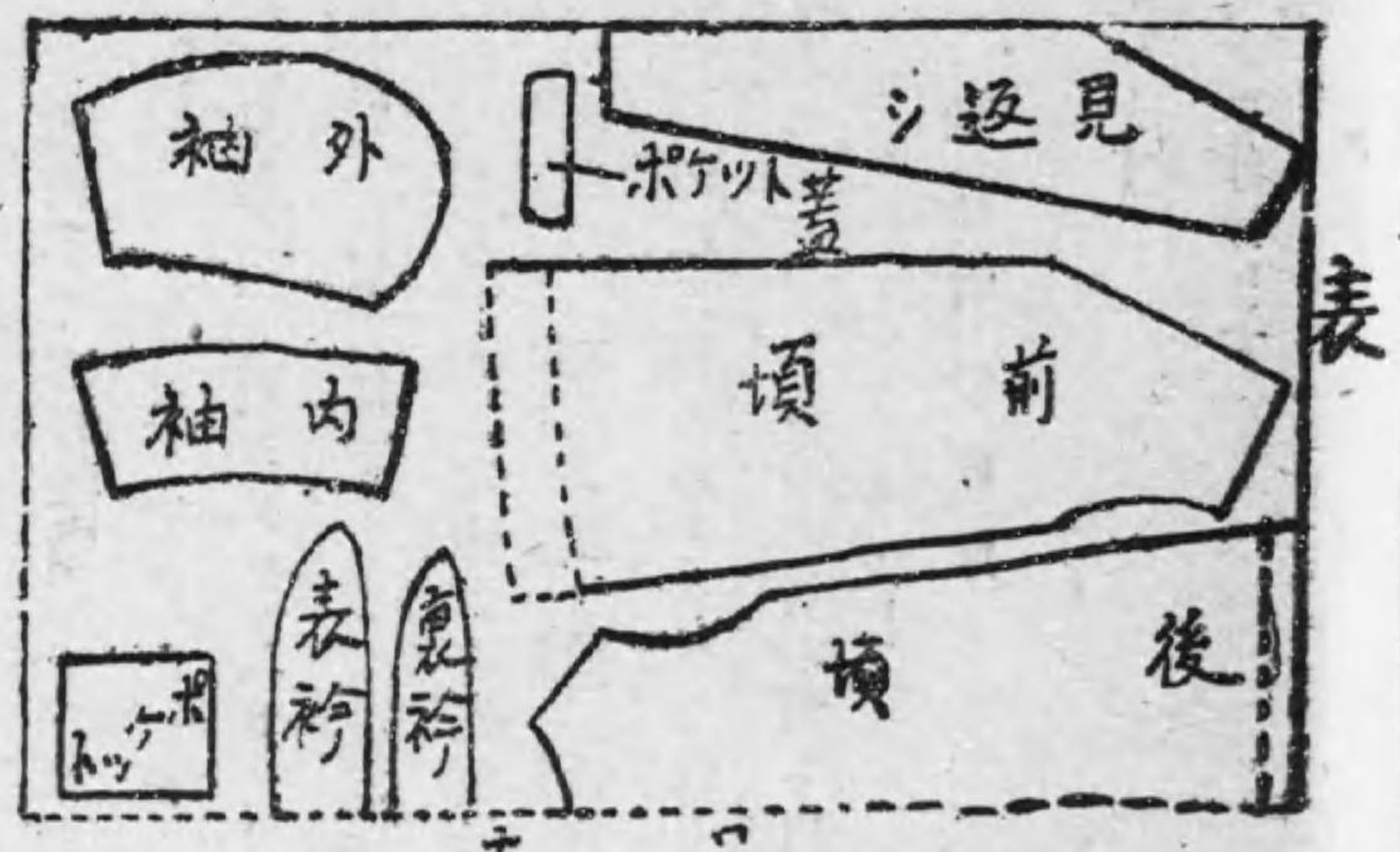
丈の下の方を五分位の丸味を附けます

ポケットの蓋布は裁ち切丈け二寸、幅四寸矢張下の方を五分の丸味を附けます

表地の裁ち方

羅紗布は大低五十八吋乃至六十吋であります(一吋は六分七厘)

中表に幅を二つ折りにいたします



裏布の裁ち方は、裏の身頃と、

袖と、ポケットの蓋だけ取りま

す

袖及びポケットの蓋は表布の取

り方と同じ

型紙當て方の注意

- 一、身頃及び見返し、袖、ポケット、ポケットの蓋は何れの時にても、縦に取る
- 二、襟は横若しくは斜に取る
- 三、何れの時にても、大きな物より先に取る
- 四、羅紗等の場合は、布巾が廣き故、後ろ身をワナで取る事が出来ませんが、木綿等の布巾の狭い時には後ろ身をワナで取る事は出来ませんから、後ろの中央、背にて縫代を取る、又後ろの背の裁ち目は必ず耳で取る

縫ひ方の順序

- 一、袖を縫ひます
- 二、ポケットを付けます

- 三、脇を縫ひます
- 四、見返しを付けます
- 五、裏布の脇を縫ひます
- 六、裏布の裾を、まつります
- 七、表布の裾をまつります
- 八、肩を剥ぎ合せます
- 九、襟を付けます
- 十、襟の折返し方
- 十一、袖を付けます
- 十二、前にボタンを付けます

袖の縫ひ方

- 一、表、裏別々に外袖と、内袖と合せて、袖山を縫ひます、縫目を割りて置きます
- 二、裏袖と、表袖と合はせて、袖を縫ひまして、折りを裏袖の方に返します
- 四、袖下を四つ縫ひにせず、裏から表へと續けて縫ひます、折りを内袖の方に返します
- 其時袖口止まりの處にて、袖下のツレる時には、切込みを入れます
- 四、袖を表に返ししまして、袖口で裏が二分位控へる様にします
- 五、袖口でツレタだけ、袖付の方にて裏袖が出ます故、表袖と揃へて、裁ち切り
- 六、左右同じ袖を作らぬ様に注意すること又縫代はごこも一抔にします

ポケットの附方

- 一、ポケット口を二分裏に折返し次に五分折返してまつるか若しくは表よりミシン

縫ひをします

- 二、ポケットの蓋を、表布と其布とを中表に合せて、周囲を二分の縫代で縫ひます  
但し上部は縫はさる事
- 三、表に返して上部を表、裏共二分裏に折り返します、但し裏布の方を少し控へ加減にします
- 四、前身頃の表に、ポケットを周圍二分位、裏に折返して、針を打ち、着者に當て、見て、手の出入の都合のよい處に、ポケットを付けて、周圍にミシン縫ひをします
- 五、ポケットの蓋の上部を、ポケット口より一分若しくは二分位上りて、蓋をミシン縫ひで付けます
- 六、ポケット口及び蓋の両端に門止めとします(左右共)

脇の縫ひ方

表布の脇を巾一杯に縫ひまして、折りを後ろに返して置きます

見返の附け方

- 一、裏布の前身頃と、見返しとを合せて縫ひます、其時裏布の裾を二分の三つ折りにして、折返して置きます、縫目を割つて置きます(左右共)
- 二、見返し布と、表布の前身頃とを合せて、襟付の斜めの下より、裾の折返しの上まで二分位の縫代にて縫ひ、裾口の處にては、裾口の折返しの上を縫ひまして見返し布の巾の裁ち目を、二分位縫ひ残して置きます
- 三、折りを見返しの方に返し、裾口を角に折りて表に返します
- 四、裾口を三つ折にして、シツケにて押へて置きます

- 五、見返し布の裁ち目を折りて、シツケにて押へて置きます

裏布の脇の縫方

裏布の後ろ身を合はせ脇を縫ひます、折りを表布の脇と同じに返します

裏布の裾の縫方

- 一、裏布の裾を三つ折にして、まつります
  - 二、表布の方の脇の縫ひ目に、千鳥を掛けます、又上仕立にするには、裏布と同じ巾で一分位に縁を取ります
  - 三、裾口をまつります、又は縁を取ります
  - 四、見返しの裁ち目を、シツケで押へて置きた處を、まつります又は縁を取ります
- 肩の接ぎ合せ方

肩を表、裏、別々に接ぎ合せます、縫ひ目を割つて置きます

襟の縫方及附方

- 一、裏襟と、襟の芯とを合はせて周圍を、シツケで押へて置きます  
襟の芯は、裏襟よりも縫代二、三分巾も丈も総體に少ないのであります
- 二、表襟と裏襟とを合はせて、襟の澤山丸味の付きて居る方を縫ひまして、表に返して今縫ひたる處に、表襟の方より、ミシン縫ひをします
- 三、表襟の方を、緩い目に裏襟の方を吊し加減にして、襟付の處をシツケで押へて置きます
- 四、身頃の襟付の處に、襟のシツケにて押へて置きた方を合はせて、身頃の背と、襟の中央とを合せます
- 五、襟を合はせる時に、表布の方に裏襟、裏布の方に表襟を合せて、身頃で襟を扱

んで、細かく半返しにて縫ひます

- 六、表に返して、襟付の處をおちつかす爲めに表襟の方より、ミシン縫ひをします  
又ミシン縫をせざる時には、鋺にてよく縫目をおちつかして置きます

襟の折返し方

襟を折返す時に、背にて襟付の處よりも、身頃の方に五、六分多く返る様にします  
襟先の處にては、襟付の處より返します

袖 附 け

- 一、身頃の合印と、袖下の縫代の處と合はせて待針を打ちます
- 二、袖の方が緩い目になりますから、外袖の出で居る處を縫ひ縮めます
- 三、袖を付けるときに、内袖の方が前巾にくる様になし、外袖の方は後身に方にな

る様にします

- 四、假りにシツケで袖付けを縫いて置きます
  - 五、表に返して、袖口が前巾の中央に自然に向く様に格好よく付きたなれば又裏に返して、本縫ひをします
  - 六、裏袖を表と同じ様に縫ひますが、全部ひ縫ませんから、半分まで縫ひ、表に返して後の縫ひ残してある處を、まつて置きます
- 裏裾を背の中央と、両脇二寸位づゝ千鳥を掛けて置きます

前のボタン付け

- 一、着者に着せて見て、前巾の重なりによりて、右身の方に飾りボタン二箇若しくは三箇を、位置よき處に付けます
- 二、左身の方にそれにならいて、穴掛りをいたします

女兒、男兒共通の二、三歳より五、六歳迄帽子(ハット)

出来上り圖



頭の周圍の量り方

餘裕として指二本を量る時に入れること  
 前は眉の上より、後ろは襟の毛の生際の處まで量ります

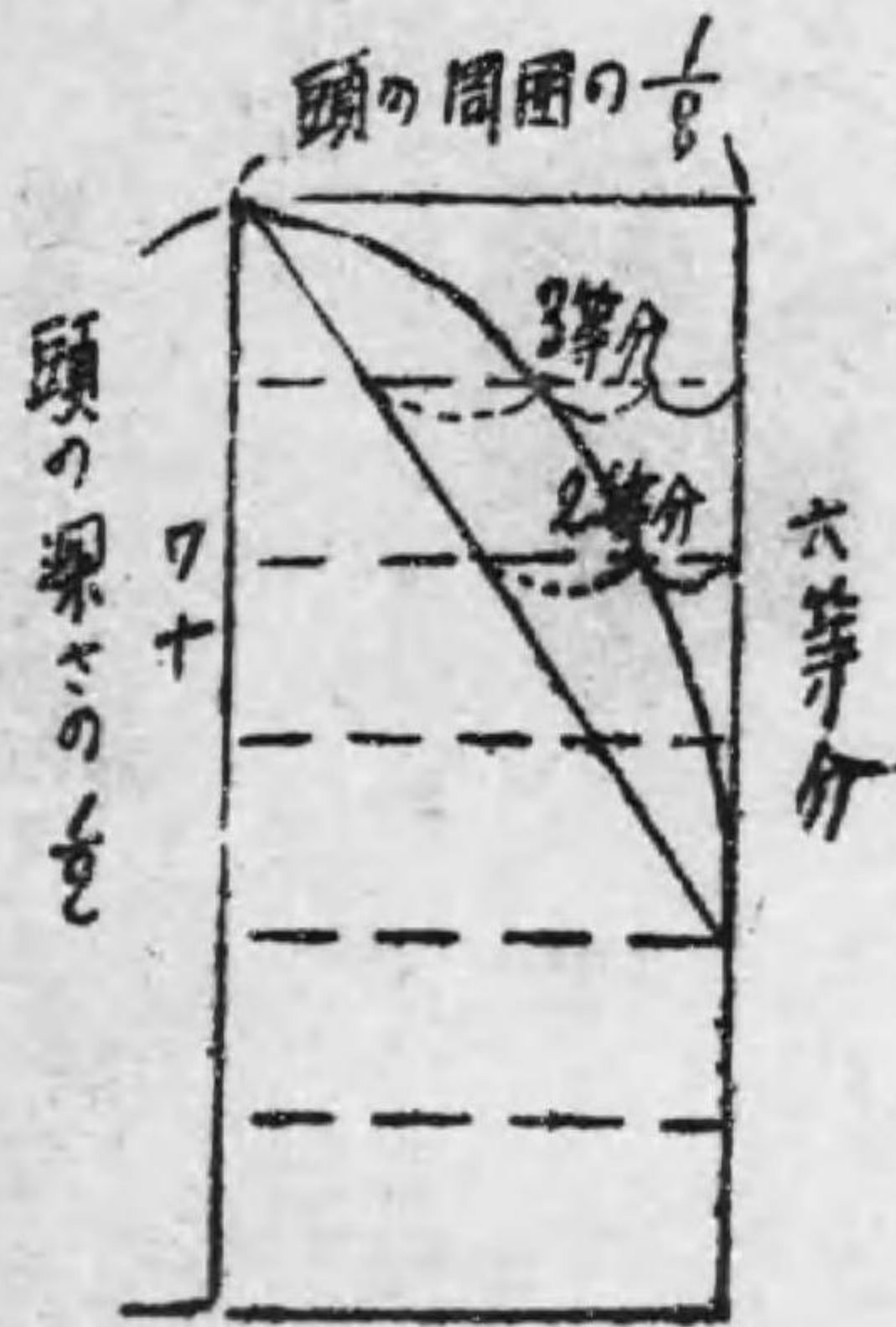
子供服裁縫獨習書

深さの量り方

餘裕として指二本を量る時に入れること

前は肩の上より、後ろは毛の生際の處まで深さを量ります

製圖



縫方の順序

裁つ時には此の型紙に、二分の縫代を取ることに

裏は表よりも五厘、大きく裁つこと

一、四枚の布を合はせて縫ひ、其の時二枚づゝ縫ひ合はせ、後に續けて其の四枚に縫合はせて縫ひ目を割ります

裏も表と同様になし、頂きにて裏、表一針止めて置きます

二、縁布の巾は、頂より端までの三分の一より少し廣きものを取りて其の幅の二倍に縫代を加へて、裁ち切巾とします

丈は頭の周囲に同じ、斜布にて取り、丈を縫ひ合はせ、頭布の端に縫付け、裏の縁を縫目にまつて置きます

若し縁を少し開き氣味に作る場合は、丈の十分の一位長く取り、後ろにても又

前<sup>まへ</sup>にても、脇<sup>わき</sup>にても隨意<sup>ずいい</sup>に形<sup>かた</sup>ちを撰<sup>えら</sup>びて、二寸<sup>すんごら</sup>位<sup>あひだ</sup>の間<sup>あひだ</sup>でゆるみ<sup>ゆるみ</sup>を縫<sup>ぬ</sup>ひ込<sup>こ</sup>みます  
飾<sup>かざ</sup>りは隨意<sup>ずいい</sup>

色<sup>いろ</sup>は樺<sup>かほいろ</sup>色<sup>いろ</sup>に黒<sup>くろ</sup>は配<sup>はい</sup>合<sup>が</sup>がよろしい

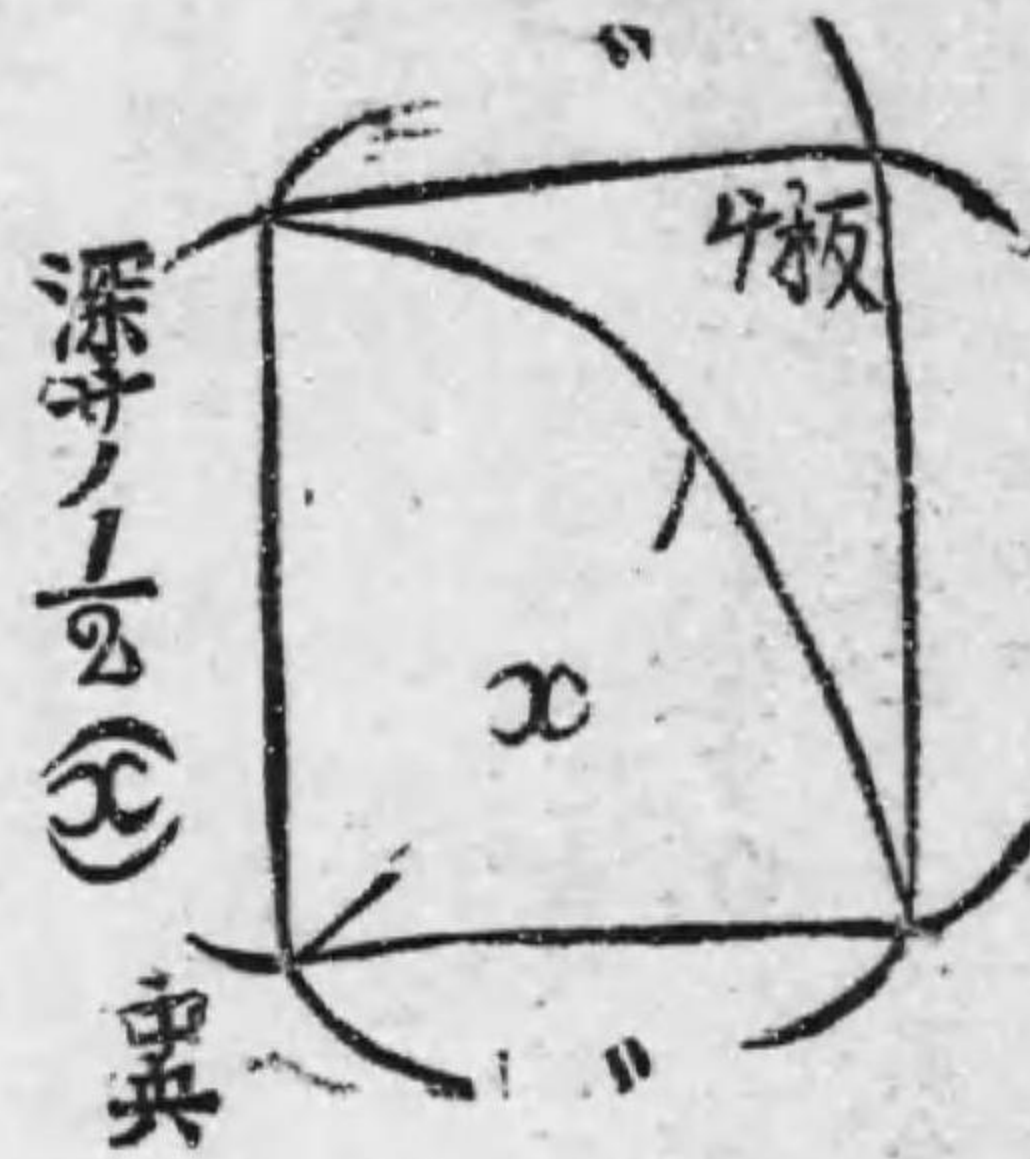
女<sup>め</sup>兒<sup>ご</sup>帽<sup>ぼう</sup>子<sup>こ</sup>(ハット)二、三<sup>に、さん</sup>歳<sup>さい</sup>より八、九<sup>はち、く</sup>歳<sup>さい</sup>まで用<sup>もち</sup>

出<sup>で</sup>來<sup>き</sup>上<sup>あ</sup>り圖<sup>ず</sup>



深<sup>ふか</sup>さ及<sup>およ</sup>び周<sup>まは</sup>圍<sup>り</sup>の量<sup>はか</sup>り方<sup>かた</sup>は前<sup>まへ</sup>と同<sup>おな</sup>じ

製<sup>せい</sup>



此<sup>こ</sup>の型<sup>かた</sup>を裏<sup>うら</sup>、表<sup>おもて</sup>共<sup>とも</sup>同<sup>おな</sup>じに取<sup>と</sup>ります

縫<sup>ぬ</sup>方<sup>かた</sup>の順<sup>じゆん</sup>序<sup>じゆ</sup>

一、表<sup>おもて</sup>、裏<sup>うら</sup>の頭<sup>づの</sup>布<sup>ぬの</sup>の周<sup>まは</sup>りを綴<sup>と</sup>合<sup>あ</sup>はせ置<sup>お</sup>きます(但<sup>たゞ</sup>し裏<sup>うら</sup>を心<sup>こころ</sup>持<sup>も</sup>ち、吊<sup>つ</sup>り加<sup>か</sup>減<sup>げん</sup>にしま



- 二、頭布の周圍を、頭の周圍に指二本の餘裕を加へる寸法に、縫ひ縮めて置きます
- 三、表、裏縁布の長さは、頭の周圍に餘裕を加へて、剝代を加へたるもの  
幅は二寸、丈の両端を、返し針にて細かく剝合はせて、割つて置きます、裏縁布は表より丈を、二分程詰て、同じく剝合はせ、縫ひ目を割ります
- 四、表、裏の縁布を合はせて、幅の一方を縫ひ合はせます、折りは裏の方に返し、表を二分程、裏より廣くなして巾の山に折を付け、上り巾一寸三分に三分を加へたる寸法で、巾標をして置きます
- 五、頭布の裏と、縁布の表と合はせて縫ひ(縫代二分五厘)折を縁布の方に返し、縁布を頭布の方に、折り返す時に三分加へた寸法を、頭布の裏に折り返すと、頭布の二分五厘の縫代が平になつて具合がよろしい  
裏の縁布を縫目にくけ付けます
- 六、飾りは随意にすること

## 型紙

型紙は本書に圖解を以て説明してあります故誰にも自由に出來る筈であります、  
若し面倒と思ふ方のために左記の實費にて提供します。

型紙 一組 金六十錢 送料六錢

但し型紙を御注文の時は必ず着用者の身長と胸圍を正確に計つて申込むこと。

## 子供洋服實費提供

女兒、男兒洋服は本書によりて、すべて裁縫出來ますが、實物の出來上り服があれば  
研究上參考になると云ふ御の爲めに本會にて裁縫して實費にて提供致します。  
但し時期により用布も違ひます故左の項記載の上御照會くだされば、用布と出來上

り値段を御通知申上ます。

- 一、着用者の身長、胸圍の寸法
- 一、女兒又は男兒、年齢
- 一、夏物又は合着、冬物

東京市京橋區岡崎町二丁目三十七番地

## 子供服裁縫獨習會

振替口座東京四八五七二番  
電話青山自三五八〇番の四〇番  
特設青山至三五八六番

用布及附屬品は著者の經營する「新井商店」にてよい品を安く販賣して居ります故何

なり共御用御せくださる様願います。

### 値段表

- 一、羅紗切ハサミ 八寸 一個 壹圓九拾錢
- 羅紗を裁つとき又は用布を切るには、なくてはならぬハサミです「切れ味は保證す」
- 一、糸切ハサミ 四寸 四十錢
- 一、同 三寸五分 三十錢
- 一、ボタン穴明りのみ五分 三十錢
- 一、同 三分 二十五錢

#### 一、男兒水兵服前ボタン

骨皿形小鈕

打六錢

此の鈕はウエストの吊りボタンにもなります

- 一、シャツボタン具三分四厘四つ穴 半グロス 三十錢
- 一、同 打 八錢
- 一、同 五分 打 十錢
- 一、同 七分 同 十錢

此の木鈕は共切にして包みて飾りボタンとするものであります

御注文は振替にて御送金になるのが一番安全であります、送料は二百匁目迄は書留で十八錢ですから加算して御送金を願ひます、ボタン類は商品見本便で送ります故送料六錢代金引換の御注文は送料實費にて送品します

東京市京橋區岡崎町二丁目卅七番地  
子供服地  
材料一式  
**新井商店**

振替東京九七一九番  
電話京橋三一五二番

### 用布の部

一、大のレース 曲一尺二付 九錢

此れは裾口に付けるレースなり

一、小のレース 曲一尺二付 五錢

此れはウエストの襟肩及び脇明に使用するレースなり

一、キヤリコ 巾鯨尺二尺四寸 一碼 四十五錢

鯨一尺二付 二十錢

一、一號シーチング 巾鯨二尺二寸 一碼 四十五錢

一、二號格子ゼツパー 巾鯨二尺 一碼 六十五錢

- 一、三號縞マドラス 巾鯨二尺一寸余 一碼七十五錢
- 一、四號モグサ 巾鯨二尺弱 一碼七十錢
- 一、五號格子ギンガム 巾鯨二尺一寸同 一圓十錢
- 一、六號白上等ピケ 巾鯨二尺 同 一圓十錢

七

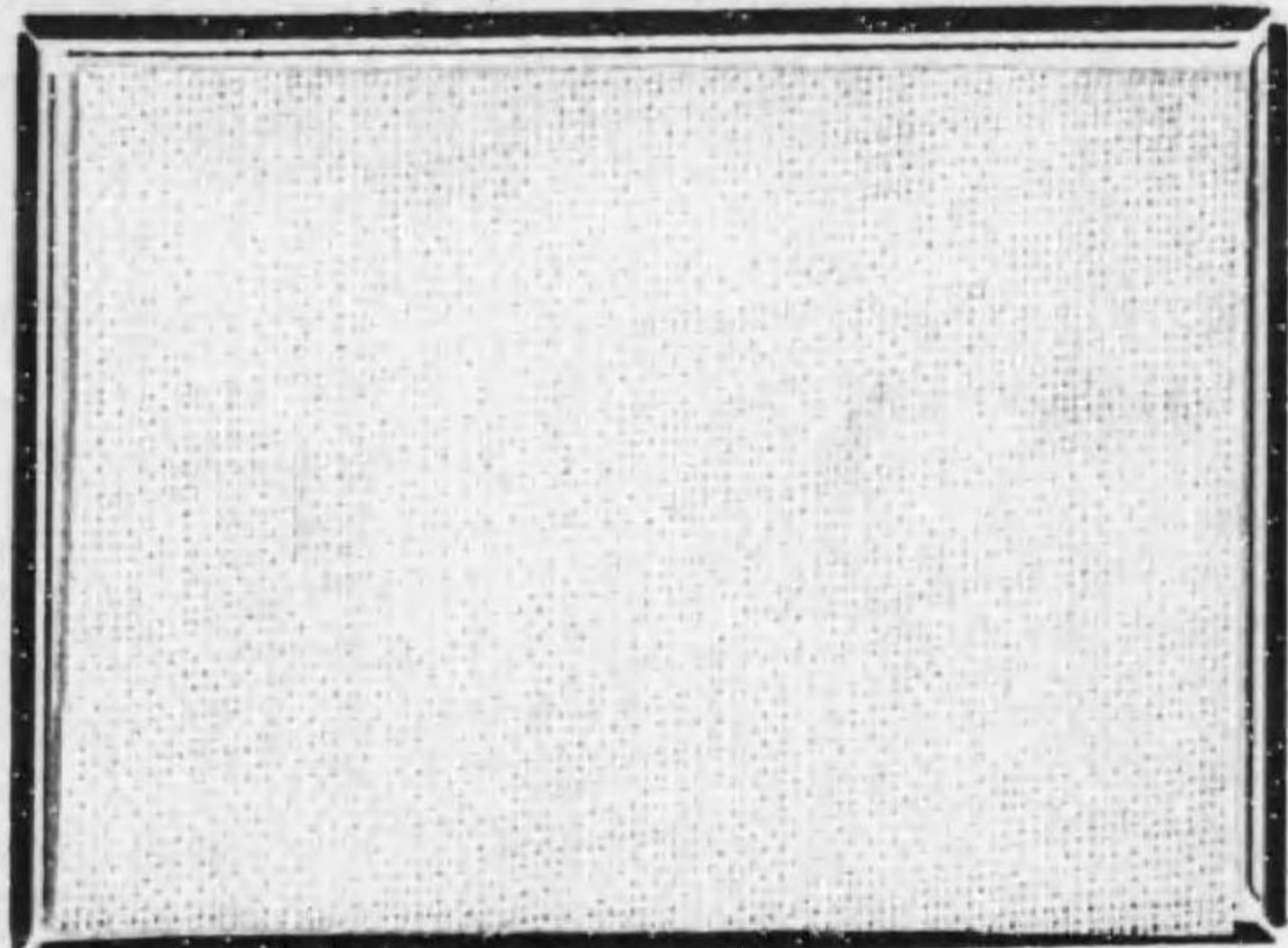
### ボタンの部

- 一、スナツブ釦 金物に凹凸のあるボタン、一枚三打付 十五錢
- スナツブは子供服には澤山使用されるものであります
- 一、男兒水兵服ツボン吊釦 六分二厘裏穴貝釦 打三十錢

一、男兒水兵服ツボン吊釦 六分二厘裏穴貝釦 打三十錢

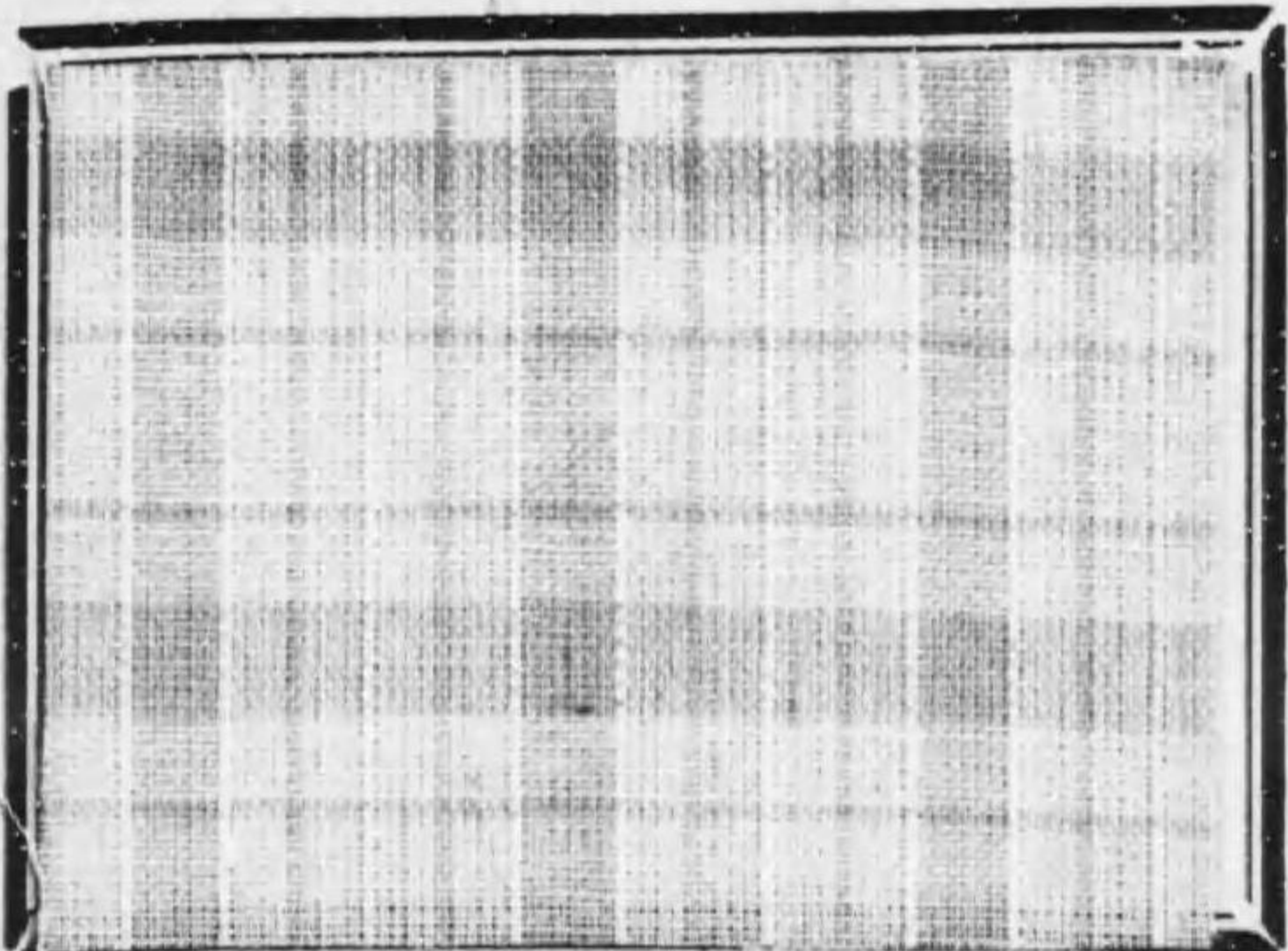
### 夏物生地實物見本一組

一號



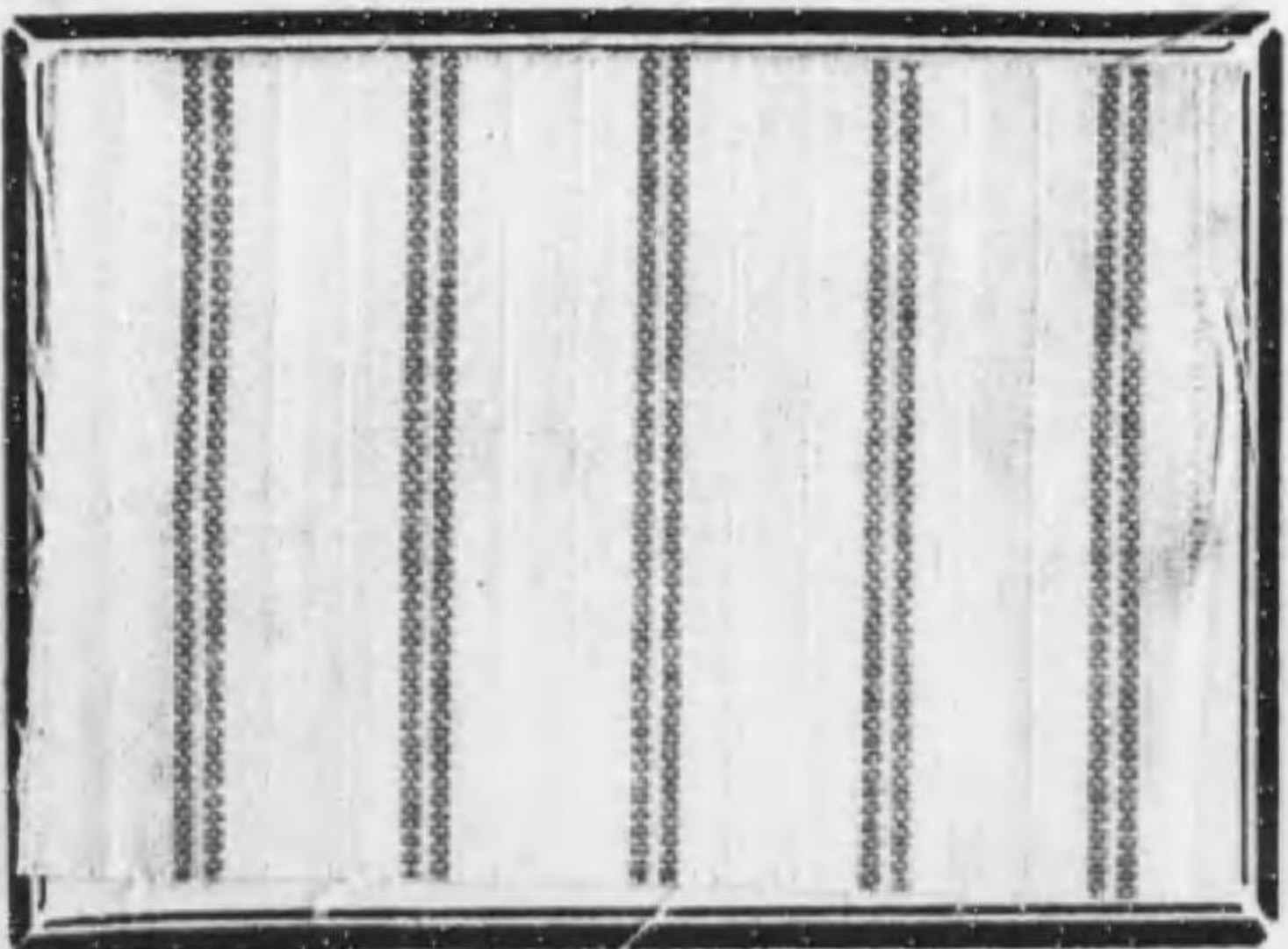
シーチング  
巾鯨二尺二寸余  
一碼四十五錢

二號



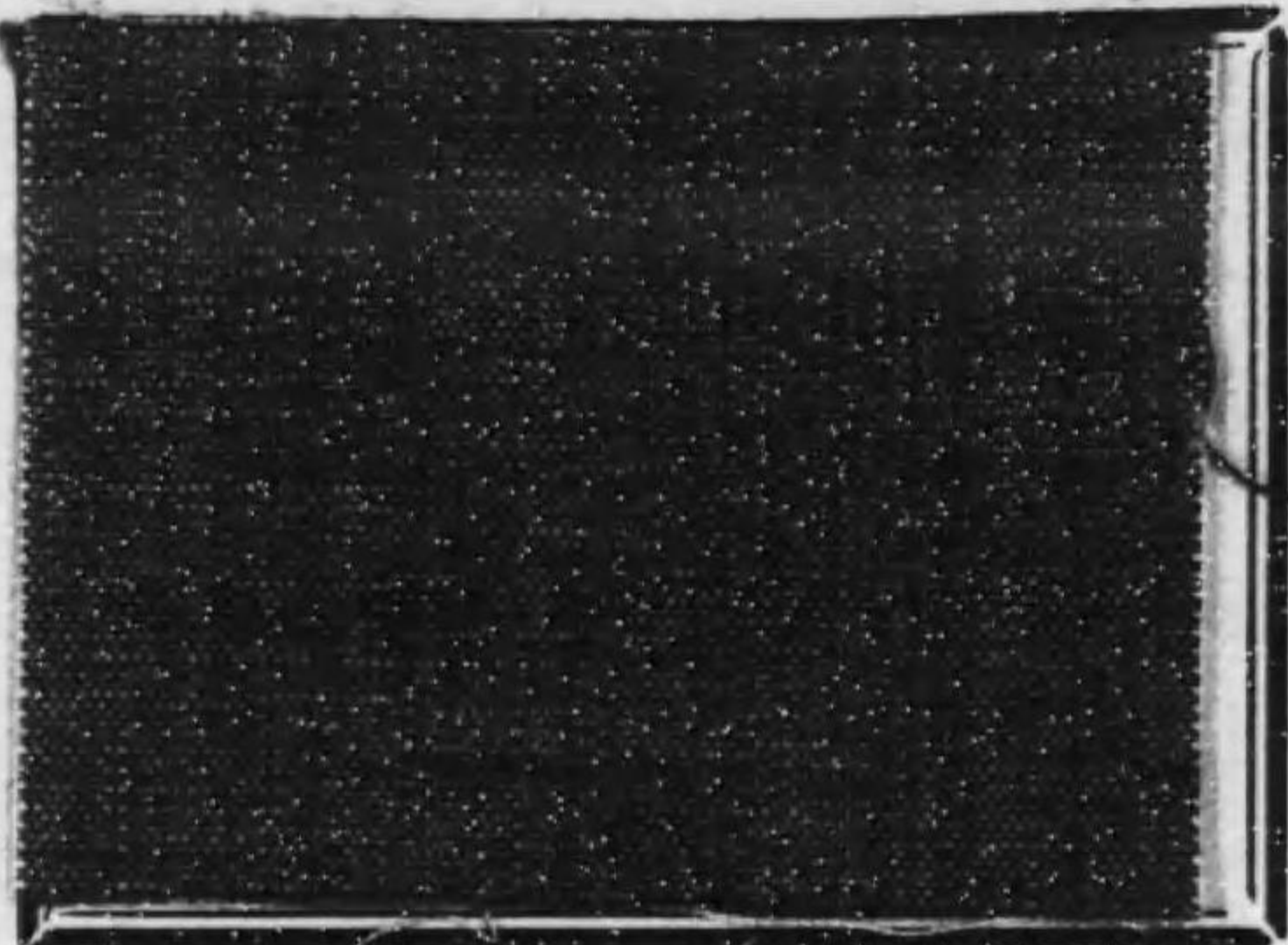
格子ゼツパー  
巾鯨二尺  
一碼六十五錢

三號



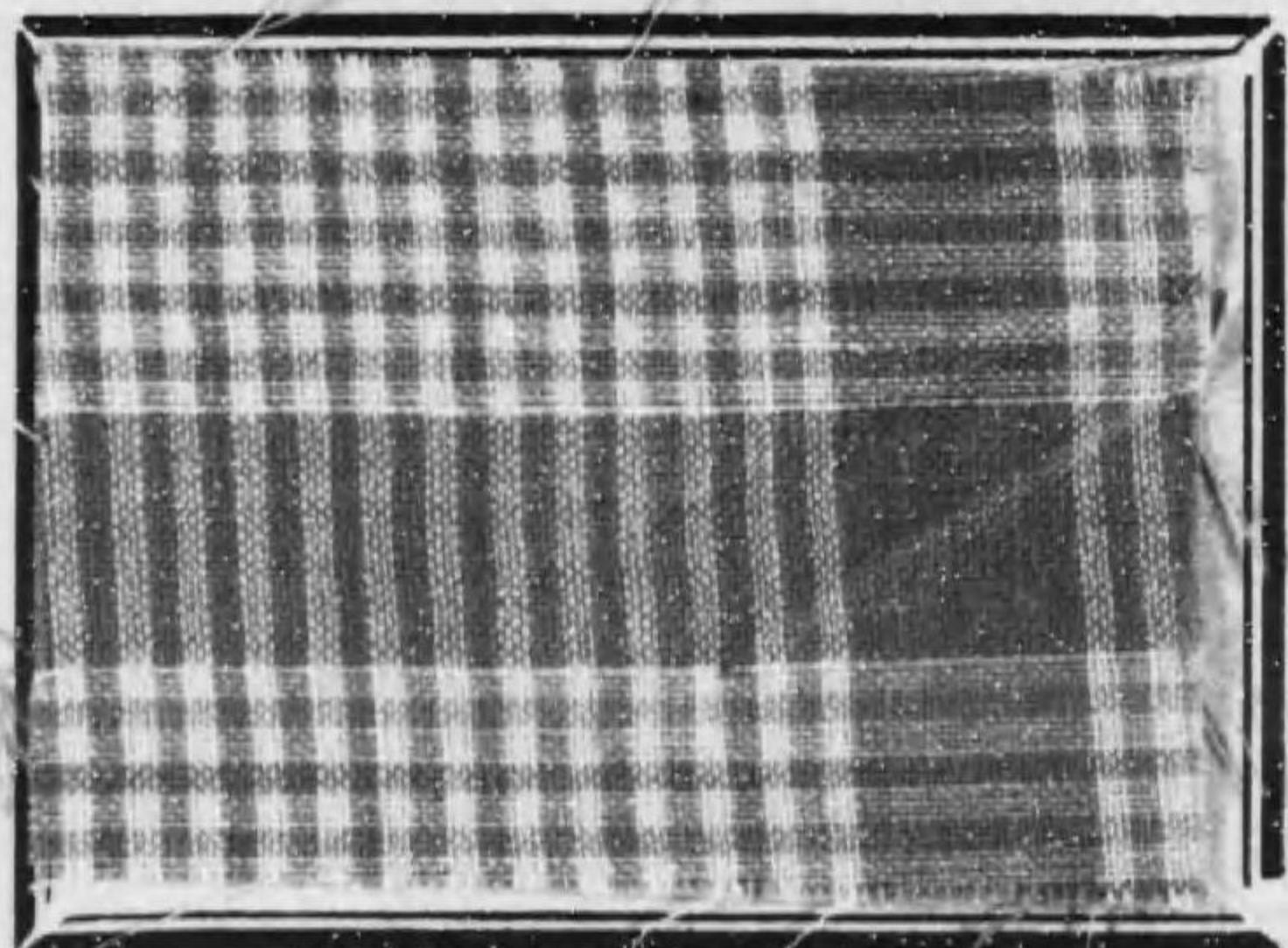
縞マドラス  
巾鯨二尺一寸余  
一碼七十五錢

四號



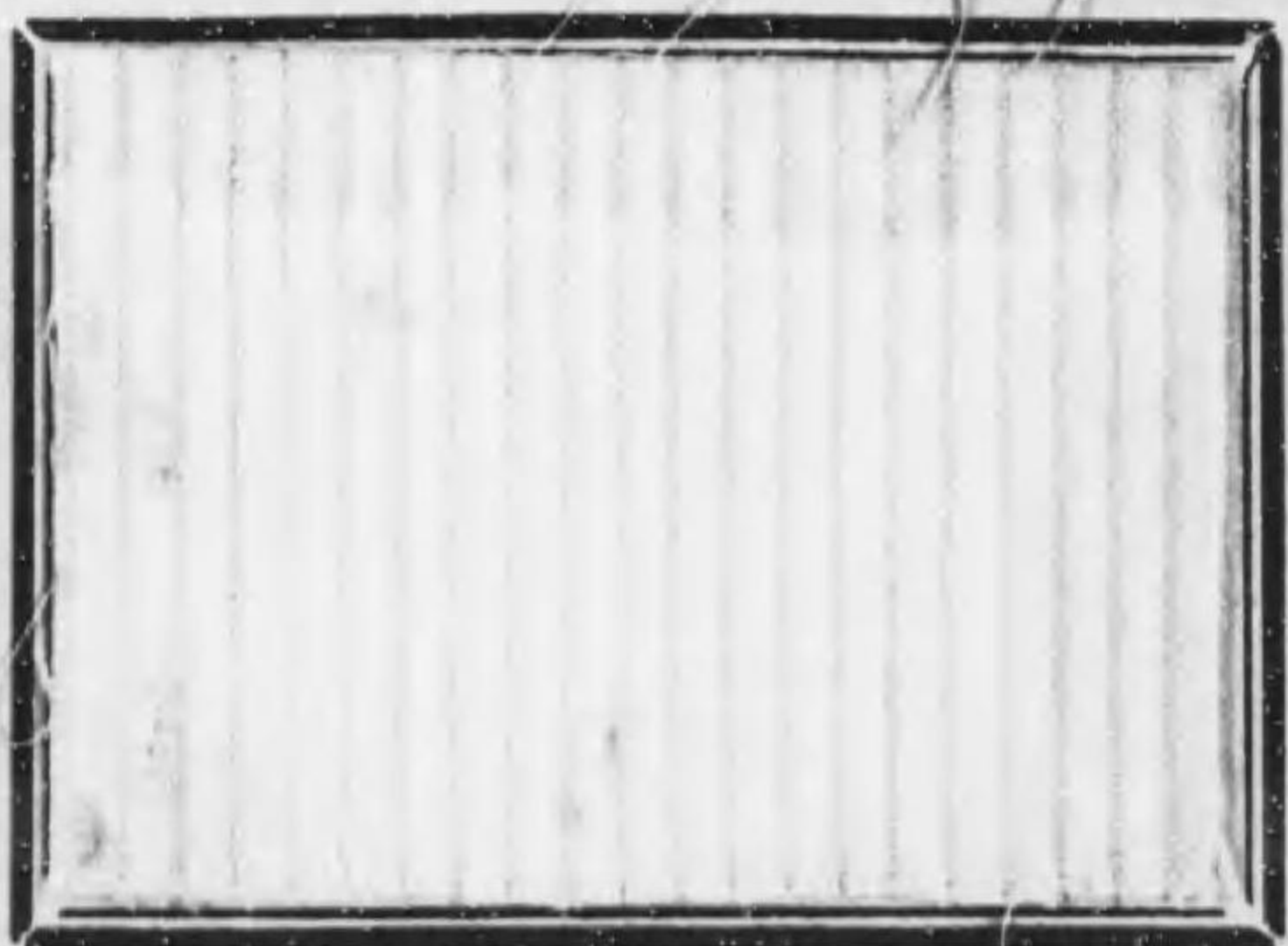
モグサ  
巾鯨二尺弱  
一碼七十錢

五號



格子ギンガム  
巾鯨二尺一寸  
一碼一圓十錢

六號



白上ビケール  
巾鯨二尺  
一碼一圓十錢

注意 生地見本は期節々々に發行可致しますから御入用の方はし料として二錢切手  
封入御申越しを願います  
備考(冬見本は十月春見本は二月夏見本は五月發行の豫定に有之候)

大正十三年七月十五日印刷  
大正十三年七月二十日發行

定價壹圓七拾錢

不許  
複製

東京市京橋區岡崎町二丁目卅七番地

編輯兼發行者 新井藤四郎

東京市麴町區富士見町四丁目八番地

印刷者 今關英一

東京市麴町區富士見町四丁目八番地

印刷所 新生舎印刷所

東京市京橋區岡崎町二丁目卅七番地

發行所 子供服裁縫獨習會

振替東京四八五七二番

528  
50



終